

## 感染症定期報告の報告状況(2005/9/1~2005/12/31)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/5	50403	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肉水	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50404	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	カザミノアシド	ウシの乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50405	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥痘そうワクチン 沈降精製百日せきワクチン コレラワクチン ジフテリアトキソイド ワイル病秋やみ混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド、中国	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50406	武田薬品工業株式会社	乾燥弱毒性麻しんワクチン 乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 弱毒性風しんワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50407	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ心臓透析外液	ウシ心臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50408	武田薬品工業株式会社	インフルエンザHAワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/5	50409	武田薬品工業株式会社	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚細胞	ニワトリ胚	日本	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50410	武田薬品工業株式会社	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	トリプシン	ブタ臓臓	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50411	武田薬品工業株式会社	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ペプシン	ブタ胃	アメリカ合衆国	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50412	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	バクトカジン	ウシの乳	ニュージーランド、アメリカ合衆国、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50413	武田薬品工業株式会社	乾燥弱毒性麻しんワクチン 乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	ウシ血清	ウシ血液	①②③アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア④⑤⑥ニュージーランド⑦アメリカ	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50414	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	スキムミルク	ウシの乳	アメリカ合衆国、日本	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50415	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風トキソイド 沈降破傷風トキソイド 降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肝臓	ウシ肝臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50416	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ウマ血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/5	50417	武田薬品工業株式会社	痘そうワクチン 乾燥痘そうワクチン	ウシ皮膚	ウシ皮膚	日本	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50418	武田薬品工業株式会社	乾燥弱毒性麻しんワクチン 乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン	筋アデニール酸	ウマ筋肉	アメリカ合衆国	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50419	武田薬品工業株式会社	ワイル病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギ血液	日本	製造工程	無	無	無			
2005/9/5	50420	武田薬品工業株式会社	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血清	日本	有効成分	無	無	無			
2005/9/5	50421	東菱薬品工業株式会社	ヘモコアグラージェ注射液	ヘモコアグラージェ	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			
2005/9/6	50422	ファイザー株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの腸	米国	有効成分	無	無	無			
2005/9/6	50423	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン インフルエンザHAワクチン 乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン インフルエンザワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシ乳	オランダ	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウエイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/9/6	50424	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	ラクトアルブミン	ウシ乳	アメリカ、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウエイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/6	50425	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	血清	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェブリンズ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/9/6	50426	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ペプトン	ブタ胃	アメリカ、日本	添加物 製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12): 2156-60	米国においてブタから七面鳥へのH3N2インフルエンザウイルスの異種間伝播が確認された。
											コロナウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3):446-8	2003年春にSARSの大流行が起こった中国においてブタから分離されたSARS関連コロナウイルス(SARS-Cov)の塩基配列、疫学解析を行った結果、直接的な証拠はないが、ヒトを起源とするSARS-Covのブタへのウイルス伝播が示唆された。
2005/9/8	50427	日本ビーシージー製造株式会社	精製ツベルクリン	乳糖	ウシ乳	オランダ、ベルギー、ドイツ、ルクセンブルク	添加物	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、曝露から60ヶ月後にBSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後でも無症状であった。臨床的にBSEを発症したサル脳5gを同様に摂取させた研究では44ヶ月後、47ヶ月後に発症した。BSEの異種間の伝播の潜伏期間は同種間の機関より長いと推測された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	TRENDS in Cell Biology 2005 Feb;15(2)	PrPcがPrPscに変化する可能性のある細胞部位についての研究。小胞体はプリオン病の遺伝子における変異型PrPへの転換において主要な役割があるが、原型質膜へのPrPcの輸送とそれに続く吸収がプリオン病の感染型におけるPrPcの転換に要求されていると考えられる。さらに、PrPcとPrPscが関与している膜領域もまた、変換のプロセスに重要であると考えられる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(9):5259-71	完全なウシプリオン蛋白 (BoPrP) を表現するトランスジェニックマウス (Tg) は伝播のバリアーなしにBSEプリオンを連続的に遺伝させる。Tgマウスはヒツジスクレープ・プリオンにも伝播のバリアーを示さない。このことは、ウシがある種のヒツジスクレープ・プリオンタンパクに高い感受性があることを示唆している。種間のプリオン伝播に観察される種間バリアーの大部分は、株間バリアーであると考えられる。Prpの配列の相違が、異なる種のプリオンの伝播を必ず防御するわけではな
2005/9/8	50428	日本ビーシージー製造株式会社	精製ツベルクリン	全卵	ニワトリの卵	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2189-91	インフルエンザA (H5N1) ウイルスが大流行中の2003年12月、タイの動物園でトラ、ヒョウが高熱と呼吸器の症状で死亡した。これはH5N1型の宿主域が拡大され、ネコ科動物に対して強い病原性を持つようになったことを示唆するかもしれない。
											トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2005;11(11):699-701	2004年10月、タイでの2度目の鳥インフルエンザ (H5N1) の大流行。生のニワトリの死体の餌を中止した後も発病が確認されたことになる。トラートラ間の水平伝播による感染が疑われる。
2005/9/8	50429	帝国臓器製薬株式会社	日局胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国、ブラジル	有効成分	有	無	無	ニパウイルス	Bangladesh International Disease Research Center-HP (ICDDR, B) 2004年	2004年2月から4月にバングラディッシュでのニパウイルスのヒト-ヒト感染伝播についてバングラディッシュ国際下痢性疾患センター (ICDDR) からの報告。36名が感染確定、27名が死亡。患者に1回曝露しただけで死亡した例も2例ある。
											コロナウイルス感染	European Respiratory Journal 2005;25(1):12-14	中国において、SARS-CoVのRT-PCRの陽性反応がウイルス学的にSARSと確定された45名の患者について。RT-PCR検出で陰性になるまで平均13日であった。陰性となるまで個人環境の管理が重要となる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	WHOホームページ2000年5月	ヒトH5N1感染が、2005年1月から4月に北部ベトナムで発生。2004年のアジアの他の地域や同時期に南ベトナムで発生したものといくつかの点で異なっていることが考えられる。相違点としては、北において、南より、症例集積が事例数が増加傾向、発生期間が延長、臨床症状のない感染が検出され、感染の年齢層の広がりや死亡例が減少しているなどがあげられている。これはウイルスが抗原的に多様化していることを示唆している
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050704-0040(Direccao-Geral de Saude)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Infection in Medicine 2005;118	厚生労働省は2005年2月4日、日本で初の変異型ヤコブ病(vCJD)を確定したと公表した。この日本人男性患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。
											トリインフルエンザ	The Jakarta Post Jul 26 2005	インドネシア政府は、ジャカルタ郊外でH5N1型鳥インフルエンザにより死亡した家族は鳥の糞に含まれる鳥インフルエンザウイルスによって感染した可能性があると発表。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Reuters News 2005年7月29日	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
2005/9/8	50430	帝国臓器製薬株式会社	日局カリジノゲナーゼ	カリジノゲナーゼ	ブタ隣臓	中国	有効成分	有	無	無	トリインフルエンザ	The Jakarta Post Jul 26 2005	インドネシア政府は、ジャカルタ郊外でH5N1型鳥インフルエンザにより死亡した家族は鳥の糞に含まれる鳥インフルエンザウイルスによって感染した可能性があると発表。
											レンサ球菌感染	WHOホームページ2005年8月3日	206例中38例が死亡と報道。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/8	50431	日立化成工業株式会社	-	アレルギー性疾患患者から抽出、精製した抗アレルギー性物質	ヒト尿	日本	有効成分	有	無	無	HIV	Infection Diseases Weekly Report Japan 2005年第5週	2005年2月、ニューヨーク市保健衛生局は、抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が2004年12月、高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行したと発表。本症例により注目すべき点は、薬剤耐性のエイズウイルス感染症が確認されたこと、また、疾患の進行が急速であることがあげら
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	2005年2月、ニューヨーク市保健衛生局は、抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が2004年12月、高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行したと発表。本症例により注目すべき点は、薬剤耐性のエイズウイルス感染症が確認されたこと、また、疾患の進行が急速であることがあげら
											細菌感染	Infection Diseases Weekly Report Japan 2005年第8週	44頭のカニイサルが平成17年2月17日にフリピンから輸入され茨城県にあるサル輸入検疫施設に輸入された。このうち4頭から2月24日に細菌性赤痢菌が分離された。また、3月4日に別の1頭からも菌が分離された。
											HIV	Infection Diseases Weekly Report Japan 2005年第16週	今期間(H17年1月3日～4月3日)における法定報告に基づく新規のHIV感染者報告数は207件で前年同時期の新規報告件数(150件)より増加している。
											サルモネラ	感染症学雑誌 2004;78(11):989-90	H15年9月、日本においても多剤耐性 Salmonella Newportが存在していることが確認された。患者は7歳男児。17種類の抗菌剤感受性試験を行い、11種に耐性を確認。耐性パターンは米国分離されている多剤耐性菌のものを類似していた。遺伝子検査の結果、米国で分離されている多剤耐性菌のCYM-2遺伝子を保有していた。
											E型肝炎	食品衛生研究 2005;55(2):49-51	平成15年2月にシカ肉を喫食した4名が急性肝炎を発症した。冷凍生シカ肉からE型肝炎ウイルスが検出し、原因と決定した。特定の食品摂取とE型肝炎ウイルスによる食中毒の直接的な関係が証明された初の本邦例。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	2005年2月4日、CJDサーベイランス委員会及び厚生科学審議会疾病対策部会にて、輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。この患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	40歳の男性が平成13年12月にCJDを発症。平成元年に渡英歴あり。の続報。H17年3月5日、厚生科学審議会疾病対策部会にて、感染原因としてBSE肉の摂取が感染原因である可能性が高いと結論。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	薬食安発第041016号 H17年4月1日	国内初のvCJD症例として確定された事例をうけての、国内での採血時の規制。1996年以前に英国に1日以上滞在した人など、欧州への渡航者からの献血用の採血を見合わせるなど。
											サルパルボウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190:1900-07	サルのパルボウイルス病 (SPV) が潜在的な人畜共通の伝染病と考えられる調査結果。マカク属のサルを取り扱う人の血清サンプルかをウエスタンプロット法で検査したところ、51%サルパルボウイルスに感染していることが判明した。
											ウエストナイルウイルス	Transfusion.2005;45(4):480-86	2002年、米国でウエストナイルウイルスが流行。輸血によって感染した初の症例が報告された。血液センターと共同で1468本の冷凍血漿をウエストナイル熱の多発地域から選択的に回収し酵素免疫測定、核酸増幅試験により調査した。結果、輸血によるWNVの感染の可能性が示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年8月に徳島県で日本紅斑熱患者の飼犬からリケッチア感染が確認された。
											流行性耳下腺炎	Infection Diseases Weekly Report Japan2005年第30週	流行性耳下腺炎が2005年第30週までの小児科定点からの累積報告数は103,692例であり昨年同時期の62,742例を大きく上回っている。また本年15週以降は常に過去5年間の同週の平均値を上回っている。本疾患が過去10年間において4年周期で流行するのと同じであり、2005年が流行年予測されている。本疾患の流行に伴ってムンプスウイルスによる無菌性髄膜炎の報告も増加しつつあり、今後の本疾患の報告推移には十分な注意が必要である。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/12	50432	アボット・ジャパン株式会社	レビパリンナトリウム	レビパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜ヘパリン	中国	有効成分	有	無	無	サルモネラ	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2225-7	2001年、オランダの農場にて、異型の鼠チフス菌(DT104A変異株)の、非経口の動物-動物間及び動物-ヒト間の接触感染が示唆された。
2005/9/13	50433	日本シーリング株式会社	レビパリンナトリウム	レビパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
2005/9/13	50434	日本シーリング株式会社	インターフェロンベータ-1b(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	HTLV	ProMed20050227-0040(Reuters News 2月25日)	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある、第12回 Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。
											HIV	The Lancet 2005;365(9464):1031-8	現在市販されている抗レトロウイルス剤に耐性を示したHIV-1変異株感染例の報告。2004年12月にヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)感染と診断された男性の症状は20ヶ月以内(おそらくは4ヶ月以内にAIDSに進行した)。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
2005/9/13	50435	光製薬株式会社	ダルテパリンナトリウム注射液	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	コロナウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3):446-8	2003年春にSARSの大流行が起こった中国においてブタから分離されたSARS関連コロナウイルス(SARS-Cov)の塩基配列、疫学解析を行った結果、直接的な証拠はないが、ヒトを起源とするSARS-Covのブタへのウイルス伝播が示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/14	50436	東和薬品株式会社	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	魚類の軟骨抽出物	アメリカ	添加物	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、曝露から60ヶ月後にBSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後でも無症状であった。臨床的にBSEを発症したサル脳5gを同様に摂取させた研究では44ヶ月後、47ヶ月後に発症した。BSEの異種間の伝播の潜伏期間は同種間の機関より長いと推測された。
2005/9/15	50437	日本メジフィジックス株式会社	診断薬	テクネチウム大凝集人血清アルブミン	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			
2005/9/16	50438	日本医薬品工業株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
2005/9/16	50439	社団法人 北里研究所	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ハートエキス	クジラ心臓	不明	製造工程	無	無	無			
2005/9/16	50440	社団法人 北里研究所	日本脳炎ワクチン	マウス脳乳液	マウス脳	①②日本、③④不明	製造工程	無	無	無			
2005/9/16	50441	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/9/16	50442	社団法人 北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド	ヒツジ血清	ヒツジ血液	①～③米国、④～⑥不明	製造工程	無	無	無			
2005/9/20	50443	東菱薬品工業株式会社	-	ソルコセリル	幼牛血液	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	無	エボラ出血	Emerging Infectious Diseases 2005;11(2):283-90	2001～2003年にガボン共和国及びコンゴ共和国でヒトで流行したエボラ出血熱について、野生動物のエボラウイルスによる死体を採取し、検査した結果、類人猿のみでなく、小型レイヨウ(牛科)であるduikerからもエボラウイルスが検出された。
											電撃性紫斑病	Clinical Infectious Diseases 2005;40:941-7	2000年～04年、スーパー抗原毒性ショック症候群毒素-1(TSST-1)、レンサ球菌性エンテロトキシン血清型B(SEB)もしくはレンサ球菌性エンテロトキシン血清型C(SEC)を高レベルで生産する黄色ブドウ球菌が直接関連する電撃性紫斑病の初めての5症例について。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12): 2156-60	1997年の洪水の後、チェコ共和国のLanzhotから10kmの範囲で採集された雌のCulex pipiens (アカイエカ)をホモジネートしたものを混ぜて授乳したマウスの頭蓋内からWNVと深く関係があり、且つ今までに類のないワビビールズ株(97-103)の抗原性や、マウスの特異的毒性のみならず、完璧なゲム配列と系統的解析について判明した結果について。
											HTLV	PNAS May 31 2005;102(22):7994-9	ヒト細胞リンパ親和性ウイルスとサルT細胞リンパ親和性ウイルスの系統は明確に関連している。今回、複数のサルT細胞リンパ親和性ウイルス(STLV-1)様ウイルスのヒトへの感染についての報告。
2005/9/20	50444	株式会社フジモト・ダイアグノスティックス	-	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液血清	日本白色種家兔皮膚抽出液	中国	有効成分	無	無	無			
2005/9/20	50445	財団法人 化学及血清療法研究所	ワイル病治療血清	血清	ウサギ血液		製造工程	無	無	無			
2005/9/20	50446	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむしウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
2005/9/20	50447	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
2005/9/20	50448	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/9/20	50449	財団法人 化学及血清療法研究所	ワイル病治療血清	肝臓	モルモット肝臓		製造工程	無	無	無			
2005/9/20	50450	財団法人 化学及血清療法研究所	ワイル病治療血清	血液	モルモット血液		製造工程	無	無	無			
2005/9/20	50451	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ハートエキス	クジラ心臓	補鯨国: 日本	製造工程	無	無	無			
2005/9/20	50452	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶ毒	ハブ毒素	日本	原材料	無	無	無			
2005/9/20	50453	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむし毒	マムシ毒素	日本	原材料	無	無	無			
2005/9/20	50454	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン	脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/20	50455	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血液		有効成分	無	無	無			
2005/9/21	50456	持田製薬株式会社	日本薬局方 注射用胎盤性性腺刺激ホルモン	日局 胎盤性性腺刺激ホルモン	ヒト(妊婦)尿	中国	有効成分	有	無	無	トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352(4):333-40	2004年タイにおける鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	2005年2月4日、CJDサーベイランス委員会及び厚生科学審議会疾病対策部会にて、輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。この患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。
											トリパノソーマ症	The Weekly Epidemiological Record 2005;80(7):61-4	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											HTLV	Reuters Foundation AlertNet,Newsdesk 26 Feb 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性があると、第12回 Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(8):7-8	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年4月21日	2005年4月19日現在、アンゴラ保健省はマールブルグ出血熱症例266例を報告。うち239例は死亡。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Seattle Post seattlepi.com news 21 Apr 2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministerio da saude Direccao-Geral da Saude Comunicado, lisboa (2005年6月9日付)	ポルトガル当局は、ポルトガルで初のvCJD患者を報告した。患者は12才男児。イギリスへの渡航歴はない。CJD共同研究グループのvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。
											レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月3日	2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大。中国当局は206例中38例が死亡と報道。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Reuters Foundation Alter Net newsdesk2005年7月29日	2005年7月、スペインで初のvCJD感染によると思われる死亡例。スペイン厚生省によると、確認のため検体は英国のエジンバラの専門家へ送られている。患者は神経組織を多く含む動物製品を食べ、動物も汚染された餌を摂取していたと考えられている。この場合の潜伏期間は5年~10年と思われる。
2005/9/21	50457	メルクホエイ	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸	中国	有効成分	無	有	無			
2005/9/21	50458	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌荚膜ポリサッカライド	肺炎球菌荚膜	米国	有効成分	無	無	無			
2005/9/21	50459	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	リボヌクレアーゼ	ウシ臓臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/9/21	50460	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	デオキシリボヌクレアー	ウシ臓臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/9/21	50461	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	トリプシン	ウシ臓臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/9/21	50462	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
2005/9/21	50463	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	ハートインフュージョン培地	ウシ心臓、ウシ骨格筋、ウシ脂肪細胞、ウシ骨髄、ウシ結合組織	米国、カナダ、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/9/21	50464	萬有製薬株式会社	肺炎球菌ワクチン	ウサギ脱繊維血液	ウサギ血液	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/9/22	50465	日本赤十字社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	Eurosurveillance Weekly 2005;10(8)	2005年2月、ニューヨーク市保健衛生局は、抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が2004年12月、高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行したと発表。本症例により注目すべき点は、薬剤耐性のエイズウイルス感染症が確認されたこと、また、疾患の進行が急速であることがあげられる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイドス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91	2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。
											バルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトバルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100℃)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											BSE	ProMed20050204-0030(EU press Rereases 2 Feb 2005)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050205-0040(共同ニュース2月4日)	厚生労働省は2005年2月4日、日本で初の変異型ヤコブ病(vCJD)を確定したと公表した。この日本人男性患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1か月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。
											BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	イギリス環境食料農村地域省(DEFRA)は2005年2月、1990年にスクレイピーにより死亡したスコットランドでのヤギは実はBSEに感染していた可能性があるとして発表。確定までに1~2年かかるが確定すれば2002年にフランスで死亡したヤギに続いて2例目のヤギBSE症例となる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 :365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な献血禁止が必要である。
											B型肝炎	J of General Virology 2005; 86: 595-9	本邦の献血者(2002年10月)において、遺伝子がHのHBV事例(外国滞在歴なし)が初めて、発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:807-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の選及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
2005/9/22	50466	武田薬品工業株式会社	日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
2005/9/22	50467	日本赤十字社	乾燥日本脳炎ワクチン	合成血	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	Eurosurveillance Weekly 2005;10(8)	2005年2月、ニューヨーク市保健衛生局は、抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が2004年12月、高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行したと発表。本症例により注目すべき点は、薬剤耐性のエイズウイルス感染症が確認されたこと、また、疾患の進行が急速であることがあげられる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイド案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。
											エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡したことが疑われる症例。厚生労働省へは報告済み。
											マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルサンタ・カタリナ州保健局によると、2005年3月、ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生したと発表。ブラジル当局は供血規制を行った。
											トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91	2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザ(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											BSE	ProMed20050204-0030(EU press Rereases 2 Feb 2005)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050205-0040(共同ニュース 2月4日)	厚生労働省は2005年2月4日、日本で初の変異型ヤコブ病(vCJD)を確定したと公表した。この日本人男性患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	イギリス環境食料農村地域省(DEFRA)は2005年2月、1990年にスクレイパーにより死亡したスコットランドでのヤギは実はBSEに感染していた可能性があるとして発表。確定までに1~2年かかるが確定すれば2002年にフランスで死亡したヤギに続いて2例目のヤギBSE症例となる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosuveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン <sup>1</sup> の垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド <sup>1</sup> 輸血サービス(IBTS)とアイルランド <sup>2</sup> 当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダ <sup>1</sup> Hema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクンゲンヤウイルスであると判明した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペローフを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	J of General Virology 2005; 86: 595-9	本邦の献血者(2002年10月)において、遺伝子がHのHBV事例(外国滞在歴なし)が初めて、発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:8 07-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会 総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6) :994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
											HTLV	Transfusion.2005;45:1 151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察した症例経験について。
2005/9/22	50468	株式会社ベネシス	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	人血液	①日本、②③ 米国	有効成分	有	有	無	HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	2005年2月、ニューヨーク市保健衛生局は、抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が2004年12月、高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行したと発表。本症例により注目すべき点は、薬剤耐性のエイズウイルス感染症が確認されたこと、また、疾患の進行が急速であることがあげられる。
											トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91	2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin 2004;2(2)	2004年2月19日～4月16日にバングラデシュFaridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48(11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。北海道の自衛隊207人のうち1名がIFA,ELISA,ウエスタンブロットの分析によりハンタウイルス感染が示唆された。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある、第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて発表された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	International J of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980～1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											マラリア	Vox Sanguinis 2005;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。
											トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(H5NI)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と見られる。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											ウエストナイルウイルス	GDC/EID.11(8) 1294-1296.2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クローンフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
2005/9/22	50469	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	2005年2月、ニューヨーク市保健衛生局は、抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が2004年12月、高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行したと発表。本症例により注目すべき点は、薬剤耐性のエイズウイルス感染症が確認されたこと、また、疾患の進行が急速であることがあげられる。
											トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91	2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin 2004;2(2)	2004年2月19日～4月16日にバングラデシュFaridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48 (11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。北海道の自衛隊207人のうち1名がIFA,ELISA,ウエスタンブロットの分析によりハンタウイルス感染が示唆された。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ搔かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある、第12回 Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrP <sup>Sc</sup> )もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrP <sup>Sc</sup> )も両方の異常プリオン蛋白質(PrP <sup>Sc</sup> )を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	International J of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980～1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45 (4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。
											トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(H5NI)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジア他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と見られる。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											ウエストナイルウイルス	GDC/EID.11(8) 1294-1296.2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クローンフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%。四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
2005/9/22	50470	株式会社ベネシス	人血清アルブミン 乾燥濃縮人献血凝固第四因子	人血清アルブミン	人血液	①②④⑤日本、③米国	有効成分 添加物	有	有	無	HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	2005年2月、ニューヨーク市保健衛生局は、抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が2004年12月、高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行したと発表。本症例により注目すべき点は、薬剤耐性のエイズウイルス感染症が確認されたこと、また、疾患の進行が急速であることがあげられる。
											トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91	2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin 2004;2(2)	2004年2月19日～4月16日にバングラデシュFaridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48 (11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。北海道の自衛隊207人のうち1名がIFA,ELISA,ウエスタンブロットの分析によりハンタウイルス感染が示唆された。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ搔かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある、第12回 Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrP <sup>Sc</sup> )もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrP <sup>Sc</sup> )も両方の異常プリオン蛋白質(PrP <sup>Sc</sup> )を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	International J of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980～1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45 (4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。
											トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(H5NI)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジア他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と見られる。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											ウエストナイルウイルス	GDC/EID.11(8) 1294-1296.2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%。四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
2005/9/22	50471	味の素ファルマ株式会社	パルナパリンナトリウム注射液	パルナパリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	有	有	無	レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report Japan2005年第32週	2005年6月頃から発生している中国でのブタレンサ球菌流行について。現時点では中国衛生部によると215名がブタヒト感染し、うち39名が死亡していると報告している。これまでの調査ではヒトヒト感染の証拠は見られていない。今回の流行が最近の流行と比較してこれほど大規模であったのかについては更なる調査を必要とする。
2005/9/22	50472	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス脾臓細胞と骨髄腫細胞を融合した細胞にヒト遺伝子を導入した細胞株	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050406 (The Washington Times2005年3月24日)	United Press International(UPI)社は1971年に死亡したフランス女性でvCJDに合致する病理所見を示したとの情報を入手した。もしこの発見が確定されれば、この致死性の中樞神経系変性疾患は従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。フランス当局はこの患者の脳標本を再検査中である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Vet Diagn Invest 2005;17:276-81	脳内経路からのシカからウシへの異常プリオン蛋白の実験的伝播について。経口曝露の影響を調べるとなると、大量のシカ異常蛋白が必要であり、ウシの一生のうちに中樞神経組織中に異常プリオン蛋白が増幅することないと予想される。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	USDA News Release No.0232.05 2005年6月24日	2005年6月24日米国農務省が、英国ウェイブリッジの獣医学研究所からBSE最終検査結果を入手し2004年11月に食用から排除された牛の検体の検査から陽性が確認されたことを発表した。また、BSE検査結果が「未確定」の場合に備えて、2重の確認試験を含む新たな検査法手続きを作成するよう指示した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(13):8665-8	ウシプリオン蛋白を発現するトランスジェニックマウス(雌)で脳内にBSEウシ由来の接種物を投与した後、妊娠させ母子感染が起こる(仔の脳に異常プリオン蓄積)ことを報告した。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2005;54(21):537-9 2005;54(32):799-801	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
2005/9/22	50473	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来細胞	マウス骨髄腫	10数年前に樹立したマスタセルバンクに使用した動物の細胞株	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050406 (The Washington Times2005年3月24日)	United Press International(UPI)社は1971年に死亡したフランス女性でv-CJDに合致する病理所見を示したとの情報を入手した。もしこの発見が確定されれば、この致死性の中樞神経系変性疾患は従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。フランス当局はこの患者の脳標本を再検査中である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Vet Diagn Invest 2005;17:276-81	脳内経路からのシカからウシへの異常プリオン蛋白の実験的伝播について。経口曝露の影響を調べるとなると、大量のシカ異常蛋白が必要であり、ウシの一生のうちの中樞神経組織中に異常プリオン蛋白が増幅することないと予想される。
											BSE	USDA News Release No.0232.05 2005年6月24日	2005年6月24日米国農務省が、英国ウェイブリッジの獣医学研究所からBSE最終検査結果を入手し2004年11月に食用から排除された牛の検体の検査から陽性が確認されたことを発表した。また、BSE検査結果が「未確定」の場合に備えて、2重の確認試験を含む新たな検査法手続きを作成するよう指示した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(13):8665-8	ウシプリオン蛋白を発現するトランスジェニックマウス(雌)で脳内にBSEウシ由来の接種物を投与した後、妊娠させ母子感染が起こる(仔の脳に異常プリオン蓄積)ことを報告した。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2005;54(21):537-9 2005;54(32):799-801	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
2005/9/22	50474	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ蛋白加水分解物	ウシ脾臓、ウシ血液	米国	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050406 (The Washington Times2005年3月24日)	United Press International(UPI)社は1971年に死亡したフランス女性でv-CJDに合致する病理所見を示したとの情報を入手した。もしこの発見が確定されれば、この致死性の中樞神経系変性疾患は従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。フランス当局はこの患者の脳標本を再検査中である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Vet Diagn Invest 2005;17:276-81	脳内経路からのシカからウシへの異常プリオン蛋白の実験的伝播について。経口曝露の影響を調べると、大量のシカ異常蛋白が必要であり、ウシの一生のうちに中樞神経組織中に異常プリオン蛋白が増幅することはないと予想される。
											BSE	USDA News Release No.0232.05 2005年6月24日	2005年6月24日米国農務省が、英国ウエイブリッジの獣医学研究所からBSE最終検査結果を入手し2004年11月に食用から排除された牛の検体の検査から陽性が確認されたことを発表した。また、BSE検査結果が「未確定」の場合に備えて、2重の確認試験を含む新たな検査法手続きを作成するよう指示した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(13):8665-8	ウシプリオン蛋白を発現するトランスジェニックマウス(雌)で脳内にBSEウシ由来の接種物を投与した後、妊娠させ母子感染が起こる(仔の脳に異常プリオン蓄積)ことを報告した。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2005;54(21):537-9 2005;54(32):799-801	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
2005/9/22	50475	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ、オーストラリア	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050406 (The Washington Times2005年3月24日)	United Press International(UPI)社は1971年に死亡したフランス女性でv-CJDに合致する病理所見を示したとの情報を入手した。もしこの発見が確定されれば、この致死性の中樞神経系変性疾患は従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。フランス当局はこの患者の脳標本を再検査中である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Vet Diagn Invest 2005;17:276-81	脳内経路からのシカからウシへの異常プリオン蛋白の実験的伝播について。経口曝露の影響を調べるとなると、大量のシカ異常蛋白が必要であり、ウシの一生のうちの中樞神経組織中に異常プリオン蛋白が増幅することないと予想される。
											BSE	USDA News Release No.0232.05 2005年6月24日	2005年6月24日米国農務省が、英国ウェイブリッジの獣医学研究所からBSE最終検査結果を入手し2004年11月に食用から排除された牛の検体の検査から陽性が確認されたことを発表した。また、BSE検査結果が「未確定」の場合に備えて、2重の確認試験を含む新たな検査法手続きを作成するよう指示した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(13):8665-8	ウシプリオン蛋白を発現するトランスジェニックマウス(雌)で脳内にBSEウシ由来の接種物を投与した後、妊娠させ母子感染が起こる(仔の脳に異常プリオン蓄積)ことを報告した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2005;54(21):537-9 2005;54(32):799-801	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
2005/9/22	50476	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシアポトランスフェリン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050406 (The Washington Times2005年3月24日)	United Press International(UPI)社は1971年に死亡したフランス女性でv-CJDに合致する病理所見を示したとの情報を入手した。もしこの発見が確定されれば、この致死性の中樞神経系変性疾患は従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。フランス当局はこの患者の脳標本を再検査中である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Vet Diagn Invest 2005;17:276-81	脳内経路からのシカからウシへの異常プリオン蛋白の実験的伝播について。経口曝露の影響を調べるとなると、大量のシカ異常蛋白が必要であり、ウシの一生のうちの中樞神経組織中に異常プリオン蛋白が増幅することないと予想される。
											BSE	USDA News Release No.0232.05 2005年6月24日	2005年6月24日米国農務省が、英国ウェイブリッジの獣医学研究所からBSE最終検査結果を入手し2004年11月に食用から排除された牛の検体の検査から陽性が確認されたことを発表した。また、BSE検査結果が「未確定」の場合に備えて、2重の確認試験を含む新たな検査法手続きを作成するよう指示した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(13):8665-8	ウシプリオン蛋白を発現するトランスジェニックマウス(雌)で脳内にBSEウシ由来の接種物を投与した後、妊娠させ母子感染が起こる(仔の脳に異常プリオン蓄積)ことを報告した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2005;54(21):537-9 2005;54(32):799-801	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
2005/9/22	50477	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシリポプロテイン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050406 (The Washington Times2005年3月24日)	United Press International(UPI)社は1971年に死亡したフランス女性でv-CJDに合致する病理所見を示したとの情報を入手した。もしこの発見が確定されれば、この致死性の中樞神経系変性疾患は従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。フランス当局はこの患者の脳標本を再検査中である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Vet Diagn Invest 2005;17:276-81	脳内経路からのシカからウシへの異常プリオン蛋白の実験的伝播について。経口曝露の影響を調べるとなると、大量のシカ異常蛋白が必要であり、ウシの一生のうちの中樞神経組織中に異常プリオン蛋白が増幅することないと予想される。
											BSE	USDA News Release No.0232.05 2005年6月24日	2005年6月24日米国農務省が、英国ウェイブリッジの獣医学研究所からBSE最終検査結果を入手し2004年11月に食用から排除された牛の検体の検査から陽性が確認されたことを発表した。また、BSE検査結果が「未確定」の場合に備えて、2重の確認試験を含む新たな検査法手続きを作成するよう指示した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(13):8665-8	ウシプリオン蛋白を発現するトランスジェニックマウス(雌)で脳内にBSEウシ由来の接種物を投与した後、妊娠させ母子感染が起こる(仔の脳に異常プリオン蓄積)ことを報告した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2005;54(21):537-9 2005;54(32):799-801	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
2005/9/22	50478	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050406 (The Washington Times2005年3月24日)	United Press International(UPI)社は1971年に死亡したフランス女性でv-CJDに合致する病理所見を示したとの情報を入手した。もしこの発見が確定されれば、この致死性の中樞神経系変性疾患は従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。フランス当局はこの患者の脳標本を再検査中である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Vet Diagn Invest 2005;17:276-81	脳内経路からのシカからウシへの異常プリオン蛋白の実験的伝播について。経口曝露の影響を調べるとなると、大量のシカ異常蛋白が必要であり、ウシの一生のうちの中樞神経組織中に異常プリオン蛋白が増幅することないと予想される。
											BSE	USDA News Release No.0232.05 2005年6月24日	2005年6月24日米国農務省が、英国ウェイブリッジの獣医学研究所からBSE最終検査結果を入手し2004年11月に食用から排除された牛の検体の検査から陽性が確認されたことを発表した。また、BSE検査結果が「未確定」の場合に備えて、2重の確認試験を含む新たな検査法手続きを作成するよう指示した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(13):8665-8	ウシプリオン蛋白を発現するトランスジェニックマウス(雌)で脳内にBSEウシ由来の接種物を投与した後、妊娠させ母子感染が起こる(仔の脳に異常プリオン蓄積)ことを報告した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2005;54(21):537-9 2005;54(32):799-801	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
2005/9/22	50479	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ脾臓	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050406 (The Washington Times2005年3月24日)	United Press International(UPI)社は1971年に死亡したフランス女性でv-CJDに合致する病理所見を示したとの情報を入手した。もしこの発見が確定されれば、この致死性の中樞神経系変性疾患は従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。フランス当局はこの患者の脳標本を再検査中である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Vet Diagn Invest 2005;17:276-81	脳内経路からのシカからウシへの異常プリオン蛋白の実験的伝播について。経口曝露の影響を調べるとなると、大量のシカ異常蛋白が必要であり、ウシの一生のうちの中樞神経組織中に異常プリオン蛋白が増幅することはないと予想される。
											BSE	USDA News Release No.0232.05 2005年6月24日	2005年6月24日米国農務省が、英国ウェイブリッジの獣医学研究所からBSE最終検査結果を入手し2004年11月に食用から排除された牛の検体の検査から陽性が確認されたことを発表した。また、BSE検査結果が「未確定」の場合に備えて、2重の確認試験を含む新たな検査法手続きを作成するよう指示した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(13):8665-8	ウシプリオン蛋白を発現するトランスジェニックマウス(雌)で脳内にBSEウシ由来の接種物を投与した後、妊娠させ母子感染が起こる(仔の脳に異常プリオン蓄積)ことを報告した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2005;54(21):537-9 2005;54(32):799-801	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
2005/9/26	50480	日本製薬株式会社	トロンビン	トロンビン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	2005年2月4日、CJDサーベイランス委員会及び厚生科学審議会疾病対策部会にて、輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。この患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があるとして見ている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるcCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞在1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。
											C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	2004年4月、外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。この接着剤は米国で採血された血漿由来で患者から検出されたHCVは欧米に多い遺伝子タイプであった。(2005年4月26日血液事業部運営委員会での報告)
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。これによる献血量不足が予想される。
											ウエストナイルウイルス	CBER 2005年6月	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Quebec Center Press July 2005	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
2005/9/26	50481	日本製薬株式会社	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	2005年2月4日、CJDサーベイランス委員会及び厚生科学審議会疾病対策部会にて、輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。この患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるvCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞在1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。
											C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	2004年4月、外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。この接着剤は米国で採血された血漿由来で患者から検出されたHCVは欧米に多い遺伝子タイプであった。(2005年4月26日血液事業部運営委員会での報告)
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が友友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
											C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。これによる献血量不足が予想される。
											ウエストナイルウイルス	CBER 2005年6月	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づき成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Qubec Center Press July 2005	カナダHema-Qubecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
2005/9/26	50482	日本製薬株式会社	乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリンG	人血液	①日本、②現在製造していない	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	2005年2月4日、CJDサーベイランス委員会及び厚生科学審議会疾病対策部会にて、輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。この患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞存者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるcCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞存1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。
											C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	2004年4月、外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。この接着剤は米国で採血された血漿由来で患者から検出されたHCVは欧米に多い遺伝子タイプであった。(2005年4月26日血液事業部運営委員会での報告)
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が友友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。これによる献血量不足が予想される。
											ウエストナイルウイルス	CBER 2005年6月	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Quebec Center Press July 2005	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
2005/9/26	50483	日本製薬株式会社	人血清アルブミン 加熱人血漿たん白	人血清アルブミン	人血液	①③⑤日本、 ②④現在製造していない	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	2005年2月4日、CJDサーベイランス委員会及び厚生科学審議会疾病対策部会にて、輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。この患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるvCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞在1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。
											C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	2004年4月、外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。この接着剤は米国で採血された血漿由来で患者から検出されたHCVは欧米に多い遺伝子タイプであった。(2005年4月26日血液事業部運営委員会での報告)
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が友友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
											C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。これによる献血量不足が予想される。
											ウエストナイルウイルス	CBER 2005年6月	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づき成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Quebec Center Press July 2005	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である
2005/9/22	50484	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
2005/9/26	50485	ジェンザイム・ジャパン株式会社	アガルシダーゼベータ(遺伝子組換え)	アガルシダーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞	下記	有効成分	無	無	無			
2005/9/26	50486	ジェンザイム・ジャパン株式会社	アガルシダーゼベータ(遺伝子組換え)	ドナー子ウシ血清	ドナー子ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/9/27	50487	日本臓器製薬株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	ウサギ	日本	製造工程	無	無	無			
2005/9/27	50488	日本臓器製薬株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/9/27	50489	日本臓器製薬株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス採取家兔炎症皮膚抽出液	日本	有効成分	無	無	無			
2005/9/27	50490	日本臓器製薬株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ブタ臓臓	日本、カナダ	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	ProMed20050415-0060(New Scientist com news service, 14 April 2005)	2005年4月、AirLangga大学でインドネシアのブタから鳥インフルエンザを同定。ブタはヒトのインフルエンザも鳥のインフルエンザにも感染するため、ブタがヒトでの汎流行インフルエンザ株への変異を危惧する報告。
2005/9/27	50491	日本臓器製薬株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	漿尿膜	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
2005/9/28	50492	日本医薬品工業株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
2005/9/28	50493	伊藤ライフサイエンス株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	炭疽	ProMed20050318-0120(Open ru news agency)	2005年3月、ロシアのVoronezh地域疫学サーベイランスセンターによると、Kamensk地区で豚炭疽症例が発生し、関係者5人が隔離された。前回炭疽菌が確認されたのは1950年。現在Kamensk地区含め炭疽感染中心800箇所が点在する。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMed20050605-0060(Gazeta Ru information 5月30日)	2005年5月、ロシアのRostov地域ロシア連邦緊急事態省によるとRostov地区で豚炭疽症例が発生し、92名が予防接種を受けた。
											炭疽	ProMed20050816-0060(Agency of national news 8月11日)	2005年8月、ロシアのRostov地区でヒツジの炭疽症例が発生した。今回の事例を受けて現地では家畜に対する大規模なワクチン接種が開始された。
											トリインフルエンザ	ProMed20050413-0080	2005年4月、熱帯病対策センターによると、インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出されたと発表。
											トリインフルエンザ	ProMed20050415-0060	2005年4月、熱帯病対策センターによると、インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出された。米国の研究者による予備的な研究結果から、ブタ同士ではH5N1ウイルスの感染伝播しないことが示唆された。
											トリインフルエンザ	ProMed20050514-0060	2005年4月からのインドネシアにおけるブタの鳥インフルエンザウイルス感染について、中国の科学者らは、動物が本当に感染したのか単に皮膚や鼻腔にウイルスの痕跡が残っていただけなのか懐疑的を述べている。
											トリインフルエンザ	ProMed20050515-050	インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出された。
											トリインフルエンザ	ProMed20050515-060	2005年5月、食料農業機構(FAO)の鳥インフルエンザ疾患緊急情報によると、2005年4月のインドネシアの豚の鳥インフルエンザウイルス感染につき北朝鮮では、H7型による感染が拡大しつつあると報告。
											トリインフルエンザ	OIE DISEASE INFORMATION 27 MAY 2005 VOL 18-21	2005年5月23日、農業畜産局局長によるインドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルス感染の経緯について。最初の調査は2005年2月23日、Baten州で187検体について調査。2回目は4月14日、3回目は4月26日。
											トリインフルエンザ	ProMed20050602-0070(OIE 2005;18(21))	2005年5月23日、農業畜産局局長によるインドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルス感染の経緯について。最初の調査は2005年2月23日、Baten州で187検体について調査。2回目は4月14日、3回目は4月26日。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	ProMed20050725-0020(Reuters alertnet 7月24日)	2005年7月25日、インドネシア当局は同国初の鳥インフルエンザ犠牲者となった同一家族の3名が居住する町に近い村の鳥インフルエンザに感染したブタを処分した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050724-0020	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050725-0010	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050725-0010	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-0050	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050727-0010	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMe20050727-0070	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050728-0060	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050729-0060	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050729-0040	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050802-0070	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050803-0030	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050804-0020	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050804-0020	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050804-0110	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050812-0060	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMe20050815-0050	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050818-0040	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050819-0030	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	Washington post.com July 24, 2005 <a href="http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/07/23/AR2005072300936.html">http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/07/23/AR2005072300936.html</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	China view 25 July 2005 <a href="http://news.xinhuanet.com/english/2005-07/25/content_3262105.htm">http://news.xinhuanet.com/english/2005-07/25/content_3262105.htm</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	BBC News 2005年7月27日	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	China view 02 August 2005 <a href="http://news.xinhuanet.com/english/2005-08/02/content_3297725.htm">http://news.xinhuanet.com/english/2005-08/02/content_3297725.htm</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	WHO 3 August 2005 <a href="http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	WHO 16 August 2005 <a href="http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm">http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	Public health agency of CANADA july29,2005 <a href="http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb3005_e.htm">http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb3005_e.htm</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	Alert Net 26 JUL 2005 <a href="http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/PEK358534.htm">http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/PEK358534.htm</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	Weekly epidemiological record 12 August 2005 vol.80, 32 (pp269-270) <a href="http://www.who.int/wer/2005/en/">http://www.who.int/wer/2005/en/</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	HPS Weekly Report 16 August2005 vol.39	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	国立感染症研究所感染症情報センター 2005年8月5日掲載 <a href="http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050803suis.html">http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050803suis.html</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	国立感染症研究所感染症情報センター 2005年8月5日掲載 <a href="http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050803suis.html">http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050803suis.html</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	国立感染症研究所感染症情報センター 2005年8月22日掲載 <a href="http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050816suis.html">http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050816suis.html</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											感染	ProMed20050825-0050	ベトナム南部のDong Nai省で豚約200頭とウシ5頭が原因不明の疾患により死亡した。
											感染	China View 2005年8月23日	現地の新聞Labor紙より、ベトナム南部のDong Nai省で豚約200頭とウシ5頭が原因不明の疾患により死亡と報道された。省の獣医学局は原因を調査中。
2005/9/28	50494	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ポリペプトン	ウシ乳	中国、ポーランド	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウエイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/9/28	50495	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子 乾燥濃縮人アンチロトニンⅢ	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国、フランス、アメリカ、カナダ	製造工程	有	無	無	コロナウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3):446-8	2003年春にSARSの大流行が起こった中国においてブタから分離されたSARS関連コロナウイルス(SARS-Cov)の塩基配列、疫学解析を行った結果、直接的な証拠はないが、ヒトを起源とするSARS-Covのブタへのウイルス伝播が示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/28	50496	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシ乳	アメリカ	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウエイブリッジ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/9/28	50497	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウエイブリッジ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/9/28	50498	財団法人 化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョン ブイオン	ウシ乳・心臓	-	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウエイブリッジ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/9/28	50499	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肝臓	ウシ肝臓	オーストラリア	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウエイブリッジ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/28	50500	財団法人 化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートインフュージョンアガー	ウシ乳・心臓	-	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/9/28	50501	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肉	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/9/28	50502	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエそ抗毒素 ガスエそ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ペプシン	ブタ胃	アメリカ	製造工程	有	無	無	コロナウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3):446-8	2003年春にSARSの大流行が起こった中国においてブタから分離されたSARS関連コロナウイルス(SARS-Cov)の塩基配列、疫学解析を行った結果、直接的な証拠はないが、ヒトを起源とするSARS-Covのブタへのウイルス伝播が示唆された。
2005/9/28	50503	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒性麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	乳糖	ウシ乳	ニュージーランド	添加物 製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/28	50504	財団法人 化学及血清療法研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	ニワトリ発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	2005年6月、動物衛生研究所は、茨城県で国内初のトリインフルエンザH5N2型を同定した。発生源又は感染源は特定されていないが、野鳥との接触による可能性が疑われる。
2005/9/28	50505	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	血液凝固第Ⅸ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
											マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45 (4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリー
2005/9/28	50506	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	抗破傷風人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45 (4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外には知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否かを精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for IndustryJuly 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合には永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリー。
2005/9/28	50507	ZLBベーリング株式会社	人血清アルブミン 人血液凝固第Ⅷ因子 フィブリンゲン加第Ⅷ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	①④⑤⑥米国、ドイツ、オーストリア ②③米国	有効成分 添加物	有	有	無	人畜共通感染症	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとvCJDに注意しなくてはならない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。
											バルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトバルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
2005/9/28	50508	ZLBベーリング株式会社	フィブリンゲン加第Ⅷ因子	アプロチン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニューゼーランド	有効成分	無	無	無			
2005/9/28	50509	ZLBベーリング株式会社	人血清アルブミン 人免疫グロブリンG 破傷風抗毒素 フィブリンゲン加第Ⅷ因子 ペプシン処理人免疫グロブリンG 乾燥濃縮人アンチトロピンⅢ	ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	Veterinary microbiology 2004 ;104:113-7	異なった地域でのブタから収集された血清検体のうち66.2%でブタTTVウイルスDNAが検出された。ブタTTVウイルス自体はブタで発現する疾患との関連は知られていないが、他の病原体と共感染した場合に疾患を増悪させる可能性は否定できない。ブタ臓器などを使用した異種移植の際のヒトへの影響が懸念される。
2005/9/29	50510	財団法人 阪大微生物病研究会	発疹チフスワクチン	卵巣囊	発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91	2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。
2005/9/29	50511	財団法人 阪大微生物病研究会	インフルエンザワクチン インフルエンザHAワクチン	尿膜腔液	発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91	2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。
2005/9/29	50512	財団法人 阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ポリペプトン	ウシ乳	ニューゼーランド	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	2001年03年バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果、通常コウモリ→ブタ→ヒトの感染経路であるがヒトが病気の牛に接触して感染した可能性があることが示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウェスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/9/29	50513	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシの乳	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	2001年03年バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果、通常コウモリ→ブターヒトの感染経路であるがヒトが病気の牛に接触して感染した可能性があることが示唆された。
											BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウェスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/9/29	50514	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシ肉エキス	ウシの肉、骨、脂肪	日本、ブラジル、インド、米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	2001年03年バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果、通常コウモリ→ブターヒトの感染経路であるがヒトが病気の牛に接触して感染した可能性があることが示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/9/29	50515	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシの肝臓	ウシの肝臓	日本、米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	2001年03年バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果、通常コウモリ→ブターヒトの感染経路であるがヒトが病気の牛に接触して感染した可能性があることが示唆された。
											BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/9/29	50516	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ビーフハートインフュージョン	ウシの心臓	インド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	2001年03年バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果、通常コウモリ→ブターヒトの感染経路であるがヒトが病気の牛に接触して感染した可能性があることが示唆された。
											BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/30	50517	バクスター株式会社	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
2005/9/30	50518	バクスター株式会社	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	中国	添加物	無	有	無			
2005/9/30	50519	バクスター株式会社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
2005/9/30	50520	バクスター株式会社	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
2005/9/30	50521	バクスター株式会社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	有	無			
2005/10/3	50522	日本赤十字社	乾燥ペブシン処理人免疫グロブリン	ペブシン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
2005/10/4	50523	ニプロファーマ株式会社	塩化第二鉄・硫酸亜鉛配合剤 コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨	米国	有効成分 添加物	無	無	無			
2005/10/4	50524	ニプロファーマ株式会社	ヘパリンナトリウム注射液 ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリ	有効成分	無	無	無			
2005/10/5	50525	三菱ウェルファーマ株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリ	有効成分	無	無	無			
2005/10/6	50526	武田薬品工業株式会社	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
2005/10/6	50527	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンキット 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ウシ血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/10/6	50528	東菱薬品工業株式会社	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出物	ナプトピン「注」	ウサギ皮膚	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
2005/10/6	50529	東菱薬品工業株式会社	バトロキソピン	バトロキソピン	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			
2005/10/7	50530	扶桑薬品工業株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	サルモネラ	J of Protection 2005;68(2):273-6	2001年夏、ドイツでサルモネラ属ミュンヘン感染が発生した。原因としてブタ肉が疑われた。ブタ肉の汚染が一連の生産工程の初期に起こったことが遡及調査からわかった。
											人畜共通感染症	J Clinical Microbiology 2005;43(3):1142-8	デンマークの回虫症患者について、AFLP法および核rDNAの内部転写スベサ- (ITS)領域のPCR-RFLP法によって、ヒトからの回虫とブタからの回虫を比較した。結果、ヒトの回虫感染は家畜ブタからの回虫感染であった。よって、回虫症はデンマークにおいては人獣共通感染症として考慮しなければならない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050727-gaut 0010(Reuters7月26日)	中国保健省は、中国南西部で死者19名と患者61名を出した原因不明の疾患は、ブタ連鎖球菌が原因と発表した。(7/26)8/16には患者は215名に達し、39名が死亡した。しかし、新たな患者は8/5以来発生していない。
2005/10/7	50531	社団法人 北里研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	①②日本、③不明	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	FAO news Apr 25 2005	2005年3月15日、北朝鮮においてトリインフルエンザ流行のため、数千羽のニワトリが死亡したと報道された。その後、4月に国連食料農業機構は北朝鮮で流行したトリインフルエンザは制圧されたと発表し、本流行のウイルスはH7型株によるものでニワトリに対しては重篤な疾患を引き起こすが、アジアの他の地域で流行しているH5N1型株との直接的な関係はないことを示した。
											トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月9日	2005年6月、米国ニューヨーク州のアヒル飼育農場における低病原性鳥インフルエンザ(H7N2型)の発生を受け、日本当局は同州からの家畜家畜肉等の輸入を2005年6月9日ついで一時停止した。当該輸入停止措置については、当該州における同病の清浄性が確認されるまでの間、継続する。
											トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月26日	2005年6月26日、農林水産省は、弱毒タイプを考えられる高病原性トリインフルエンザH5N2亜型が茨城県の養鶏場で確認されたと発表。その後、同県および埼玉県にある養鶏場でトリインフルエンザウイルスH5亜型に対する抗体陽性が確認されている。
											トリインフルエンザ	Nature 2005;436(7048):191-2	H5N1型トリインフルエンザウイルスは汚染された養鶏場を飛行する野鳥の死骸から時々分離されるが、これは家禽からウイルスに感染した可能性が考えられていた。しかしながら、2005年4月30日、中国西部で周囲に養鶏場のない自然保護地区でインドガンでの発生が確認された。臨床所見全て水禽のH5N1感染所見として知られているものであった。5月4日には1日に100羽以上が5月20日には1500羽が死亡。分離されたウイルスと中国各地のH5N1ウイルスを解析したところ、このウイルスは2005年南部の養鶏場で分離された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/7	50532	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米国	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	FAO news Apr 25 2005	2005年3月15日、北朝鮮においてトリインフルエンザ流行のため、数千羽のニワトリが死亡したと報道された。その後、4月に国連食料農業機構は北朝鮮で流行したトリインフルエンザは制圧されたと発表し、本流行のウイルスはH7型株によるものでニワトリに対しては重篤な疾患を引き起こすが、アジアの他の地域で流行しているH5N1型株との直接的な関係はないことを示した。
											トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月9日	2005年6月、米国ニューヨーク州のアヒル飼育農場における低病原性鳥インフルエンザ(H7N2型)の発生を受け、日本当局は同州からの家畜家畜肉等の輸入を2005年6月9日ついで一時停止した。当該輸入停止措置については、当該州における同病の清浄性が確認されるまでの間、継続する。
											トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月26日	2005年6月26日、農林水産省は、弱毒タイプと考えられる高病原性トリインフルエンザH5N2亜型が茨城県の養鶏場で確認されたと発表。その後、同県および埼玉県にある養鶏場でトリインフルエンザウイルスH5亜型に対する抗体陽性が確認されている。
											トリインフルエンザ	Nature 2005;436(7048):191-2	H5N1型トリインフルエンザウイルスは汚染された養鶏場を飛行する野鳥の死骸から時々分離されるが、これは家禽からウイルスに感染した可能性が考えられていた。しかしながら、2005年4月30日、中国西部で周囲に養鶏場のない自然保護地区でインドガンでの発生が確認された。臨床所見全て水禽のH5N1感染所見として知られているものであった。5月4日には1日に100羽以上が5月20日には1500羽が死亡。分離されたウイルスと中国各地のH5N1ウイルスを解析したところ、このウイルスは2005年南部の養鶏場で分離された
2005/10/7	50533	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	トリプシン	ブタ臓臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	Veterinary microbiology 2004 ;104:113-7	異なった地域でのブタから収集された血清検体のうち66.2%でブタTTVウイルスDNAが検出された。ブタTTVウイルス自体はブタで発現する疾患との関連は知られていないが、他の病原体と共感染した場合に疾患を増悪させる可能性は否定できない。ブタ臓器などを使用した異種移植の際のヒトへの影響が懸念される。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											コロナウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3)446-8	2003年中国でSARSの流行があった地域において、ヒトと接触の機会のある6種類の家畜242頭からPCR法による検査をした結果、ブタ2頭のみが陽性となり、うち1頭がウイルスも分離できた。分離されたウイルス株と既に中国本土から分離されている株とを比較したところ一部ヌクレオチド置換等からヒトを起源としたものである可能性が示唆された。SARS-CoVのヒト-ブタ伝播の可能性が考えられる。
											トリインフルエンザ	Nature 2005;436(7048):191-2	H5N1型トリインフルエンザウイルスは汚染された養鶏場を飛行する野鳥の死骸から時々分離されるが、これは家禽からウイルスに感染した可能性が考えられていた。しかしながら、2005年4月30日、中国西部で周囲に養鶏場のない自然保護地区でインドガンでの発生が確認された。臨床所見全て水禽のH5N1感染所見として知られているものであった。5月4日には1日に100羽以上が5月20日には1500羽が死亡。分離されたウイルスと中国各地のH5N1ウイルスを解析したところ、このウイルスは2005年南部の養鶏場で分離された。
											レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月3日	2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大。中国当局は206例中38例が死亡と報道。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
2005/10/7	50534	社団法人 北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	①～③米国、 ④～⑥不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
2005/10/7	50535	社団法人 北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ウマ脱繊維血	ウマ血液	①②ニュー ジーランド、 ③④⑤不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
2005/10/7	50536	三共株式会社	トロンビン	トロンビン	牛の血漿及び肺	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
2005/10/7	50537	宇治製薬株式会社	コンドロイチン硫酸鉄コロイド	コンドロイチン硫酸ナトリウム	牛の軟骨	米国		無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/7	50538	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 破傷風トキソイド	ハートエキス	ウシの心臓	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(○157)および○26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシの○157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50539	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきワクチン 破傷風トキソイド	ペプトン	ブタの胃	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月3日	2005年8月現在、中国四川省でアウトブレイクしたブタ連鎖球菌の患者206例中38例が死亡。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
2005/10/7	50540	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降は症痛トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン ジフテリアトキソイド 破傷風トキソイド コレラワクチン	スキムミルク	ウシの乳	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(○157)および○26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシの○157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50541	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血液	アメリカ	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(○157)および○26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシの○157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50542	デンカ生研株式会社	ワイル病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギの血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
2005/10/7	50543	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン	ラクトアルブミン水分解物	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(○157)および○26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシの○157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50544	デンカ生研株式会社	ワイル病秋やみ混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	中国又はポーランド	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(○157)および○26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシの○157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/7	50545	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド	カザミノ酸	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会 東北支部総会2005年 8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50546	デンカ生研株式会社	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会 東北支部総会2005年 8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50547	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウスの脳	日本	製造工程	有	無	無	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2005;54(32):799-801	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
2005/10/7	50548	デンカ生研株式会社	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ヒツジ血液	ヒツジの血液	製造中止	製造工程	無	無	無			
2005/10/7	50549	デンカ生研株式会社	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	尿膜腔液	ニワトリの受精卵	日本	製造工程	無	無	無			
2005/10/11	50550	日新製薬株式会社	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの気管	アメリカ合衆国、カナダ、ウルグアイ、アルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	無	無	無			
2005/10/11	50551	日新製薬株式会社	ダルテパリンナトリウム製剤	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月16日	2005年6月頃から発生している中国でのブレンサ球菌流行について。現時点では中国衛生部によると215名がブタヒト感染し、うち39名が死亡していると報告している。これまでの調査ではヒトヒト感染の証拠は見られていない。今回の流行が最近の流行と比較してこれほど大規模であったのかについては更なる調査を必要とする。
2005/10/11	50552	沢井製薬株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
2005/10/11	50553	沢井製薬株式会社	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/11	50554	伊藤ライフサイエンス株式会社	パルナパリンナトリウム	パルナパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	アルゼンチン	有効成分	有	無	無	炭疽	ProMed20050318-0120(Open ru news agency)	2005年3月、ロシアのVoronezh地域疫学サーベイランスセンターによると、Kamensk地区で豚炭疽症例が発生し、関係者5人が隔離された。前回炭疽菌が確認されたのは1950年。現在Kamensk地区含め炭疽感染中心800箇所が点在する。
											炭疽	ProMed20050605-0060(Gazeta Ru information 5月30日)	2005年5月、ロシアのRostov地域ロシア連邦緊急事態省によるとRostov地区で豚炭疽症例が発生し、92名が予防接種を受けた。
											炭疽	ProMed20050816-0060(Agency of national news 8月11日)	2005年8月、ロシアのRostov地区でヒツジの炭疽症例が発生した。今回の事例を受けて現地では家畜に対する大規模なワクチン接種が開始された。
											炭疽	ProMed20050902-0050(New Agency)	Kamensk地区で今年(2005年)3例目のブタ炭疽菌が獣医研究所の解析により同定された。
											炭疽	ProMed20050906-0060(New Agency)	Kamensk地区で今年(2005年)3例目のブタ炭疽菌が獣医研究所での生物学的、顕微鏡的、細菌学的検査によって公式に確定された。
											トリインフルエンザ	ProMed20050413-0080	2005年4月、熱帯病対策センターによると、インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出されたと発表。
											トリインフルエンザ	ProMed20050415-0060	2005年4月、熱帯病対策センターによると、インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出された。米国の研究者による予備的な研究結果から、ブタ同士ではH5N1ウイルスの感染伝播しないことが示唆された。
											トリインフルエンザ	ProMed20050514-0060	2005年4月からのインドネシアにおけるブタの鳥インフルエンザウイルス感染について、中国の科学者らは、動物が本当に感染したのか単に皮膚や鼻腔にウイルスの痕跡が残っていただけなのか懐疑的を述べている。
											トリインフルエンザ	ProMed20050515-050	インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出された。
											トリインフルエンザ	ProMed20050515-060	2005年5月、食料農業機構(FAO)の鳥インフルエンザ疾患緊急情報によると、2005年4月のインドネシアの豚の鳥インフルエンザウイルス感染につづき北朝鮮では、H7型による感染が拡大しつつあると報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	OIE DISEASE INFORMATION 27 MAY 2005 VOL 18-21	2005年5月23日、農業畜産局局長によるインドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルス感染の経緯について。最初の調査は2005年2月23日、Baten州で187検体について調査。2回目は4月14日、3回目は4月26日。
											トリインフルエンザ	ProMed20050602-0070(OIE 2005;18(21))	2005年5月23日、農業畜産局局長によるインドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルス感染の経緯について。最初の調査は2005年2月23日、Baten州で187検体について調査。2回目は4月14日、3回目は4月26日。
											トリインフルエンザ	ProMed20050725-0020(Reuters alertnet 7月24日)	2005年7月25日、インドネシア当局は同国初の鳥インフルエンザ犠牲者となった同一家族の3名が居住する町に近い村の鳥インフルエンザに感染したブタを処分した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050724-0020	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050725-0010	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-0050	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050727-0010	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050727-0010	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMe20050727-0070	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050728-0060	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050729-0060	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050729-0040	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050802-0070	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050803-0030	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050804-0020	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050804-0110	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050812-0060	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMe20050815-0050	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050818-0040	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050819-0030	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	Washington post.com July 24, 2005 <a href="http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/07/23/AR2005072300936.html">http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/07/23/AR2005072300936.html</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	China view 25 July 2005 <a href="http://news.xinhuanet.com/english/2005-07/25/content_3262105.htm">http://news.xinhuanet.com/english/2005-07/25/content_3262105.htm</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	BBC News 2005年7月27日	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	China view 02 August 2005 <a href="http://news.xinhuanet.com/english/2005-08/02/content_3297725.htm">http://news.xinhuanet.com/english/2005-08/02/content_3297725.htm</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	WHO 3 August 2005 <a href="http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	WHO 16 August 2005 <a href="http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm">http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	Public health agency of CANADA july29,2005 <a href="http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb3005_e.htm">http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb3005_e.htm</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	Alert Net 26 JUL 2005 <a href="http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/PEK358534.htm">http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/PEK358534.htm</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	Weekly epidemiological record 12 August 2005 vol.80, 32 (pp269-270) <a href="http://www.who.int/wer/2005/en/">http://www.who.int/wer/2005/en/</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	HPS Weekly Report 16 August 2005 vol.39	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	国立感染症研究所感染症情報センター 2005年8月5日掲載 <a href="http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050803suis.html">http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050803suis.html</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	国立感染症研究所感染症情報センター 2005年8月22日掲載 <a href="http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050816suis.html">http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050816suis.html</a>	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050826-0020(ALL Headline News8月23日 Agia News8月24日)	香港政府は今回のブタレンサ球菌による被害が最も深刻な中国四川省からの豚肉輸入再開を宣言した。7月末に禁止してからの再開。衛生当局は四川省での致死的な感染流行は制圧されたと発言している。また、香港での感染した患者から分離した菌の遺伝子解析の結果それぞれ異なる株であると発表している。
2005/10/11	50555	沢井製薬株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
2005/10/12	50556	小林化工株式会社	コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟膏	アメリカ	有効成分	無	無	無			
2005/10/14	50557	アベンティス・パスツール第一ワクチン株式会社	黄熱ワクチン	発育鶏胚	発育鶏卵	米国	製造工程	無	無	無			
2005/10/14	50558	社団法人 北里研究所	日本脳炎ワクチン ジフテリアトキソイド	ゼラチン	ウシの骨皮	不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											BSE	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリス症と診断されたウシの乳からボツリス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
2005/10/14	50559	社団法人 北里研究所	コレラワクチン	ウシ心臓抽出物	ウシ心臓	米国、カナダ、オーストラリア及びニュージーランド	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリス症と診断されたウシの乳からボツリス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
2005/10/14	50560	社団法人 北里研究所	コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	①～③ニュージーランド、オーストラリア④～⑥不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリス症と診断されたウシの乳からボツリス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
2005/10/14	50561	社団法人 北里研究所	コレラワクチン	ビーブエキストラクト	ウシ筋肉	オーストラリア	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリス症と診断されたウシの乳からボツリス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50562	社団法人 北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	スキムミルク	ウシ乳	全て米国	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
2005/10/14	50563	社団法人 北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ペプトン	ウシ乳	①中国、ポ ランド②～⑤中 国、ポ ランド、 ニュージーランド ⑥～⑩不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
2005/10/14	50564	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、米国	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリス症と診断されたウシの乳からボツリス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
2005/10/14	50565	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシ乳	ニュージーランド、カナダ、米国	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリス症と診断されたウシの乳からボツリス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
2005/10/14	50566	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ウシ胎児血清、新生仔牛血清	ウシ血液	①③ニュージーランド②ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリス症と診断されたウシの乳からボツリス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
2005/10/14	50567	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	乳糖	ウシ乳	ドイツ、ベルギー、ルクセンブルク、ニュージーランド、米国	添加物	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリス症と診断されたウシの乳からボツリス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50568	社団法人 北里研究所	乾燥痘そうワクチン	ウシ表皮	ウシ	不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
2005/10/14	50569	シオノケミカル	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	イタリア	有効成分	有	無	無	感染	CDC/MMWR 2005;54(11):269-72	2005年1月26日CDCはミズリー州の癌治療クリニックの患者におけるPseudomonas Fluorescens血症4例の報告を受けた。2月15日現在4州でヘパリン生食洗浄による36例のシェドモナス感染を確認している。
2005/10/14	50570	テルモ株式会社	-	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	J of Virology 2003;84:2351-7	北海道で2001年-03年に散発的に発生した、急性ないし劇症E型肝炎の感染症例10例のうち9例について調理された豚レバーを食べていた。検出されたウイルスのあるものは、感染患者から分離されたウイルスの塩基配列との相同性が認められた。
2005/10/14	50571	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン風しん混合ワクチン	SPFウズラ胚	SPF発育ウズラ卵	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	Reuters News 2005年 3月29日	インドネシア農業省は3月、トリインフルエンザによりウズラ6万羽が死亡または処分されたと発表。また、1月～3月にかけて同国3州において家禽2181730羽が死亡したと述べた。
2005/10/14	50572	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
2005/10/14	50573	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	米国、ニュージーランド、オーストラリア(2005.9.22. 軽微変更届で米国産を削除した。米国産	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウェスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50574	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥まむし抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥破傷風抗毒素	ウマ血清	ウマの血液	米国	製造工程	無	無	無			
2005/10/14	50575	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン風しん混合ワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシの乳	オランダ、米国、カナダ、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/10/14	50576	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/10/14	50577	財団法人 阪大微生物病研究会	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	コレステロール	ヒツジの毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50578	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリプシン	ブタの膵臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	Nature 2005;435:390-1	政府の検査によって感染の存在が確認されたので高病原性のトリインフルエンザウイルスがインドネシアの豚に感染しているという懸念が増大している。ある地域ではH5N1型ウイルスが無症候状態でブタ集団の半分以上に感染している。ブタがヒトでの汎流行インフルエンザウイルス株の変異を促す攪拌槽の役割をもつのではないかと危惧する研究者もいる。
2005/10/14	50579	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	日本	製造工程	無	無	無			
2005/10/14	50580	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈黙ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ブタ肉エキス	ブタの肉、脂肪	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	Nature 2005;435:390-1	政府の検査によって感染の存在が確認されたので高病原性のトリインフルエンザウイルスがインドネシアの豚に感染しているという懸念が増大している。ある地域ではH5N1型ウイルスが無症候状態でブタ集団の半分以上に感染している。ブタがヒトでの汎流行インフルエンザウイルス株の変異を促す攪拌槽の役割をもつのではないかと危惧する研究者もいる。
2005/10/14	50581	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始し
2005/10/14	50582	財団法人 阪大微生物病研究会	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウスの脳	マウス	日本	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50583	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	牛肉消化液	ウシの筋肉	オーストリア	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/10/14	50584	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	人血清アルブミン	ヒトの血液	該当なし(製造中止品目)	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月3日	2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大。中国当局は206例中38例が死亡と報道。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
2005/10/14	50585	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	脱繊維牛血液	ウシの血液	米国、ニュージーランド(現在、種菌培養工程で米国産は使用していない。)	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/10/14	50586	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/10/14	50587	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	MRC-5	ヒト胎児肺二倍体細胞	1966年に樹立したマスタセルバンクに使用したヒトの細胞株	製造工程	無	無	無			米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50588	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥痘そうワクチン 痘そうワクチン	ウシの皮膚	ウシの皮膚	該当なし(製造中止品目)	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウェスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始し、世界29カ国における多剤耐性Salmonella Typhimurium感染の発生率、また多剤耐性を決定するファジータイプ104 (DT104)の増加について調査したところ過去20年間で実質的に多くの国で増加傾向にあった。1991年～2001年の期間で抗生物質耐性またはファジータイプの調査を行った結果、キノロン耐性S. Typhimuriumの発生が増加していた。
2005/10/17	50589	わかもと製薬株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無	サルモネラ	Emerging Infectious Diseases 2005;11(6):859-67	2004年に英イングランドおよびウェールズにおいてHTLV感染症新規診断が83例あった。そのうち78例(94%)がHTLV-I陽性2例が-II陽性、1例が-Iおよび-IIに重複感染していた。感染経路のうち4例が輸血を介しての報告であった。
2005/10/17	50590	わかもと製薬株式会社	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	有	無	HTLV	CDR Weekly 2005;15(8)	2005年3月末までに英国において合計107例の成人がHIV-2と診断された。うち6例は海外での輸血を介して感染した可能性がある。
											HIV	CDR Weekly 2005;15(21)	2005年の1月～3月に新規HIV感染診断2230件が報告された。1982年にサーベイランスが開始されて以来英国で報告されているHIV診断総数は70783件になった。現在までに21280例がAIDSと診断され、そのうち13145例が死亡。2004年に報告されたHIV診断6403件のうち輸血および血液因子製剤を介しての可能性のある診断数は男性7例女性8例。
											HIV	Clin Med J 2005;118(9):720-4	中国のあるコミュニティで1990年代半ばに行われた血液収集活動によってHIV感染が現在母子感染を起している。2000年～01年の調査では、子供224人中5%が陽性で、抗体陽転率は2.5%/年であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(24)	2005年7月のIrishNewsによるとアイルランドのダブリン病院においてvCJD治療を受けている患者が輸血を行っており2名が献血を受けていることについて、1名はvCJDと関係ない症状で死亡しており、1名は無症状であると報道。アイルランド保健省は報道後の再保障を試みている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005;15(29)	英国保健省はvCJDのリスクが増加していることが確認された新たな集団について2005年7月20日に公式発表。この集団は後にvCJDを発症した患者に対して以前に輸血された血液のドナーである。現時点で3件のvCJD症例に対して約100ドナーが関係している。さらに2名の受血者について観察がされている。1名はvCJDと関係のない症状で死亡しており、もう1名は無症状であるが輸血による感染を否定できない。
											E型肝炎	CDR Weekly 2005;15(30)	2004年1月1日～12月31日までに英国中から疑いのある輸血を介して伝播した感染症(TTIs)が34例報告された。うち1例(E型肝炎)のみが輸血を介して感染したことが確定された。
2005/10/18	50591	アベンティス・パスツール第一ワクチン株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、スペイン、フランス、イタリア、オランダ、ノルウェー、デンマーク	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50592	アベンティス・パスツール第一ワクチン株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	ウマの血漿	フランス	有効成分	無	無	無			
2005/10/18	50593	アベンティス・パスツール第一ワクチン株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50594	アベンティス・パスツール第一ワクチン株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50595	日本臓器製薬株式会社	-	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ球ウサギ血清	ドイツ、ハンガリー	有効成分	無	無	無			
2005/10/18	50596	日本臓器製薬株式会社	-	培養ヒトリンパ球(JM細胞株)	ヒト(急性リンパ性白血病患者)末	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50597	日本臓器製薬株式会社	-	ヒト胎盤ホモジネート	ヒト胎盤	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50598	日本臓器製薬株式会社	-	ヒト赤血球	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50599	日本臓器製薬株式会社	-	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/18	50600	日本臓器製薬株式会社	-	ウシ乳児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/10/19	50601	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	マウス由来モノクローナル抗体	マウス脾臓	日本	製造工程	無	無	無			
2005/10/19	50602	財団法人 化学及血清療法研究所	人免疫グロブリン ヒスタミン加入免疫グロブリン製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会(2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
											マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週間後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリー。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/20	50603	日本ビーシージー製造株式会社	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株)	ウシの胆汁	ウシの胆嚢	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	TRENDS in Cell Biology 2005 Feb;15(2)	PrPcがPrPscに変化する可能性のある細胞部位についての研究。小胞体はプリオン病の遺伝子における変異型PrPへの転換において主要な役割があるが、原型質膜へのPrPcの輸送とそれに続く吸収がプリオン病の感染型におけるPrPcの転換に要求されていると考えられる。さらに、PrPcとPrPscが関与している膜領域もまた、変換のプロセスに重要であると考えられる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(9):5259-71	完全なウシプリオン蛋白(BoPrP)を表現するトランスジェニックマウス(Tg)は伝播のバリアーなしにBSEプリオンを連続的に遺伝させる。Tgマウスはヒツジスクレーピープリオンにも伝播のバリアーを示さない。このことは、ウシがある種のヒツジスクレーピーのプリオンタンパクに高い感受性があることを示唆している。種間のプリオン伝播に観察される種間バリアーの大部分は、株間バリアーであると考えられる。Prpの配列の相違が、異なる種のプリオンの伝播を必ず防御するわけではない。
2005/10/20	50604	持田製薬株式会社	-	トリプシン	ウシ膵臓	ニュージーランド	有効成分製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	日刊業第11740号 20051月3日28日付	2005年3月、薬食審査会はワイスの間節リウマチ治療薬「エンブレル」投与中にvCJDを発症した海外症例2例について審議し、vCJDである可能性は低いと考えられるため、販売を見合わせる根拠とはならないと判断した。
											BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国農務省によると、2005年6月第4週にBSE検査陽性と同定されたウシについてDNA検査を行い、このウシはテキサス州内で飼育され、年齢が12歳前後であったことが確認された。
2005/10/20	50605	持田製薬株式会社	日本薬局方トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	日刊業第11740号 20051月3日28日付	2005年3月、薬食審査会はワイスの間節リウマチ治療薬「エンブレル」投与中にvCJDを発症した海外症例2例について審議し、vCJDである可能性は低いと考えられるため、販売を見合わせる根拠とはならないと判断した。
											BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国農務省によると、2005年6月第4週にBSE検査陽性と同定されたウシについてDNA検査を行い、このウシはテキサス州内で飼育され、年齢が12歳前後であったことが確認された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/20	50606	持田製薬株式会社	日本薬局方トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	日刊業第11740号 2005年1月3日28日付	2005年3月、薬食審査会はワイスの間節リウマチ治療薬「エンブレル」投与中にvCJDを発症した海外症例2例について審議し、vCJDである可能性は低いと考えられるため、販売を見合わせる根拠とはならないと判断した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA Statement 2005年6月29日	米国農務省によると、2005年6月第4週にBSE検査陽性と同定されたウシについてDNA検査を行い、このウシはテキサス州内で飼育され、年齢が12歳前後であったことが確認された。
2005/10/20	50607	持田製薬株式会社	-	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	トリパノソーマ症	The Weekly Epidemiological Record 2005;80(7):61-4	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											HTLV	Reuters Foundation AlertNet,Newsdesk 26 Feb 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ搔かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回 Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのか。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(8):7-8	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年4月21日	2005年4月19日現在、アンゴラ保健省はマールブルグ出血熱症例266例を報告。うち239例は死亡。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Seattle Post seattlepi.com news 21 Apr 2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministerio da saude Direccao-Geral da Saude Comunicado, Lisboa (2005年6月9日付)	ポルトガル当局は、ポルトガルで初のvCJD患者を報告した。患者は12才男児。イギリスへの渡航歴はない。CJD共同研究グループのvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。
											レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月3日	2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大。中国当局は206例中38例が死亡と報道。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Reuters Foundation Alter Net newsdesk2005年7月29日	2005年7月、スペインで初のvCJD感染によると思われる死亡例。スペイン厚生省によると、確認のため検体は英国のエジンバラの専門家へ送られている。患者は神経組織を多く含む動物製品を食べ、動物も汚染された餌を摂取していたと考えられている。この場合の潜伏期間は5年～10年と思われる。
2005/10/20	50608	ZLBベーリング株式会社	-	ヒトアルブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストラリア	添加物	有	有	無	人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
2005/10/20	50609	ZLBベーリング株式会社	-	ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
2005/10/20	50610	ZLBベーリング株式会社	-	アプロチニン	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
2005/10/20	50611	ZLBベーリング株式会社	-	トロンボプラスチン	ウサギ脳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/10/20	50612	ZLBベーリング株式会社	-	トロンピン画分	ウシ血液	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
2005/10/20	50613	ZLBベーリング株式会社	-	ウマコラーゲン	ウマアキレス腱	フランス、ドイツ、ベルギー、イタリア		無	無	無			



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/20	50614	ZLBベーリング株式会社	-	アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	製造工程	有	有	無	人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
2005/10/20	50615	ZLBベーリング株式会社	-	ヒトフィブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
2005/10/20	50616	日本化薬株式会社	BCG・コンノート株	乾燥BCG膀胱内用(コンノート株)	牛型結核菌生菌	カナダ	有効成分	無	無	無			
2005/10/21	50617	中外製薬株式会社	レノグラステム(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血漿	不明	製造工程	無	無	無			
2005/10/21	50618	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	パンクレアチン	ブタ膵臓	1. 米国、カナダ 3. 日本、米国、カナダ、フランス	製造工程	無	無	無			
2005/10/21	50619	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ペプシン	ブタ胃液	不明	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/21	50620	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	プリマトンHS/UF	ウシ脾臓、心臓、ウマ脾臓、豚肉、ブタラードウオーター	ウシ:米国 ウマ:米国、カナダ ブタ:米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/10/21	50621	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ブタラードウオーター	ブタ脂肪	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/10/21	50622	中外製薬株式会社	トシリズマブ(遺伝子組換え)	ガラクトース	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
2005/10/21	50623	中外製薬株式会社	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチンペータ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ血清	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/10/21	50624	中外製薬株式会社	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチンペータ(遺伝子組換え)	DMEM/F12	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/10/21	50625	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え) レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチンペータ(遺伝子組換え) トシリズマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	不明	製造工程	無	無	無			
2005/10/21	50626	中外製薬株式会社	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチンペータ(遺伝子組換え)	ブタインスリン	ブタ臓臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/10/21	50627	武田薬品工業株式会社	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	ウシの乳由来成分	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/10/21	50628	武田薬品工業株式会社	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	2005年2月4日、CJDサーベイランス委員会及び厚生科学審議会疾病対策部会にて、輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。この患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるcCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞在1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。
											C型肝炎	共同通信2005年4月26日	米国で採血された血漿から作られる組織接着剤によるHCV感染疑いの事例。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut Information for Physicians and Pharmacists	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
											C型肝炎	共同通信2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤の高感度検査をすり抜けて、80歳女性患者に輸血された。患者からはHCV感染歴を示す抗体が検出され、保管検体の再調査でHCVが検出された。
2005/10/21	50629	第一アスピオファーマ株式会社	インターフェロンタンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	ウイルス感染	Reuters Foudation AlertNet Newsdesk 2005年8月22日	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスを Human bocavirsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Foudation AlertNet Newsdesk 2005年8月22)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスを Human bocavirsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											感染	Thanh Nien News 2005年4月1日	2005年4月、ベトナム当局は原因不明の疾患(足と腕の麻痺)のため2名死亡し120名が発病した原因を調査している。現在までに中毒が疑われている。
											感染	newindpress 2005年5月25日	2005年5月、インドTiruchy市近郊の孤児院で66名の小児が感染した新しいタイプの発熱性疾患について。当初の検査結果ではマリアが疑われたが否定され、バベシア症などの人畜共通感染症が疑われ検査が実施中である。
											感染	新華社通信 2005年6月17日	2005年6月、ネパール当局はネパール西部の異なる2地区で下痢、呼吸器感染を原因不明の疾患により少なくとも33名が死亡し、周辺地区にも感染が拡大していると報告。
											感染	Reuters Foudation AlertNet Newsdesk 2005年6月20日	2005年6月、トルコのある病院の新生児集中治療室(NICU)収容患者の約半数にあたる未熟児7名が原因不明の細菌感染のために死亡、9名が重篤。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											感染	ProMed20050625-0090(Mi punto Noticias 6月24日)	2005年6月23日、グアテマラ当局は首都西部とメキシコ国境の原住民集団でウイルス感染によりこれまでに小児5名が死亡と報告。このウイルスは脳炎やウイルス性髄膜炎を来すと考えられるが現時点ではウイルスの同定や感染経路は不明。感染後48時間以内に死亡。
2005/10/24	50630	富士製薬工業株式会社	トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ又はブタの肺	ウシ:ニュージーランド、ブタ:デンマーク	製造工程	有	無	無	BSE	The New Farm 2005年6月24日	2005年6月24日、米国2例目のBSE確認の報告。2004年11月以降様々な試験を行い、英国ウェブリッジのThe Veterinary Laboratories Agencyにて確定された。米国農務省(USDA)は今後迅速スクリーニング試験において曖昧な結果のであった場合、直ちにIHC法、ウエスタンブロット確認試験の両試験を行うと言っている。
2005/10/24	50631	富士製薬工業株式会社	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	ニュージーランド、米国、オーストラリア	有効成分	有	無	無	BSE	The New Farm 2005年6月24日	2005年6月24日、米国2例目のBSE確認の報告。2004年11月以降様々な試験を行い、英国ウェブリッジのThe Veterinary Laboratories Agencyにて確定された。米国農務省(USDA)は今後迅速スクリーニング試験において曖昧な結果のであった場合、直ちにIHC法、ウエスタンブロット確認試験の両試験を行うと言っている。
2005/10/24	50632	富士製薬工業株式会社	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	妊婦の尿抽出物	中国、ブラジル	有効成分	有	無	有	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。
											HTLV	Proceedings of National Academy Science 2005;102(22):7994-9	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回 Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのか。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 2005;10(6)	ポルトガル保健監督局より、検査室結果で判明したポルトガルにおける初のvCJD可能性患者を報告。患者はCJD共同研究グループのvCJDの診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。イギリスへの渡航歴はない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
2005/10/24	50633	日本製薬株式会社	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるcCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞在1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。
											C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	2004年4月、外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。この接着剤は米国で採血された血漿由来で患者から検出されたHCVは欧米に多い遺伝子タイプであった。(2005年4月26日血液事業部運営委員会での報告)
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
											C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。これによる献血量不足が予想される。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	CBER 2005年6月	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づき成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
											E型肝炎	CDR Weekly 2005;15(30)	2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニブルテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Blood Service	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Qubec Center Press July 2005	カナダHema-Qubecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
2005/10/24	50634	日本製薬株式会社	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるcCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞在1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。
											C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	2004年4月、外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。この接着剤は米国で採血された血漿由来で患者から検出されたHCVは欧米に多い遺伝子タイプであった。(2005年4月26日血液事業部運営委員会での報告)
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
											C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。これによる献血量不足が予想される。
											ウエストナイルウイルス	CBER 2005年6月	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
											E型肝炎	CDR Weekly 2005;15(30)	2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Blood Service	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Quebec Center Press July 2005	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
2005/10/25	50635	大洋薬品工業株式会社	ワクシニアウイルス摂取家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス摂取家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ	中国	有効成分	有	無	無	野兎病	mvgazette.com2005年7月8日	2005年米国当局より、汚染された兎の吸入による野兎病感染と考えられる症例が報告された。2000年夏から流行した野兎病確定診断された30名のうち7名を除く全員が肺炎型であった。
2005/10/25	50636	大日本製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	ヒツジ血清由来成分	ヒツジ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/10/25	50637	大日本製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/10/25	50638	大日本製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	ウシ血清由来成分	ウシ血液	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/10/25	50639	大日本製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	ヒトリンパ芽球細胞樹立株ナマルバ細胞	ヒト細胞			無	無	無			
2005/10/25	50640	大日本製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	加熱人血漿たん白	人血液	米国	添加物	無	無	無			
2005/10/25	50641	大日本製薬株式会社	インターフェロンアルファ(NAMALWA)	鶏卵由来成分	鶏卵		製造工程	無	無	無			
2005/10/25	50642	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	マウスモノクローナル抗体	マウス脾臓細胞と骨髄腫細胞のハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/25	50643	株式会社ベネシス	乾燥抗HBs人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	有	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	International J of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980~1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005; 88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択がイライラ基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。
											ウイルス感染	Transfusion,2005;45 (4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クローンフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。
											トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(H5N1)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											ウエストナイルウイルス	GDC/EID.11(8) 1294-1296.2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%。四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
											B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
2005/10/26	50644	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイドス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオンの垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群(Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クローンフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンベロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirnsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:8 07-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会 総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6) :994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の選及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
2005/10/26	50645	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	HIV	IASR(共同通信2004年 12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイド案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrP <sup>c</sup> の分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrP <sup>c</sup> 発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrP <sup>c</sup> が認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP <sup>c</sup> 発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosuveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳PrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群(Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンベロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地域だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:8 07-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会 総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6) :994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
											変異型クワイツ フェルト・ヤコブ 病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
2005/10/26	50646	日本赤十字社	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	IASR(共同通信2004年 12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイドス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP) <sub>Sc</sub> R208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrP <sub>Sc</sub> の特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrP <sub>Sc</sub> )もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrP <sub>Sc</sub> )も両方の異常プリオン蛋白質(PrP <sub>Sc</sub> )を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrP <sup>c</sup> の分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrP <sup>c</sup> 発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrP <sup>c</sup> が認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP <sup>c</sup> 発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosuveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳PrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群 (Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の薄片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地域だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:8 07-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会 総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6) :994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の選及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
2005/10/26	50647	日本赤十字社	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	IASR(共同通信2004年 12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイダンス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6) :1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン <sup>1</sup> の垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド <sup>2</sup> 輸血サービス(IBTS)とアイルランド <sup>2</sup> 当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
											BSE	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群(Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適合である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペローフを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニブルテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒへの応用が期待される。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:807-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	第53回日本輸血学会総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経緯について。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - I とHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II 型の性感染率は I 型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
2005/10/27	50648	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	アメリカ、オーストラリア、カナダ	製造工程	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/ Weekly information / by date	Disease Information 2005年7月1日号 Vol.18 No.26 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.8: 今回報告終了日-2005年6月26日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの発生日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの概要 - Arizona州Navajo郡Taylorの農場(アウトブレイクの発生日:2005年6月13日):ウマにおいて疑い例1例 症例1例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/ Weekly information / by date	Disease Information 2005年7月15日号 Vol.18 No.28 米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 10: 今回報告終了日-2005年7月10日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 アウトブレイクの詳細 - Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年6月28日):ウマにおいて疑い例1例 症例1例



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年7月29日号 Vol.18 No.30 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 11: 今回報告終了日-2005年7月24日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Arizona州Yavapai郡の農場(2件):ウマにおいて疑い例25例, 症例2例, ウシにおいて疑い例14例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月5日号 Vol.18 No.31 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 12: 今回報告終了日-2005年7月31日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Mesa郡の農場(3件):ウマにおいて疑い例2例, 症例2例, ウシにおいて疑い例13例, 症例8例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月19日号 Vol.18 No.33 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 13: 今回報告終了日-2005年8月14日 , 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey , アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 , アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 , 新規アウトブレイクの詳細-Colorado(以下C)州Archuleta郡の農場(1件):ウマ(疑い例4例, 症例2例), ウシ(疑い例2)等

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月26日号 Vol.18 No.34 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 14: 今回報告終了日-2005年8月21日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡の農場(2件):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例1例, 症例1例, 等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月2日号 Vol.18 No.35 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 15: 今回報告終了日-2005年8月28日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡の農場(6件):ウマにおいて疑い例26例, 症例6例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月16日号 Vol.18 No.37 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 16: 今回報告終了日-2005年9月11日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡, Mesa郡, Moffatt郡, Montezuma郡, Montrose郡, Ouray郡 等

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月23日号 Vol.18 No.38 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 17: 今回報告終了日—2005年9月20日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Delta郡, Montezuma郡, Routt郡の農場(4件)(アウトブレイクの開始日2005年8月17日)
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, シカ科Cervidae, 家畜—米国(テキサス州) 情報源:テキサス州動物衛生委員会公式ニュース広報, 7月6日。 テキサス州Sutton郡の飼育場2カ所でウマ, シカ, ウシの炭疽感染患者が検査室診断確定され, 家畜やシカの喪失が報告された同郡内その他の場所数カ所の検査室診断結果は検査中である。(2005年7月9日掲載)
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ウシ—米国(ノースダコタ州) 情報源:米国In-Forum, Fargo, 7月7日。 炭疽検知のため当局が2つのウシ集団を隔離。ノースダコタ州南東部Ransom郡Sheyenne峡谷のウシ集団で炭疽が発見され, 診断がノースダコタ州立大学で確定したことを報じる当局者のコメントなど。(2005年7月10日掲載)
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ウシ—米国(ノースダコタ州) 情報源: The Horse.com。 2005年7月14日時点で, ノースダコタ州南東部にある11施設で, バイソン(野牛), ウシおよびウマでの炭疽症例が確認されている。今回の流行では, 家畜約30~35頭が炭疽に感染した。全症例がRansomおよびBarnes郡で発生した。(2005年7月19日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(ノースダコタ州) ・投稿者: Susan J. Keller, DVM(ノース ダコタ州獣医官)。 ノースダコタ州当局は現在, 8郡内の56 施設で炭疽症例を確認している。今年 の夏季中に炭疽により死亡した家畜の 頭数はまだ明らかになっていないが, 現 時点で200頭を越えていると推測してい る。症例が発生している種は, ウシ, ウ マ, バイソン, 飼育されているシカ類, ヒ ツジ, ラマである。 ・投稿者: Dr. Neil Dyer(ノースダコタ州 立大学獣医学診断研究所)。 当地では現在まで炭疽発生が続いてい る。
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, バイソン, ウシー米国(サウスダ コタ州) ・情報源: サウスダコタ州獣医官Dr Sam Holland獣医学博士記者発表, 7月21 日。 州獣医官はサウスダコタ州 Northwestern Sully郡の牧草地で大型 バッファロー[Plains Bison]と家畜の間 で炭疽が発生したと報告した。2005年7 月20日州獣医官が臨床検体を採取し検 査室に持ち帰り 診断は7月21日に確定 炭疽, バイソン, ウシー米国(South Dakota) 情報源: Principles and Practice of Infectious Diseases Online, 6th edition 州獣医官Sam Hollandから提供された データおよび情報。流行の始まりに気づ いたのは, 660頭の牛とバイソンの群れ が7月18日に死亡しているのが最初で, 7月20日に流行が確認された。それ以 後155頭が死亡した。 (2005年7月30日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, バイソン, ウシー米国(South Dakota) 情報源: Principles and Practice of Infectious Diseases Online, 6th edition 州獣医官Sam Hollandから提供された データおよび情報。流行の始まりに気づ いたのは, 660頭の牛とバイソンの群れ が7月18日に死亡しているのが最初で, 7月20日に流行が確認された。それ以 後155頭が死亡した。 (2005年7月30日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, バイソン, ウシ-米国(サウスダ コタ州) 投稿者: Sam Holland (DVM, サウスダ コタ州獣医官)。 2005年7月18日にバイソン(野牛)と肉牛 の群れで炭疽症例が診断されて、今年 の炭疽シーズンが始まった。これまで に、検査により37群で炭疽症例が診断 されている。炭疽による死亡頭数は野 牛、肉牛合わせて330頭に達した。サウ スダコタ州の炭疽症例発生マップが掲 載されたウェブサイトの紹介 ( <a href="http://www.state.sd.us/aib">http://www.state.sd.us/aib</a> )など。 (2005年8月18日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシ-米国(ミネソタ) 投稿者: Terry Boldingh, ミネソタ州動物 保健局 ミネソタ州北西部での状況の更新。いま までにミネソタ州北西部で2例の炭疽症 例が発生した。最初の例はRed Lake FallsとCrookstonの間のPolk 村で発生 した。食肉用牧場で、50頭の牛のうち10 頭が死亡した。2例目は、Roseau村南部 で、食肉用牧場の560頭中5頭が死亡し た。 (2005年7月30日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシ-米国(ミネソタ) ミネソタでの流行は終息したようであ る。5牧場での流行の詳細を記載。 (2005年9月9日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽-米国(モンタナ州) 情報源: Dr. Thomas Linfield。 今回の流行に関して、問題の牧場で は、8月28日～30日ごろに最初のウシ1 頭が死亡し、次いで9月4日～5日に8頭 が死亡した。9月10日までは新たな症例 は発生しなかったが、その後新たな死 亡例が発生した。総計でウシ37頭が死 亡したとされる。感染源は確認されてい ない。 (2005年9月18日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(モンタナ州) ・情報源: Washington Post, USA, 9月 16日。 モンタナ州北東部の牧場で, 炭疽により ウシ37頭が死亡したが, 問題の牧場は 現在隔離されている, と州獣医官が9月 15日に明らかにした。 ・情報源: CattleNetwork.com (AP), 9月 16日。 モンタナ州北東部の牧場で, 炭疽により ウシ37頭が死亡し, 今後新たな症例が 発生してもおかしくないと, と州獣医官 が9月15日に述べた。「症例が発生した 州北東部の Culbertsonにある大規模牧 場は, 9月12日以来隔離。
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE, ウシー米国: 疑い ・情報源: MSNBC上のライター記事, 6 月11日。米国産のウシでBSE検査が陽 性となり, さらなる追加検査が結果を確 定するためにイギリスの検査室で実施 されるとUSDAが公表した。 < <a href="http://msnbc.msn.com/id/8182017">http://msnbc.msn.com/id/8182017</a> > ・情報源: MSNBC上のAP記事, 6月11 日。 BSEの感染経路やBSEの特徴, 検査法 や政府対策などに関する一般視聴者向 けの良くある質問集。 < <a href="http://msnbc.msn.com/id/8183299">http://msnbc.msn.com/id/8183299</a> > ・情報源: 米国農務省(USDA)
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE, ウシー米国 ・情報源: USDA記者室発表No. 0232.05, 6月24日。 農業書記官は2005年6月24日, 米国農 務省(USDA)がイギリスWeybridge(国 際BSE委託検査室である)獣医学検査 室(VLA)より, 2004年11月に食用供給 から外された動物検体が牛海綿状脳症 (BSE)検査陽性であるとの最終検査結 果を受領したことを公表した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	Alert Messages 米国におけるBSE: (米国における前回のBSE症例がOIEに 報告された日時:2003年12月(輸入動 物)) 報告日:2005年6月27日 2004年11月に迅速スクリーニング検査 で検討された際にはBSEと診断確定で きなかった歩行困難なウシが、2005年6 月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委 託研究所でウエスタンプロット法と免疫 化学法を用いて陽性と確認された。歩 行困難な個体として、問題のウシはヒト の食糧連鎖からは除外されている。死 骸は焼却処分された。
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE、ウシー米国 情報源:USDA記者発表,6月29日。 米国農務省(USDA)主任獣医官John Clifford氏による声明。「2005年6月第4 週、BSE検査陽性と同定された動物が 飼育されていた個体集団(群)がDNA検 査により同定された。飼主から当局が 入手した情報に基づいて、このウシはテ キサス州内で飼育されている集団で生 育し、年齢が約12才前後であったことが 確認された。問題のウシは、テキサス州 のペットフード工場へ送られ、到着時に 抜き取り検査検体として選択された。」
											BSE	FDA News	米FDA、BSEに関する調査の結果を報 告 米農務省(USDA)の動植物衛生検査部 (APHIS)およびFDAは、2005年6月に牛 海綿状脳症(BSE)に検査陽性となった ウシに関する調査を完了した。本症例 はテキサスの牧場で生まれ育ち、死亡 当時は約12才で、1997年の飼料禁止令 の実施以前に生まれていた。2004年11 月に家畜販売業者を介して販売され、 食品加工工場に輸送されたが、到着時 に死亡しており、その後BSE検査が行わ れたペットフード工場に輸送され、使用 されずに2004年11日に死骸が処分され

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	・BSE最新状況、2005年、米国：3例目 発生の疑い、情報源：Reuters alertnet, 7月27日。 米国農務省は7月27日、BSEが疑われ ている12才令のウシが、米国で3例目の BSE症例であるか確認するため、再検 査される予定であると発表した。農務省 Clifford主任獣医官は、2005年4月出産 に伴う合併症で死んだ後処分された感 染疑いウシが、BSEスクリーニング検査 で陰性と確定できない検査結果が出て いたことを明らかにした。
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE－米国：否定 情報源：APHISニュース Deputy administrator Animal & Plant Health Inspection Service発表 2005年8月3日、アイオワ州Amesにある U.S. Department of Agriculture's National Veterinary Services Laboratories (NVSL)は、2005年7月27 日の報告した中間検査の結果、BSE陰 性であると発表した。
2005/10/27	50649	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	C127細胞株	マウス細胞	スイス	製造工程	無	無	有			
2005/10/27	50650	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ソマトロピン(遺伝子組換え)	C127細胞株	スイス	有効成分	無	無	有			
2005/10/27	50651	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ臓臓	英国、米国、カナダ、デンマーク	製造工程	無	無	有			
2005/10/27	50652	セローノ・ジャパン株式会社	下垂体性腺刺激ホルモン	下垂体性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	デング熱	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	デング／デング出血熱最新情報2005年 ・中国(香港特別自治区SAR)、情報源： 香港News.gov.hk、4月21日。 保健保護局は31才男性のデング熱輸 入患者を確定し、今年の患者総数は5 名となり、全例が輸入患者である。患者 は3月12日から27日までインドネシアへ 渡航し、発熱などを3月27日に発症、3 月28日に個人病院に入院し、4月4日 には退院した。この男性の家族で症状 を発症しているものはいない。
											デング熱	ProMed20050511- 0020(News gov hk,Hong Kong)	中国保健センターは6例目のデング熱 輸入患者を確認した。患者と接触した家 族に病気の兆候はない。
											デング熱	ProMed20050624- 0030(News gov hk,Hong Kong)	中国保健センターは8例のデング熱輸 入患者を確認した。患者と触した者には 病気の兆候はない。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											感染	ProMed20050625-006(Taiwan News)	保健省疾病予防センターは2000年以降初のコレラ国内感染患者を確定。
											感染	ProMed20050625-006(News.gov.hk)	保健省疾病予防センターは2例目のコレラ国内感染患者を確定。
											感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ, 下痢症, 赤痢 2005年更新 中国(情報源: XinHuaNet.com) 中国衛生部の8月10日の発表によると, 2005年7月の中国全土での感染症患者発生は27疾患390, 418人であった。香港(情報源: News.gov.hk) (WHOコレラ患者報告8/5-11(情報源: WHO Epidemiological Record, 12 Aug 2005 2005)
											感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ更新2005年 香港←インドネシア(情報源: News.gov.hk), WHO報告(情報源: WHO Epidemiological Record, 19 Aug 2005 2005)コレラの輸入患者が確認された。香港で4例目の輸入患者を確認した。この患者はインドネシアで発病し, 香港に8月5日に到着した。この患者の状態は安定しており, Princess Margaret病院に入院した。4例のうち, 1例は国内感染で, 2例は輸入例で, 1例は分類保留である。(2005年8月20日掲載)
											感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ, 下痢症, 赤痢 更新2005年 コレラ-中国(福建省)(情報源: XinHuaNet.com) 中国東部の福建省で2005年8月からコレラ患者が172名発見された。これはここ数年で最も多い。福州で2005年8月12日に最初のコレラ患者やG発見されてからこれまでに一人の死亡も出ていない。現在までに83名の患者が快復し, 病院から退院した。他の患者の容態は安定している。多くの患者が道端の小さな店でシーフードを食べたと言っている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳しい情報)	原因不明の大量死－中国(四川省):情報提供の依頼 ・情報源:新華社通信Xinhua Net, 7月23日。 中国南西部四川省で過去4週間以内に現地住民20名が原因不明の疾患に感染し,うち9名が死亡したと州保健局が2005年7月23日確認した。2005年6月24日から7月21日までの間に資陽Ziyang市の3つの病院では同様の症状を呈した患者20名が入院した。7月21日までに患者9名が死亡したが,1名は快復し退院した。さらに10名の患者が治療を受けており,うち6名は重症であると,省保健局は明らかにした
											感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳しい情報)	原因不明の疾患,スイミングプール－中国(内モンゴル):情報提供依頼 2005年7月末以来,内モンゴルの省都のHohhotの公衆プールを使用した400人以上の小児が発病した。Hohhotのプールは閉鎖されたが,73名の患者は現在も入院している。一部の患者は皮膚の発疹と発熱を呈している。中国衛生部は,国内全土の衛生署に対し,スイミングプールの監視の強化を通知した。 < <a href="http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/PEK204943.htm">http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/PEK204943.htm</a> > (2005年8月20日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳しい情報)	炭疽, ヒト患者－中国(遼寧省) 情報源: Reuters 中国北東部で最近数週間発生している炭疽事例で,1名が死亡し,12名が感染したと国営メディアが8月7日に報じた。炭疽は2005年7月29日に遼寧省瀋陽市の郊外で発生したと新華社通信がウェブサイト上で報じた。8月5日時点でDamintun町では,新規患者は過去5日間報告されておらず,現地住民の生活も正常に戻った。患者11名は病院で治療を受け,快復していると伝えられた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											エボラ出血	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳しい情報)	出血熱－中国(内モンゴル自治区) 情報源:新華社通信Xinhua News Agency上のNorthern New Times記事, 6月28日。 内モンゴル自治区保健局は2005年6月 27日,今年自治区全域にわたる感染性 出血熱発生率に関する状況を報告し た。2005年1月1日から6月3日の間に内 モンゴル自治区全域で総計187名の出 血熱患者が報告されている。昨年同じ 時期に比較して発生率は192.18%増加 した。2名の死亡患者があり,2004年 同じ時期(1名死亡)より100%増加!
											日本脳炎	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳しい情報)	日本脳炎－中国:疑い 情報源:South China Morning Postウェブ サイト,香港,6月3日。 中国甘肅省と広西壮族自治区で2件の ウイルス性脳炎流行が報告され,100名 以上の小児が感染し,2名の死亡が報 告された。この状況は全国規模での警 報を発するほどには至らないが,中国 全土が日本脳炎流行のピークの季節に 当たるため,今回の流行により保健当 局者は警戒を強めている。香港保健局 広報官は2005年6月22日,流行調査を 文書で要請したと述べた。
											日本脳炎	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳しい情報)	日本脳炎－中国:疑い 情報源:Gansu Daily / Xinhua, 6月28 日。 中国北西部甘肅省の都市天水Tianshui 市小児における最近の脳炎流行は,市 感染制御予防センター長官Wang氏によ れば,一種のウイルス性脳炎である [Moderator注:検査室診断結果のない 純粋な推測である]。2005年6月24日 に開催された地方保健当局による記者会 見で,Wang氏は3月4日から6月23日ま でに天水Tianshui市内2つの病院では, 発熱と頭痛のため年令1才から13才の 小児を収容したことを明らかにした。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ペスト	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳 しい情報)	ペストー中国(チベット自治区) ・情報源: XinHuaNet.com, 6月25日。 中国南西部チベット自治区Xigaze県 Zhongba郡におけるペストは制圧されたと、 チベット保健局報告を引用して中国保健省が報じた。この流行でこれまでに 5名が感染したと現地保健省当局者が 2005年6月25日述べた。患者は6月13 日から18日にかけて発生しており、うち 2名が死亡した。 < <a href="http://news.xinhuanet.com/english/2005-06/25/content_3136079.htm">http://news.xinhuanet.com/english/2005-06/25/content_3136079.htm</a> >
2005/10/27	50653	セローノ・ジャパン株式会社	下垂体性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	米国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation / Weekly information / by date	Disease Information 2005年7月1日号 Vol.18 No.26 米国における水疱性口内炎－Follow-up report No.8: 今回報告終了日－2005年6月26日 病因の同定－水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日－2005年4月27日 アウトブレイクの発生日－2005年4月16日 新規アウトブレイクの概要 －Arizona州Navajo郡Taylorの農場(アウトブレイクの発生日: 2005年6月13日): ウマにおいて疑い1例、症例1例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation / Weekly information / by date	Disease Information 2005年7月15日号 Vol.18 No.28 米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 10: 今回報告終了日－2005年7月10日 病因の同定－水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日－2005年4月27日 アウトブレイクの開始日－2005年4月16日 アウトブレイクの詳細 －Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年6月28日): ウマにおいて疑い1例、症例1例

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年7月29日号 Vol.18 No.30 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 11: 今回報告終了日-2005年7月24日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Arizona州Yavapai郡の農場(2件):ウマにおいて疑い例25例, 症例2例, ウシにおいて疑い例14例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月5日号 Vol.18 No.31 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 12: 今回報告終了日-2005年7月31日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Mesa郡の農場(3件):ウマにおいて疑い例2例, 症例2例, ウシにおいて疑い例13例, 症例8例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月19日号 Vol.18 No.33 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 13: 今回報告終了日-2005年8月14日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細-Colorado(以下C)州Archuleta郡の農場(1件):ウマ(疑い例4例, 症例2例), ウシ(疑い例2)等

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月26日号 Vol.18 No.34 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 14: 今回報告終了日-2005年8月21日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡の農場(2件):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例1例, 症例1例, 等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月2日号 Vol.18 No.35 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 15: 今回報告終了日-2005年8月28日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡の農場(6件):ウマにおいて疑い例26例, 症例6例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月16日号 Vol.18 No.37 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 16: 今回報告終了日-2005年9月11日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡, Mesa郡, Moffatt郡, Montezuma郡, Montrose郡, Ouray郡 等

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月23日号 Vol.18 No.38 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 17: 今回報告終了日—2005年9月20日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Delta郡, Montezuma郡, Routt郡の農場(4件)(アウトブレイクの開始日2005年8月17日)
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, シカ科Cervidae, 家畜—米国(テキサス州) 情報源:テキサス州動物衛生委員会公式ニュース広報, 7月6日。 テキサス州Sutton郡の飼育場2カ所でウマ, シカ, ウシの炭疽感染患者が検査室診断確定され, 家畜やシカの喪失が報告された同郡内その他の場所数カ所の検査室診断結果は検査中である。(2005年7月9日掲載)
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ウシ—米国(ノースダコタ州) 情報源:米国In-Forum, Fargo, 7月7日。 炭疽検知のため当局が2つのウシ集団を隔離。ノースダコタ州南東部Ransom郡Sheyenne峡谷のウシ集団で炭疽が発見され, 診断がノースダコタ州立大学で確定したことを報じる当局者のコメントなど。 (2005年7月10日掲載)
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ウシ—米国(ノースダコタ州) 情報源:The Horse.com。 2005年7月14日時点で, ノースダコタ州南東部にある11施設で, バイソン(野牛), ウシおよびウマでの炭疽症例が確認されている。今回の流行では, 家畜約30~35頭が炭疽に感染した。全症例がRansomおよびBarnes郡で発生した。 (2005年7月19日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(ノースダコタ州) ・投稿者: Susan J. Keller, DVM(ノース ダコタ州獣医官)。 ノースダコタ州当局は現在, 8郡内の56 施設で炭疽症例を確認している。今年 の夏季中に炭疽により死亡した家畜の 頭数はまだ明らかになっていないが, 現 時点で200頭を越えていると推測して いる。症例が発生している種は, ウシ, ウ マ, バイソン, 飼育されているシカ類, ヒ ツジ, ラマである。 ・投稿者: Dr. Neil Dyer(ノースダコタ州 立大学獣医学診断研究所)。
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, バイソン, ウシー米国(サウスダ コタ州) ・情報源: サウスダコタ州獣医官Dr Sam Holland獣医学博士記者発表, 7月21 日。 州獣医官はサウスダコタ州 Northwestern Sully郡の牧草地で大型 バッファロー[Plains Bison]と家畜の間 で炭疽が発生したと報告した。2005年7 月20日州獣医官が臨床検体を採取し検 査室に持ち帰り, 診断は7月21日に確定 炭疽, バイソン, ウシー米国(South Dakota) 情報源: Principles and Practice of Infectious Diseases Online, 6th edition 州獣医官Sam Hollandから提供された データおよび情報。流行の始まりに気づ いたのは, 660頭の牛とバイソンの群れ が7月18日に死亡しているのが最初で, 7月20日に流行が確認された。それ以 後155頭が死亡した。 (2005年7月30日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, バイソン, ウシー米国(サウスダ コタ州) 投稿者: Sam Holland (DVM, サウスダ コタ州獣医官)。 2005年7月18日にバイソン(野牛)と肉牛 の群れで炭疽症例が診断されて, 今年 の炭疽シーズンが始まった。これまで に, 検査により37群で炭疽症例が診断 されている。炭疽による死亡頭数は野 牛, 肉牛合わせて330頭に達した。サウ スダコタ州の炭疽症例発生マップが掲 載されたウェブサイトの紹介 ( <a href="http://www.state.sd.us/aib">http://www.state.sd.us/aib</a> )など。 (2005年8月18日掲載)



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(ミネソタ) 投稿者: Terry Bolding, ミネソタ州動物 保健局 ミネソタ州北西部での状況の更新。いま までにミネソタ州北西部で2例の炭疽症 例が発生した。最初の例はRed Lake FallsとCrookstonの間のPolk 村で発生 した。食肉用牧場で, 50頭の牛のうち10 頭が死亡した。2例目は, Roseau村南部 で, 食肉用牧場の560頭中5頭が死亡し た。 (2005年7月30日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシ - 米国(ミネソタ) ミネソタでの流行は終息したようであ る。5牧場での流行の詳細を記載。 (2005年9月9日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽 - 米国(モンタナ州) 情報源: Dr. Thomas Linfield。 今回の流行に関して, 問題の牧場で は, 8月28日～30日ごろに最初のウシ1 頭が死亡し, 次いで9月4日～5日に8頭 が死亡した。9月10日までは新たな症例 は発生しなかったが, その後新たな死 亡例が発生した。総計でウシ37頭が死 亡したとされる。感染源は確認されてい ない。 (2005年9月18日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(モンタナ州) ・情報源: Washington Post, USA, 9月 16日。 モンタナ州北東部の牧場で, 炭疽により ウシ37頭が死亡したが, 問題の牧場は 現在隔離されている, と州獣医官が9月 15日に明らかにした。 ・情報源: CattleNetwork.com (AP), 9月 16日。 モンタナ州北東部の牧場で, 炭疽により ウシ37頭が死亡し, 今後新たな症例が 発生してもおかしくないと, と州獣医官 が9月15日に述べた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE, ウシ-米国: 疑い ・情報源: MSNBC上のライター記事, 6 月11日。米国産のウシでBSE検査が陽 性となり, さらなる追加検査が結果を確 定するためにイギリスの検査室で実施 されるとUSDAが公表した。 < <a href="http://msnbc.msn.com/id/8182017">http://msnbc.msn.com/id/8182017</a> > ・情報源: MSNBC上のAP記事, 6月11 日。 BSEの感染経路やBSEの特徴, 検査法 や政府対策などに関する一般視聴者向 けの良くある質問集。 < <a href="http://msnbc.msn.com/id/8183299">http://msnbc.msn.com/id/8183299</a> >
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE, ウシ-米国 ・情報源: USDA記者室発表No. 0232.05, 6月24日。 農業書記官は2005年6月24日, 米国農 務省 (USDA) がイギリスWeybridge (国 際BSE委託検査室である) 獣医学検査 室 (VLA) より, 2004年11月に食用供給 から外された動物検体が牛海綿状脳症 (BSE) 検査陽性であるとの最終検査結 果を受領したことを公表した。
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	Alert Messages 米国におけるBSE: (米国における前回のBSE症例がOIEに 報告された日時: 2003年12月 (輸入動 物)) 報告日: 2005年6月27日 2004年11月に迅速スクリーニング検査 で検討された際にはBSEと診断確定で きなかった歩行困難なウシが, 2005年6 月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委 託研究所でウエスタンプロット法と免疫 化学法を用いて陽性と確認された。歩 行困難な個体として, 問題のウシはヒト の食糧連鎖からは除外されている。死 骸は焼却処分された。
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE, ウシ-米国 情報源: USDA記者発表, 6月29日。 米国農務省 (USDA) 主任獣医官John Clifford氏による声明。「2005年6月第4 週, BSE検査陽性と同定された動物が 飼育されていた個体集団(群)がDNA検 査により同定された。飼い主から当局が 入手した情報に基づいて, このウシはテ キサス州内で飼育されている集団で生 育し, 年令が約12才前後であったことが 確認された。問題のウシは, テキサス州 のペットフード工場へ送られ, 到着時に 抜き取り検査検体として選択された。」

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	FDA News	米FDA, BSEに関する調査の結果を報告 米農務省(USDA)の動植物衛生検査部(APHIS)およびFDAは、2005年6月に牛海綿状脳症(BSE)に検査陽性となったウシに関する調査を完了した。本症例はテキサスの牧場で生まれ育ち、死亡当時は約12才で、1997年の飼料禁止令の実施以前に生まれていた。2004年11月に家畜販売業者を介して販売され、食品加工工場に輸送されたが、到着時に死亡しており、その後BSE検査が行われたペットフード工場に輸送され、使用されずに2004年11日に死骸が処分された。BSE最新状況、2005年、米国:3例目 発生の疑い、情報源: Reuters alertnet, 7月27日。 米国農務省は7月27日、BSEが疑われている12才今のウシが、米国で3例目のBSE症例であるか確認するため、再検査される予定であると発表した。農務省Clifford主任獣医官は、2005年4月出産に伴う合併症で死んだ後処分された感染疑いウシが、BSEスクリーニング検査で陰性と確定できない検査結果が出ていたことを明らかにした。
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	BSE—米国:否定 情報源: APHISニュース Deputy administrator Animal & Plant Health Inspection Service発表 2005年8月3日、アイオワ州AmesにあるU.S. Department of Agriculture's National Veterinary Services Laboratories (NVSL)は、2005年7月27日の報告した中間検査の結果、BSE陰性であると発表した。
2005/10/27	50654	バイエル薬品株式会社	オクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	B型肝炎	Transfusion.2005:45	プール血漿に対してのNAT検査の有用性について、FDAが実施した欧米のHBV-NATの多施設試験の結果、HBsAg検査法等と比較してそれほど優れた方法ではなく、費用対策効果もわずかであり、NATの実施は現時点ではミューズール及び個別トナーに対して任意に実施されるべきである。現行のスクリーニングに本方法を追加することの利点は限られている」との見解を示した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	The Lancet Infect Diseases 2005;5:558-67	WHO調査によるC型肝炎発症の国別の調査結果。米国は1994年までの罹患率1.8%であり、途上国と比較して少ないが、感染経路は輸血が一番多い。発展途上国jは安全な血液供給、先進国でが安全な注射の実施および薬物使用者を減らすことに主眼が置かれるべきである。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Current Opinion in Biotechnology 2005;16:1-7	ウイルス、TSEに関する生物由来製品の安全性に関する総説。ノンエンベロープウイルスの分画での除去効率が低いことに伴う効果的不活化の研究開発課題。TSE病原体(プリオン)のより確実な除去方法の開発の課題と供血者のスクリーニングによる安全確保の重要性。
2005/10/27	50655	バイエル薬品株式会社	加熱人血漿たん白 オクトコグアルファ(遺伝子組換え)	加熱人血漿たん白	ヒト血液	米国	有効成分製造工程	有	無	無	HIV	The Lancet 2005; 365:1031-8	2004年12月、米国において現在市販されている抗レトロウイルス剤に耐性を示したHIV-1変異株感染例の報告。このウイルスはCCR5およびCXCR4および両方の受容体を発現していた。HIV感染からAIDS発症までの期間は4~20ヶ月の短期間であったと考えられる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	New York State Department of Health ホームページ	プリオン病の一種である、慢性磨耗病(CWD)について。2005年3月現在で北アメリカに限定され、野生シカおよびベラジカでのみ確認されている。現在ウシやヒトへの感染の報告はない。
											トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352:1839-42	世界規模でのインフルエンザ流行への警告。最悪のシナリオ回避のための方策などについて。
											BSE	USDA 2005年4月	2005年5月米国農務省は、カナダにおけるBSE発生状況の総括について概要を発表した。現在発生している4例はアルバータ州での発生であり、97年にカナダ政府が発行した反芻動物由来飼料の使用禁止前又は直後に感染した様子。問題の可能性のあるウシ859頭のうち29頭がカナダから米国に輸入された可能性があり、うち18頭が加齢または屠殺により死亡が確認されている。96年から97年に汚染されたウシ飼料がアルバータ州から米国に輸入された可能性はあるが、これら飼料はアジア方面に輸出された鳥の飼料に使用されたいずれかであると報告。よって米国において汚染源と考えられるあらゆる物質がウシ用飼料に使用された可能性は極めて低いと結論づけている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virological Methods 2005;125:187-93	二次抗体を使用しない直接ウエスタンブロット法によるプリオン検出法の開発。これにより、感度を維持しながら、非特異的バンドの出現を減少させることが可能であり、血漿製造工程における病原性プリオン除去能の評価に有用。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA/CHMP/BWP/C PMP/5136/03/ 2004 年10月	2004年10月、EMAからのvCJDリスクに関して血漿分画製剤の製造工程の安全性評価方法のガイドライン。プリオン除去のための製造工程の検討、モデルプリオン選択基準の根拠提示は必要であるなど。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virological Methods 2005;127:154-64	病原性プリオンの検出方法について、現行のウエスタンブロット法やELISAの100万倍以上の感度を示す可能性のあるイム/PCR法(IPCR)の紹介。現時点では実用段階ではないが今後の標準化が望まれる。
											コロナウイルス感染	Biologicals 2005;33:95-9	SARSコロナウイルスについて免疫グロブリン製剤でのS/D処理によるウイルス不活化能力の評価に関するドイツの報告。S/D処理により、処理後1分で検出限界以下まで不活化されることが示された。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1 084-8	輸血により感染するSENVウイルスについて。SENVウイルスはエンベロープを持たないウイルスであるために血液分画製剤のウイルス不活化工程で不活化されない可能性はあるが病原性が低いので重大な問題にはならないであろう。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerging Infectious Disease 2005;11(9)	2004年に死亡し、剖検によりvCJDが確定された在米英国人女性の症例報告。1979年英国生まれ。1992年米国移住。2001年11月に最初の兆候が見られた。手術、輸血、血液製剤の使用歴はなし。英国滞在中に感染したと考えられている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2005;89:63-70	発症前段階でのvCJDの新規診断方法について。(CDI法/SIFT法/イム/PCR法)これらの検査法の今後の課題は、擬陽性を避けること(特異性)で、真の陽性を見落とすこと(感度)よりもはるかに重要であろう。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	Transfusion.2005;45	プール血漿に対してのNAT検査の有用性について。FDAが実施した欧米のHBV-NATの多施設試験の結果、HBsAg検査法等と比較してそれほど優れた方法ではなく、費用対策効果もわずかであり、NATの実施は現時点ではミューズル及び個別ドナーに対して任意に実施されるべきである。現行のスクリーニングに本方法を追加することの利点は限られている」との見解を示した。
											C型肝炎	The Lancet Infect Diseases 2005;5:558-67	WHO調査によるC型肝炎発症の国別の調査結果。米国は1994年までの罹患率1.8%であり、途上国と比較して少ないが、感染経路は輸血が一番多い。発展途上国は安全な血液供給、先進国で安全な注射の実施および薬物使用者を減らすことに主眼が置かれるべきである。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Current Opinion in Biotechnology 2005;16:1-7	ウイルス、TSEに関する生物由来製品の安全性に関する総説。ノンエンベロープウイルスの分画での除去効率が低いことに伴う効果的不活化の研究開発課題。TSE病原体(プリオン)のより確実な除去方法の開発の課題と供血者のスクリーニングによる安全確保の重要性。
2005/10/27	50656	バイエル薬品株式会社	人血清アルブミン オクトコグアルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	有効成分 製造工程	有	無	無	HIV	The Lancet 2005; 365:1031-8	2004年12月、米国において現在市販されている抗レトロウイルス剤に耐性を示したHIV-1変異株感染例の報告。このウイルスはCCR5およびCXCR4および両方の受容体を発現していた。HIV感染からAIDS発症までの期間は4~20ヶ月の短期間であったと考えられる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	New York State Department of Health ホームページ	プリオン病の一種である、慢性磨耗病(CWD)について。2005年3月現在で北アメリカに限定され、野生シカおよびベラジカでのみ確認されている。現在ウシやヒトへの感染の報告はない。
											トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352:1839-42	世界規模でのインフルエンザ流行への警告。最悪のシナリオ回避のための方策などについて。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	USDA 2005年4月	2005年5月米国農務省は、カナダにおけるBSE発生状況の総括について概要を発表した。現在発生している4例はアルバータ州での発生であり、97年にカナダ政府が発行した反芻動物由来飼料の使用禁止前又は直後に感染した様子。問題の可能性のあるウシ859頭のうち29頭がカナダから米国に輸入された可能性があり、うち18頭が加齢または屠殺により死亡が確認されている。96年から97年に汚染されたウシ飼料がアルバータ州から米国に輸入された可能性はあるが、これら飼料はアジア方面に輸出された鳥の飼料に使用されたいずれかであると報告。よって米国において汚染源と考えられるあらゆる物質がウシ用飼料に使用された可能性は極めて低いと結論づけられている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virological Methods 2005;125:187-93	二次抗体を使用しない直接ウエスタンブロット法によるプリオン検出法の開発。これにより、感度を維持しながら、非特異的バンドの出現を減少させることが可能であり、血漿製造工程における病原性プリオン除去能の評価に有用。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EMEA/CHMP/BWP/C PMP/5136/03/ 2004年10月	2004年10月、EMEAからのvCJDリスクに関して血漿分画製剤の製造工程の安全性評価方法のガイドライン。プリオン除去のための製造工程の検討、モデルプリオン選択基準の根拠提示は必要であるなど。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Viological Methods 2005;127:154-64	病原性プリオンの検出方法について、現行のウエスタンブロット法やELISAの100万倍以上の感度を示す可能性のあるイムノPCR法 (IPCR) の紹介。現時点では実用段階ではないが今後の標準化が望まれる。
											コロナウイルス感染	Biologicals 2005;33:95-9	SARSコロナウイルスについて免疫グロブリン製剤でのS/D処理によるウイルス不活化能力の評価に関するドイツの報告。S/D処理により、処理後1分で検出限界以下まで不活化されることが示された。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	輸血により感染するSENVウイルスについて。SENVウイルスはエンベロープを持たないウイルスであるために血液分画製剤のウイルス不活化工程で不活化されない可能性はあるが病原性が低いので重大な問題にはならないであろう。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerging Infectious Disease 2005;11(9)	2004年に死亡し、剖検によりvCJDが確定された在米英国人女性の症例報告。1979年英国生まれ。1992年米国移住。2001年11月に最初の兆候が見られた。手術、輸血、血液製剤の使用歴はなし。英国滞在中に感染したと考えられている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2005;89:63-70	発症前段階でのvCJDの新規診断方法について。(CDI法/SIFT法/イム/PCR法)これらの検査法の今後の課題は、擬陽性を避けること(特異性)で、真の陽性を見落とすこと(感度)よりもはるかに重要であろう。
											B型肝炎	Transfusion.2005;45	プール血漿に対してのNAT検査の有用性について。FDAが実施した欧米のHBV-NATの多施設試験の結果、HBsAg検査法等と比較してそれほど優れた方法ではなく、費用対効果もわずかであり、NATの実施は現時点ではミニプール及び個別ドナーに対して任意に実施されるべきである。現行のスクリーニングに本方法を追加することの利点は限られている」との見解を示した。
											C型肝炎	The Lancet Infect Diseases 2005;5:558-67	WHO調査によるC型肝炎発症の国別の調査結果。米国は1994年までの罹患率1.8%であり、途上国と比較して少ないが、感染経路は輸血が一番多い。発展途上国は安全な血液供給、先進国で安全な注射の実施および薬物使用者を減らすことに主眼が置かれるべきである。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Current Opinion in Biotechnology 2005;16:1-7	ウイルス、TSEに関する生物由来製品の安全性に関する総説。ノンエンベロープウイルスの分画での除去効率が低いことに伴う効果的不活化の研究開発課題。TSE病原体(プリオン)のより確実な除去方法の開発の課題と供血者のスクリーニングによる安全確保の重要性。
2005/10/27	50657	バイエル薬品株式会社	オクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓	米国	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	New York State Department ofHealth ホームページ	プリオン病の一種である、慢性磨耗病(CWD)について。2005年3月現在で北アメリカに限定され、野生シカおよびベラジカでのみ確認されている。現在ウシやヒトへの感染の報告はない。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	USDA 2005年4月	2005年5月米国農務省は、カナダにおけるBSE発生状況の総括について概要を発表した。現在発生している4例はアルバータ州での発生であり、97年にカナダ政府が発行した反芻動物由来飼料の使用禁止前又は直後に感染した様子。問題の可能性のあるウシ859頭のうち29頭がカナダから米国に輸入された可能性があり、うち18頭が加齢または屠殺により死亡が確認されている。96年から97年に汚染されたウシ飼料がアルバータ州から米国に輸入された可能性はあるが、これら飼料はアジア方面に輸出された鳥の飼料に使用されたいずれかであると報告。よって米国において汚染源と考えられるあらゆる物質がウシ用飼料に使用された可能性は極めて低いと結論づけている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virological Methods 2005;125:187-93	二次抗体を使用しない直接ウエスタンブロット法によるプリオン検出法の開発。これにより、感度を維持しながら、非特異的バンドの出現を減少させることが可能であり、血漿製造工程における病原性プリオン除去能の評価に有用。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EMEA/CHMP/BWP/C PMP/5136/03/ 2004年10月	2004年10月、EMEAからのvCJDリスクに関して血漿分画製剤の製造工程の安全性評価方法のガイドライン。プリオン除去のための製造工程の検討、モデルプリオン選択基準の根拠提示は必要であるなど。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virological Methods 2005;127:154-64	病原性プリオンの検出方法について、現行のウエスタンブロット法やELISAの100万倍以上の感度を示す可能性のあるイム/PCR法(IPCR)の紹介。現時点では実用段階ではないが今後の標準化が望まれる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerging Infectious Disease 2005;11(9)	2004年に死亡し、剖検によりvCJDが確定された在米英国人女性の症例報告。1979年英国生まれ。1992年米国移住。2001年11月に最初の兆候が見られた。手術、輸血、血液製剤の使用歴はなし。英国滞在中に感染したと考えられている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2005;89:63-70	発症前段階でのvCJDの新規診断方法について。(CDI法/SIFT法/イム/PCR法)これらの検査法の今後の課題は、擬陽性を避けること(特異性)で、真の陽性を見落とすこと(感度)よりもはるかに重要であろう。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	USDA 2005年8月	2005年8月、米国農務省による米国における2例目のBSE例に関する調査報告。本調査では、このウシは反芻動物由来飼料の使用禁止措置前の数年前に産まれており感染ウシの産生牧場のウシで生存が確認されたのは2頭のみであり2頭ともBSEの可能性はないことが確認された。
2005/10/27	50658	バイエル薬品株式会社	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	HIV	The Lancet 2005; 365:1031-8	2004年12月、米国において現在市販されている抗レトロウイルス剤に耐性を示したHIV-1変異株感染例の報告。このウイルスはCCR5およびCXCR4および両方の受容体を発現していた。HIV感染からAIDS発症までの期間は4~20ヶ月の短期間であったと考えられる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	New York State Department of Health ホームページ	プリオン病の一種である、慢性磨耗病(CWD)について。2005年3月現在で北アメリカに限定され、野生シカおよびベラジカでのみ確認されている。現在ウシやヒトへの感染の報告はない。
											トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352:1839-42	世界規模でのインフルエンザ流行への警告。最悪のシナリオ回避のための方策などについて。
											BSE	USDA 2005年4月	2005年5月米国農務省は、カナダにおけるBSE発生状況の総括について概要を発表した。現在発生している4例はアルバータ州での発生であり、97年にカナダ政府が発行した反芻動物由来飼料の使用禁止前又は直後に感染した様子。問題の可能性のあるウシ859頭のうち29頭がカナダから米国に輸入された可能性があり、うち18頭が加齢または屠殺により死亡が確認されている。96年から97年に汚染されたウシ飼料がアルバータ州から米国に輸入された可能性はあるが、これら飼料はアジア方面に輸出された鳥の飼料に使用されたいずれかであると報告。よって米国において汚染源と考えられるあらゆる物質がウシ用飼料に使用された可能性は極めて低いと結論づけられている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virological Methods 2005;125:187-93	二次抗体を使用しない直接ウエスタンブロット法によるプリオン検出法の開発。これにより、感度を維持しながら、非特異的バンドの出現を減少させることが可能であり、血漿製造工程における病原性プリオン除去能の評価に有用。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EMEA/CHMP/BWP/C PMP/5136/03/ 2004年10月	2004年10月、EMEAからのvCJDリスクに関して血漿分画製剤の製造工程の安全性評価方法のガイドライン。プリオン除去のための製造工程の検討、モデルプリオン選択基準の根拠提示は必要であるなど。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Viological Methods 2005;127:154-64	病原性プリオンの検出方法について、現行のウェスタンブロット法やELISAの100万倍以上の感度を示す可能性のあるイム/PCR法(IPCR)の紹介。現時点では実用段階ではないが今後の標準化が望まれる。
											コロナウイルス感染	Biologicals 2005;33:95-9	SARSコロナウイルスについて免疫グロブリン製剤でのS/D処理によるウイルス不活化能力の評価に関するドイツの報告。S/D処理により、処理後1分で検出限界以下まで不活化されることが示された。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	輸血により感染するSENウイルスについて。SENウイルスはエンベロープを持たないウイルスであるために血液分画製剤のウイルス不活化工程で不活化されない可能性はあるが病原性が低いので重大な問題にはならないであろう。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerging Infectious Disease 2005;11(9)	2004年に死亡し、剖検によりvCJDが確定された在米英国人女性の症例報告。1979年英国生まれ。1992年米国移住。2001年11月に最初の兆候が見られた。手術、輸血、血液製剤の使用歴はなし。英国滞在中に感染したと考えられている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2005;89:63-70	発症前段階でのvCJDの新規診断方法について。(CDI法/SIFT法/イム/PCR法)これらの検査法の今後の課題は、擬陽性を避けること(特異性)で、真の陽性を見落とすこと(感度)よりもはるかに重要であろう。
											B型肝炎	Transfusion.2005;45	プール血漿に対してのNAT検査の有用性について。FDAが実施した欧米のHBV-NATの多施設試験の結果、HBsAg検査法等と比較してそれほど優れた方法ではなく、費用対策効果もわずかであり、NATの実施は現時点ではミープール及び個別ドナーに対して任意に実施されるべきである。現行のスクリーニングに本方法を追加することの利点は限られている」との見解を示した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	The Lancet Infect Diseases 2005;5:558-67	WHO調査によるC型肝炎発症の国別の調査結果。米国は1994年までの罹患率1.8%であり、途上国と比較して少ないが、感染経路は輸血が一番多い。発展途上国は安全な血液供給、先進国で安全な注射の実施および薬物使用者を減らすことに主眼が置かれることであり
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Current Opinion in Biotechnology 2005;16:1-7	ウイルス、TSEに関する生物由来製品の安全性に関する総説。ノンベローウイルスの分画での除去効率が低いことに伴う効果的不活化の研究開発課題。TSE病原体(プリオン)のより確実な除去方法の開発の課題と供血者のスクリーニングによる安全確保の重要性。
2005/10/28	50659	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	トリプシン	ブタの膵臓	アメリカ、カナダ	製造工程	有	有	無	レンサ球菌感染	Weekly Epidemiological record 2005;32(80):269-70	2005年8月3日中国保健省はブレンサ球菌の集団感染について報告。206例報告され、うち38例が死亡、18人が重症。
											レンサ球菌感染	Science 2005;309	中国四川省でのブレンサ球菌による集団感染発生のその後の経過。8月5日以降新たな症例は報告されていない。ヒトとブタにおいてブレンサ球菌の2型が確認されている。
											レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月16日	中国四川省でのブレンサ球菌による集団発生はヒト感染が215例報告され39例が死亡。8月5日以降新たな報告はされていない。専門家グループはヒト-ヒト感染の可能性はないとしている。
2005/10/28	50660	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ウシ血清	ウシの血液	オーストラリア・ニュージーランド	製造工程	無	有	無			
2005/10/28	50661	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ラクトアルブミン	ウシの乳	ニュージーランド	添加物	無	有	無			
2005/10/28	50662	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ミドリザル腎臓細胞	ミドリザルの腎臓	日本	製造工程	有	有	無	人畜共通感染症	Emerging Infectious Diseases 2005;11(7):1028-35	アジア初めてのSimian foamy virus(サル泡沫状ウイルス)の霊長類からヒトへの感染伝播の報告。(2000年7月調査)
2005/10/28	50663	バクスター株式会社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
2005/10/31	50664	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥弱毒性麻しんワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	胚初代培養細胞	ニワトリ	日本、アメリカ、メキシコ	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	2005年6月、動物衛生研究所は、茨城県で国内初のトリインフルエンザH5N2型を同定した。発生源又は感染源は特定されていないが、野鳥との接触による可能性が疑われる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/31	50665	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥弱毒性麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリプシン	ブタ臓臓	カナダ、アメリカ	製造工程	有	無	無	コロナウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3):446-8	2003年春にSARSの大流行が起こった中国においてブタから分離されたSARS関連コロナウイルス(SARS-Cov)の塩基配列、疫学解析を行った結果、直接的な証拠はないが、ヒトを起源とするSARS-Covのブタへのウイルス伝播が示唆された。
2005/10/31	50666	財団法人 化学及血清療法研究所	ボルヒール 乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 乾燥スルホ化人免疫グロブリン 人血清アルブミン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	有効成分添加物	有	有	無	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
											マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45 (4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for IndustryJuly 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合リエントリー

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。
2005/10/31	50667	財団法人 化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子乾燥濃縮人活性化プロテインCトロンビン	トロンビン	ヒト血液	日本	有効成分製造工程	有	有	無	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会(2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
											マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週間後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリー。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。
2005/10/31	50668	財団法人 化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第Ⅷ因子	アプロチニン液	ウシ肺臓	ウルグアイ	有効成分	有	有	無	変異型クローンフェルト・ヤコブ病	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウエイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/10/31	50669	財団法人 化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第Ⅷ因子	人血液凝固第Ⅷ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	有	無	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
											マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45 (4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシipientにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否かを精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合リエントリー
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に係るかもしれない。
2005/10/31	50670	財団法人 化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	有	無	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会(2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
											マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシipientにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合リエントリー
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に係るかもしれない。
2005/11/1	50671	日本赤十字社	洗浄人赤血球浮遊液	洗浄人赤血球浮遊液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005 Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイダンス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。
											エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡したことが疑われる症例。厚生労働省へは報告済み。
											マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチュ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	ドミニカ共和国アルタグラシアとドゥアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルサンタ・カタリナ州保健局によると、2005年3月、ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生したと発表。ブラジル当局は供血規制を行った。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスパリテーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100℃)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrPc発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPcは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosuveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンプロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群(Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:8 07-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会 総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6): 994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の選及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- IIの性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
											HTLV	Transfusion.2005;45:1 151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
2005/11/1	50672	日本赤十字社	白血球除去人赤血球浮遊液	白血球除去人赤血球浮遊液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	IASR(共同通信2004年 12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイダンス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡したことが疑われる症例。厚生労働省へは報告済み。
											マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチュ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	ドミニカ共和国アルタグラシアとトゥアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。
											トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルサンタ・カタリ州保健局によると、2005年3月、ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生したと発表。ブラジル当局は供血規制を行った。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一の免疫アッセイ法である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
											BSE	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genelal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosuveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン <sup>1</sup> の垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド <sup>1</sup> 輸血サービス(IBTS)とアイルランド <sup>2</sup> 当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDリサーチセンターに調査を依頼中。結果は8月末。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群 (Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペローフを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスを Human bocavirus と命名した。小児病棟 540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:807-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察した症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
											HTLV	Transfusion.2005;45:1151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/1	50673	日本赤十字社	人血小板濃厚液	人血小板濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイドン案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。
											エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡したことが疑われる症例。厚生労働省へは報告済み。
											マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチュ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	ドミニカ共和国アルタグラシアとトゥアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。
											トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルサンタ・カタリナ州保健局によると、2005年3月、ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生したと発表。ブラジル当局は供血規制を行った。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。
											変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クワイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
											変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クワイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrP <sup>c</sup> の分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrP <sup>c</sup> 発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrP <sup>c</sup> が認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP <sup>c</sup> 発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosuveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳PrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群 (Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地域だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:8 07-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会 総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6) :994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
											HTLV	Transfusion.2005;45:1151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
2005/11/1	50674	日本赤十字社	新鮮凍結人血漿	新鮮凍結人血漿	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイダンス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。
											エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡したことが疑われる症例。厚生労働省へは報告済み。
											マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											マラリア	Vox Sanguinis 2005;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチュ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	ドミニカ共和国アルグアシアとドゥアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。
											トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルサンタカタリナ州保健局によると、2005年3月、ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生したと発表。ブラジル当局は供血規制を行った。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFI A及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrPc発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPcは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン <sup>1</sup> の垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド <sup>1</sup> 輸血サービス(IBTS)とアイルランド <sup>2</sup> 当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダ <sup>1</sup> Hema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群(Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペローブを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重症呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:8 07-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会 総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6) :994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
											HTLV	Transfusion.2005;45:1 151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを検討する必要がある。
2005/11/1	50675	ZLBベーリン グ株式会社	フィブリノゲン加第XIII因子 人血液凝固第XIII因子	人血液凝固 第XIII因子	ヒト血液	米国、ドイツ、 オーストリア	有効成分	有	有	無	人畜共通感染症	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとvCJDに注意しなくてはならない。
											人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255- 74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
2005/11/1	50676	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン加第Ⅷ因子	フィブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	人畜共通感染症	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとvCJDに注意しなくてはならない。
											人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
2005/11/1	50677	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン加第Ⅷ因子	トロンビン末	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	人畜共通感染症	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとvCJDに注意しなくてはならない。
											人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
2005/11/1	50678	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン加第Ⅷ因子	アンチトロンビン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	製造工程	有	有	無	人畜共通感染症	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとvCJDに注意しなくてはならない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
2005/11/1	50679	ZLBベーリング株式会社	抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	人畜共通感染症	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとvCJDに注意しなくてはならない。
											人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
2005/11/1	50680	ZLBベーリング株式会社	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	人畜共通感染症	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとvCJDに注意しなくてはならない。
											人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
2005/11/1	50681	メルスモン製薬株式会社	-	胎盤絨毛分解物	ヒト胎盤	日本	有効成分	無	無	無			



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/2	50682	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血清	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(○157)および○26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシの○157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/11/2	50683	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	R Nase A	ウシの膵臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(○157)および○26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシの○157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/11/2	50684	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	D Nase I	ウシの膵臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(○157)および○26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシの○157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/11/2	50685	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	トリプシン	ブタの膵臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月3日	2005年8月現在、中国四川省でアウトブレイクしたブタ連鎖球菌の患者206例中38例が死亡。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
2005/11/2	50686	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(○157)および○26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシの○157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/11/2	50687	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	GL37細胞	アフリカミドリザルの腎細胞由来	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無			
2005/11/5	50688	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	アポセルロプラスミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒトヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合には永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリー。
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年7月、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。
2005/11/5	50689	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	血液	ウシ血液	日本	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/7	50690	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	パンクレアチン	ブタ膵臓	カナダ、イタリア、アメリカ	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3):446-8	2003年春にSARSの大流行が起こった中国においてブタから分離されたSARS関連コロナウイルス(SARS-Cov)の塩基配列、疫学解析を行った結果、直接的な証拠はないが、ヒトを起源とするSARS-Covのブタへのウイルス伝播が示唆された。
2005/11/8	50691	東和薬品株式会社	ウリナスタチンの注射液	ウリナスタチン	ヒト尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	狂犬病	The New England J of Medicine 2005;352(11):1103	臓器ドナーから移植レシピエント4例への狂犬病ウイルスの感染の報告。4名とも原因不明の脳症で死亡した。
											デング熱	CDC/MMWR 2005;54(22):556-8	2001年-04年にデング疑い患者366例の血清標本が検査のため米国CDCに提出され77例(21%)が急性デング感染症を確認された。うち8例が1次感染及び12例が2次感染を診断された。
2005/11/9	50692	株式会社ベネシス	ナサルブラーゼ(細胞培養)	ウマIgG	ウマ血液	日本	製造工程	無	無	無			
2005/11/9	50693	株式会社ベネシス	ナサルブラーゼ(細胞培養)	ウサギIgG	ウサギ血液	日本	製造工程	無	無	無			
2005/11/10	50694	沢井製薬株式会社	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
2005/11/11	50695	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ胎児血清	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	無	無	有			
2005/11/10	50696	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ血清アルブミン	ウシの血液	カナダ、オーストラリア	製造工程	無	無	有			
2005/11/11	50697	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	D Nase I	ウシの膵臓	アメリカ	製造工程	無	無	有			
2005/11/11	50698	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウサギ抗ヒト血清アルブミン抗体	ウサギの血液	日本	製造工程	無	無	無			
2005/11/11	50699	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	マウス抗HBsモノクローナル抗体	マウスの血液	日本	製造工程	無	無	無			
2005/11/11	50700	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	トリプシン	ブタの膵臓	アメリカ	製造工程	無	無	無			
2005/11/11	50701	あすか製薬株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	下垂体性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	トリインフルエンザ	WHOホームページ2000年5月	ヒトH5N1感染が、2005年1月から4月に北部ベトナムで発生。2004年のアジアの他の地域や同時期に南ベトナムで発生したものといくつかの点で異なっていることが考えられる。相違点としては、北において、南より、症例集積が事例数が増加傾向、発生期間が延長、臨床症状のない感染が検出され、感染の年齢層の広がりや死亡例が減少しているなどがあげられている。これはウイルスが抗原的に多様化していることを示唆しているかもしれない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050704-0040(Direccao-Geral de Saude)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Infection in Medicine 2005;118	厚生労働省は2005年2月4日、日本で初の変異型ヤコブ病(vCJD)を確定したと公表した。この日本人男性患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。
2005/11/11	50702	あすか製薬株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	トリインフルエンザ	WHOホームページ2000年5月	ヒトH5N1感染が、2005年1月から4月に北部ベトナムで発生。2004年のアジアの他の地域や同時期に南ベトナムで発生したものといくつかの点で異なっていることが考えられる。相違点としては、北において、南より、症例集積が事例数が増加傾向、発生期間が延長、臨床症状のない感染が検出され、感染の年齢層の広がりや死亡例が減少しているなどがあげられている。これはウイルスが抗原的に多様化していることを示唆しているかもしれない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050704-0040(Direccao-Geral de Saude)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Infection in Medicine 2005;118	厚生労働省は2005年2月4日、日本で初の変異型ヤコブ病(vCJD)を確定したと公表した。この日本人男性患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。
											トリインフルエンザ	The Jakarta Post Jul 26 2005	インドネシア政府は、ジャカルタ郊外でH5N1型鳥インフルエンザにより死亡した家族は鳥の糞に含まれる鳥インフルエンザウイルスによって感染した可能性があると発表。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Reuters News 2005年7月29日	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005;64(suppl1):A100	サウジアラビアで初のvCJD患者の報告。患者は牛肉を食べ、海外渡航歴として1995年フランス2週間、98年米国1年間UKに4日間滞在がある。遺伝子分析によりPRNPのCodon129はmethionineホモ体であった。
2005/11/11	50703	高田製薬株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	コロナウイルス感染	J of Medical Virology 2005;75:455-62	オーストラリアでの重症呼吸器感染症の原因がコロナウイルスHCおV-NL63to関連があるかもしれない。
											トリインフルエンザ	Virus research 2005;109:181-190	デンマークにおいてまがもからインフルエンザAウイルス亜種としてH5N7が確認された。ヒへの感染は確認されていない。
											感染	Microbiol 2005;43:2009-11	免疫抑制された小児の肺膿瘍から腐敗担子菌Irpex lacteusが分離された。ヒへの伝染は知られていない。
											E型肝炎	Hepato Research 2005;31:178-83	野生のイノシシ肉を食したヒのE型肝炎の報告事例。
											ウイルス感染	日本産産期・新生児医学会雑誌2005;41:54-8	エコーウイルス2型によりウイルス関連血球貧食症候群が発症し死亡した事例。
2005/11/15	50704	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	インスリン	ウシ膵臓	米国	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/11/15	50705	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC	プロテインC	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外には知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											HIV感染、C型肝炎	GBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週間後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合リエントリー。
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。
2005/11/16	50706	ワイス株式会社	ポリフィマーナトリウム	ポリフィマーナトリウム	ブタ血液	オランダ	有効成分	有	無	無	E型肝炎	日本公衆衛生雑誌 2005;52(8S):922	北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染及び重症化の危険因子を検討した結果。
2005/11/16	50707	日本メジフィジックス株式会社	診断薬	人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/17	50708	大洋薬品工業株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	OIEホームページ (http://www.oie/eng/info/hebdo/AIS_54.HTM#Sec3)	2005年6月、中国四川省にて動物間における7株連鎖球菌感染が拡大した。原因菌はブタレンサ球菌2型。感染症例ピークは7月下旬頃、8月6日以降新たな症例は報告されていない。
											トリインフルエンザ	OIEホームページ (http://www.oie/eng/info/hebdo/AIS_59.HTM#Sec2)	インドネシア等東アジア地域でトリインフルエンザH5N1型の感染が蔓延しており、ブタへの感染が認められ、さらにヒトへの感染も生じ、死者まで出ている。
											口蹄疫	OIEホームページ (http://www.fao.oie/eims/upload/191450/fmd_china_empres.pdf)	中国で発生したアジア1型口蹄疫感染が拡大し、近隣国への拡大が懸念されている。
2005/11/21	50709	株式会社第一ラジオアイソトープ研究所	テクネチウム人血清アルブミン	テクネチウム人血清アルブミン	ヒト血液	米国、日本(H17. 6月初旬より、原産国米国から日本へ切り替え)	有効成分	有	無	無	トリインフルエンザ	Nature 2005;437(7062):1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてタミフル(oseltamivir)耐性菌が発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与された。
2005/11/22	50710	日本製薬株式会社	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるcCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞在1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。
											C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	2004年4月、外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。この接着剤は米国で採血された血漿由来で患者から検出されたHCVは欧米に多い遺伝子タイプであった。(2005年4月26日血液事業部運営委員会での報告)
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
											C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。これによる献血量不足が予想される。
											ウエストナイルウイルス	CBER 2005年6月	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
											E型肝炎	CDR Weekly 2005;15(30)	2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニブルテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Blood Service	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってブラスケタイプに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Quebec Center Press July 2005	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
2005/11/22	50711	日本製薬株式会社	人免疫グロブリン	免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるcCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞在1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。
											C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	2004年4月、外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。この接着剤は米国で採血された血漿由来で患者から検出されたHCVは欧米に多い遺伝子タイプであった。(2005年4月26日血液事業部運営委員会での報告)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
											C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。これによる献血量不足が予想される。
											ウエストナイルウイルス	CBER 2005年6月	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるので、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
											E型肝炎	CDR Weekly 2005;15(30)	2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニブルテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Blood Service	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medicine 2005;11(9):982-5	異常プリオンを正常プリオンで増幅するPMCA法というvCJDの新スクリーニング法をテキサス大が開発し、脳内接種によるスクレイピーハムスターを用いた実験で血液中の異常プリオン検出に成功した。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。症状検出前の動物から採取した血液での検出、血漿や分画成分での検出について今後の課題。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Quebec Center Press July 2005	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/24	50712	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	HBs抗原たん白質(huGK-14細胞由来)	ヒトの肝臓	日本	有効成分	有	無	無	トリパノソーマ症	The Weekly Epidemiological Record 2005;80(7):61-4	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											ウイルス感染	PNAS 2005;102(36):12891-6	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウエストナイルウイルス	厚生労働省ホームページ 2005年10月3日	30代の日本人男性がWNV熱に感染し、日本で初の確定例となった。
2005/11/24	50713	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
2005/11/24	50714	セローノ・ジャパン株式会社	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	人尿	韓国	有効成分	無	無	無			
2005/11/24	50715	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	デング熱	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	デング/デング出血熱最新情報2005年・中国(香港特別自治区SAR), 情報源: 香港News.gov.hk, 4月21日。保健保護局は31才男性のデング熱輸入患者を確定し、今年の患者総数は5名となり、全例が輸入患者である。患者は3月12日から27日までインドネシアへ渡航し、発熱などを3月27日に発症、3月28日に個人病院に入院し、4月4日には退院した。この男性の家族で症状を発症しているものはいない。
											デング熱	ProMed20050511-0020(News gov hk,Hong Kong)	中国保健センターは6例目のデング熱輸入患者を確認した。患者と接触した家族に病気の兆候はない。
											デング熱	ProMed20050624-0030(News gov hk,Hong Kong)	中国保健センターは8例目のデング熱輸入患者を確認した。患者と触した者には病気の兆候はない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											感染	ProMed20050625-006(Taiwan News)	保健省疾病予防センターは2000年以降初のコレラ国内感染患者を確定。
											感染	ProMed20050625-006(News.gov.hk)	保健省疾病予防センターは2例目のコレラ国内感染患者を確定。
											感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ, 下痢症, 赤痢 2005年更新 中国(情報源: XinHuaNet.com) 中国衛生部の8月10日の発表によると, 2005年7月の中国全土での感染症患者発生は27疾患390, 418人であった。香港(情報源: News.gov.hk) (WHOコレラ患者報告8/5-11(情報源: WHO Epidemiological Record, 12 Aug 2005 2005)
											感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ更新2005年 香港←インドネシア(情報源: News.gov.hk), WHO報告(情報源: WHO Epidemiological Record, 19 Aug 2005 2005)コレラの輸入患者が確認された。香港で4例目の輸入患者を確認した。この患者はインドネシアで発病し, 香港に8月5日に到着した。この患者の状態は安定しており, Princess Margaret病院に入院した。4例のうち, 1例は国内感染で, 2例は輸入例で, 1例は分類保留である。(2005年8月20日掲載)
											感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ, 下痢症, 赤痢 更新2005年 コレラ-中国(福建省)(情報源: XinHuaNet.com) 中国東部の福建省で2005年8月からコレラ患者が172名発見された。これはここ数年で最も多い。福州で2005年8月12日に最初のコレラ患者やG発見されてからこれまでに一人の死亡も出ていない。現在までに83名の患者が快復し, 病院から退院した。他の患者の容態は安定している。多くの患者が道端の小さな店でシーフードを食べたと言っている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	コレラー中国(浙江省)(情報源: XinHuaNet.com, 10月9日)2005年8月2 5日に最初の患者が発見されて以来、2 005年10月8日現在、158人のコレラ 患者が浙江省東部の嘉興(かこう)(チ アシン)市から報告された。死亡患者は 報告されていない。72人が現在も入院 治療している。同市では水との関連が あり、腸管感染症流行がみられやすい 地域である。保健当局は、感染源は汚 染された水と食物であり、市民は個人 的衛生手段に注意を払う必要があると 述べている。
											感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	原因不明の大量死ー中国(四川省):情 報提供の依頼 ・情報源:新華社通信Xinhua Net, 7月 23日。 中国南西部四川省で過去4週間以内に 現地住民20名が原因不明の疾患に感 染し、うち9名が死亡したと州保健局が 2005年7月23日確認した。2005年6月24 日から7月21日までの間に資陽Ziyang 市の3つの病院では同様の症状を呈し た患者20名が入院した。7月21日まで に患者9名が死亡したが、1名は快復し退 院した。さらに10名の患者が治療を受け ており、うち6名は重症であると、省保健 局は明らかにした。
											感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	原因不明の疾患、スイミングプルー ー中国(内モンゴル):情報提供依頼 2005年7月末以来、内モンゴルの省都 のHohhotの公衆プールを使用した400 人以上の小児が発病した。Hohhotの プールは閉鎖されたが、73名の患者は 現在も入院している。一部の患者は皮 膚の発疹と発熱を呈している。中国衛 生部は、国内全土の衛生署に対し、ス イミングプールの監視の強化を通知し た。 < <a href="http://www.alertnet.org/thenews/new&lt;br/&gt;sdesk/PEK204943.htm">http://www.alertnet.org/thenews/new sdesk/PEK204943.htm</a> > (2005年8月20日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ヒト患者－中国(遼寧省) 情報源: Reuters 中国北東部で最近数週間発生している 炭疽事例で, 1名が死亡し, 12名が感染 したと国営メディアが8月7日に報じた。 炭疽は2005年7月29日に遼寧省瀋陽市 の郊外で発生したと新華社通信がウェブ サイト上で報じた。8月5日時点で Damintun町では, 新規患者は過去5日 間報告されておらず, 現地住民の生活 も正常に戻った。患者11名は病院で治 療を受け, 快復していると伝えられた。
											エボラ出血	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	出血熱－中国(内モンゴル自治区) 情報源: 新華社通信Xinhua News Agency上のNorthern New Times記事, 6月28日。 内モンゴル自治区保健局は2005年6月 27日, 今年自治区全域にわたる感染性 出血熱発生率に関する状況を報告し た。2005年1月1日から6月3日の間に内 モンゴル自治区全域で総計187名の出 血熱患者が報告されている。昨年同じ 時期に比較して発生率は192.18%増加 した。2名の死亡患者があり, 2004年 同じ時期(1名死亡)より100%増加し
											日本脳炎	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	日本脳炎－中国: 疑い 情報源: South China Morning Postウェブ サイト, 香港, 6月3日。 中国甘肅省と広西壮族自治区で2件の ウイルス性脳炎流行が報告され, 100名 以上の小児が感染し, 2名の死亡が報 告された。この状況は全国規模での警 報を発するほどには至らないが, 中国 全土が日本脳炎流行のピークの季節に 当たるため, 今回の流行により保健当 局者は警戒を強めている。香港保健局 広報官は2005年6月22日, 流行調査を 文書で要請したと述べた
											日本脳炎	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	日本脳炎－中国: 疑い 情報源: Gansu Daily / Xinhua, 6月28 日。 中国北西部甘肅省の都市天水Tianshui 市小児における最近の脳炎流行は, 市 感染制御予防センター長官Wang氏によ れば, 一種のウイルス性脳炎である [Moderator注: 検査室診断結果のない 純粹な推測である]。2005年6月24日に 開催された地方保健当局による記者会 見で, Wang氏は3月4日から6月23日ま でに天水Tianshui市内2つの病院では, 発熱と頭痛のため年令1才から13才の 小児を収容したことを明らかにした

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ペスト	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳 しい情報)	ペストー中国(チベット自治区) ・情報源: XinHuaNet.com, 6月25日。 中国南西部チベット自治区Xigaze県 Zhongba郡におけるペストは制圧されたと、チベット保健局報告を引用して中国保健省が報じた。この流行でこれまでに5名が感染したと現地保健省当局者が2005年6月25日述べた。患者は6月13日から18日にかけて発生しており、うち2名が死亡した。 < <a href="http://news.xinhuanet.com/english/2005-06/25/content_3136079.htm">http://news.xinhuanet.com/english/2005-06/25/content_3136079.htm</a> >
											ウシ膿ほう性口 内炎ウイルス感 染	OIE/World animal health situation/ Weekly information / by date	Disease Information 2005年7月1日号 Vol.18 No.26 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.8: 今回報告終了日-2005年6月26日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの発生日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの概要 -Arizona州Navajo郡Taylorの農場(アウトブレイクの発生日:2005年6月13日)、ウマにおいて疑い1例、症例1例
											ウシ膿ほう性口 内炎ウイルス感 染	OIE/World animal health situation/ Weekly information / by date	Disease Information 2005年7月15日号 Vol.18 No.28 米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 10: 今回報告終了日-2005年7月10日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年6月28日):ウマにおいて疑い1例、症例1例、等



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年7月29日号 Vol.18 No.30 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 11: 今回報告終了日-2005年7月24日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Arizona州Yavapai郡の農場(2件):ウマにおいて疑い例25例, 症例2例, ウシにおいて疑い例14例, 等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月5日号 Vol.18 No.31 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 12: 今回報告終了日-2005年7月31日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Mesa郡の農場(3件):ウマにおいて疑い例2例, 症例2例, ウシにおいて疑い例13例, 症例8例, 等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月19日号 Vol.18 No.33 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 13: 今回報告終了日-2005年8月14日 , 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey , アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 , アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 , 新規アウトブレイクの詳細-Colorado(以下C)州Archuleta郡の農場(1件):ウマ(疑い例4例, 症例2例), ウシ(疑い例2) 等

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月26日号 Vol.18 No.34 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 14: 今回報告終了日-2005年8月21日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡の農場(2件):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例1例, 症例1例, 等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月2日号 Vol.18 No.35 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 15: 今回報告終了日-2005年8月28日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡の農場(6件):ウマにおいて疑い例26例, 症例6例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月16日号 Vol.18 No.37 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 16: 今回報告終了日-2005年9月11日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡, Mesa郡, Moffatt郡, Montezuma郡, Montrose郡, Ouray郡 等

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月23日号 Vol.18 No.38 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 17: 今回報告終了日—2005年9月20日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Delta郡, Montezuma郡, Routt郡の農場(4件)(アウトブレイクの開始日2005年8月17日)
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, シカ科Cervidae, 家畜—米国(テキサス州) 情報源:テキサス州動物衛生委員会公式ニュース広報, 7月6日。 テキサス州Sutton郡の飼育場2カ所でウマ, シカ, ウシの炭疽感染患者が検査室診断確定され, 家畜やシカの喪失が報告された同郡内その他の場所数カ所の検査室診断結果は検査中である。(2005年7月9日掲載)
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ウシ—米国(ノースダコタ州) 情報源:米国In-Forum, Fargo, 7月7日。 炭疽検知のため当局が2つのウシ集団を隔離。ノースダコタ州南東部Ransom郡Sheyenne峡谷のウシ集団で炭疽が発見され, 診断がノースダコタ州立大学で確定したことを報じる当局者のコメントなど。 (2005年7月10日掲載)
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ウシ—米国(ノースダコタ州) 情報源:The Horse.com。 2005年7月14日時点で, ノースダコタ州南東部にある11施設で, バイソン(野牛), ウシおよびウマでの炭疽症例が確認されている。今回の流行では, 家畜約30~35頭が炭疽に感染した。全症例がRansomおよびBarnes郡で発生した。 (2005年7月19日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(ノースダコタ州) ・投稿者: Susan J. Keller, DVM(ノース ダコタ州獣医官)。 ノースダコタ州当局は現在, 8郡内の56 施設で炭疽症例を確認している。今年 の夏季中に炭疽により死亡した家畜の 頭数はまだ明らかになっていないが, 現 時点で200頭を越えていると推測してい る。症例が発生している種は, ウシ, ウ マ, バイソン, 飼育されているシカ類, ヒ ツジ, ラマである。 ・投稿者: Dr. Neil Dyer(ノースダコタ州 立大学獣医学診断研究所)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, バイソン, ウシー米国(サウスダ コタ州) ・情報源: サウスダコタ州獣医官Dr Sam Holland獣医学博士記者発表, 7月21 日。 州獣医官はサウスダコタ州 Northwestern Sully郡の牧草地で大型 バッファロー[Plains Bison]と家畜の間 で炭疽が発生したと報告した。2005年7 月20日州獣医官が臨床検体を採取し検 査室に持ち帰り, 診断は7月21日に確定 炭疽, バイソン, ウシー米国(South Dakota) 情報源: Principles and Practice of Infectious Diseases Online, 6th edition 州獣医官Sam Hollandから提供された データおよび情報。流行の始まりに気づ いたのは, 660頭の牛とバイソンの群れ が7月18日に死亡しているのが最初で, 7月20日に流行が確認された。それ以 後155頭が死亡した。 (2005年7月30日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, バイソン, ウシー米国(サウスダ コタ州) 投稿者: Sam Holland (DVM, サウスダ コタ州獣医官)。 2005年7月18日にバイソン(野牛)と肉牛 の群れで炭疽症例が診断されて, 今年 の炭疽シーズンが始まった。これまで に, 検査により37群で炭疽症例が診断 されている。炭疽による死亡頭数は野 牛, 肉牛合わせて330頭に達した。サウ スダコタ州の炭疽症例発生マップが掲 載されたウェブサイトの紹介 ( <a href="http://www.state.sd.us/aib">http://www.state.sd.us/aib</a> )など。 (2005年8月18日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(ミネソタ) 投稿者: Terry Bolding, ミネソタ州動物 保健局 ミネソタ州北西部での状況の更新。いま までにミネソタ州北西部で2例の炭疽症 例が発生した。最初の例はRed Lake FallsとCrookstonの間のPolk 村で発生 した。食肉用牧場で, 50頭の牛のうち10 頭が死亡した。2例目は, Roseau村南部 で, 食肉用牧場の560頭中5頭が死亡し た。 (2005年7月30日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシ - 米国(ミネソタ) ミネソタでの流行は終息したようであ る。5牧場での流行の詳細を記載。 (2005年9月9日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽 - 米国(モンタナ州) 情報源: Dr. Thomas Linfield。 今回の流行に関して, 問題の牧場で は, 8月28日～30日ごろに最初のウシ1 頭が死亡し, 次いで9月4日～5日に8頭 が死亡した。9月10日までは新たな症例 は発生しなかったが, その後新たな死 亡例が発生した。総計でウシ37頭が死 亡したとされる。感染源は確認されてい ない。 (2005年9月18日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(モンタナ州) ・情報源: Washington Post, USA, 9月 16日。 モンタナ州北東部の牧場で, 炭疽により ウシ37頭が死亡したが, 問題の牧場は 現在隔離されている, と州獣医官が9月 15日に明らかにした。 ・情報源: CattleNetwork.com (AP), 9月 16日。 モンタナ州北東部の牧場で, 炭疽により ウシ37頭が死亡し, 今後新たな症例が 発生してもおかしくないと, と州獣医官 が9月15日に述べた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE, ウシ-米国: 疑い ・情報源: MSNBC上のライター記事, 6 月11日。米国産のウシでBSE検査が陽 性となり, さらなる追加検査が結果を確 定するためにイギリスの検査室で実施 されるとUSDAが公表した。 < <a href="http://msnbc.msn.com/id/8182017">http://msnbc.msn.com/id/8182017</a> > ・情報源: MSNBC上のAP記事, 6月11 日。 BSEの感染経路やBSEの特徴, 検査法 や政府対策などに関する一般視聴者向 けの良くある質問集。 < <a href="http://msnbc.msn.com/id/8183299">http://msnbc.msn.com/id/8183299</a> >
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	Alert Messages 米国におけるBSE: (米国における前回のBSE症例がOIEに 報告された日時: 2003年12月(輸入動 物)) 報告日: 2005年6月27日 2004年11月に迅速スクリーニング検査 で検討された際にはBSEと診断確定で きなかった歩行困難なウシが, 2005年6 月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委 託研究所でウエスタンプロット法と免疫 化学法を用いて陽性と確認された。歩 行困難な個体として, 問題のウシはヒト の食糧連鎖からは除外されている。死 BSE, ウシ-米国
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	情報源: USDA記者発表, 6月29日。 米国農務省 (USDA) 主任獣医官 John Clifford氏による声明。「2005年6月第4 週, BSE検査陽性と同定された動物が 飼育されていた個体集団(群)がDNA検 査により同定された。飼主から当局が 入手した情報に基づいて, このウシはテ キサス州内で飼育されている集団で生 育し, 年令が約12才前後であったことが 確認された。問題のウシは, テキサス州 のペットフード工場へ送られ, 到着時に 抜き取り検査検体として選択された。」
											BSE	FDA News	米FDA, BSEに関する調査の結果を報 告 米農務省 (USDA) の動植物衛生検査部 (APHIS) およびFDAは, 2005年6月に牛 海綿状脳症 (BSE) に検査陽性となった ウシに関する調査を完了した。本症例 はテキサスの牧場で生まれ育ち, 死亡 当時は約12才で, 1997年の飼料禁止令 の実施以前に生まれていた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	・BSE最新状況, 2005年, 米国: 3例目 発生の疑い, 情報源: Reuters alertnet, 7月27日。 米国農務省は7月27日, BSEが疑われ ている12才令のウシが, 米国で3例目の BSE症例であるか確認するため, 再検 査される予定であると発表した。農務省 Clifford主任獣医官は, 2005年4月出産 に伴う合併症で死んだ後処分された感 染疑いウシが, BSEスクリーニング検査 で陰性と確定できない検査結果が出て いたことを明らかにした。
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE—米国: 否定 情報源: APHISニュース Deputy administrator Animal & Plant Health Inspection Service発表 2005年8月3日, アイオワ州Amesにある U.S. Department of Agriculture's National Veterinary Services Laboratories (NVSL) は, 2005年7月27 日の報告した中間検査の結果, BSE陰 性であると発表した。
											ウシ膿ほう性口 内炎ウイルス感 染	OIE/World animal health situation/ Weekly information / by date	Disease Information 2005年9月30日号 Vol.18 No.39 米国における水疱性口内炎—Follow- up report No. 18: 今回報告終了日—2005年9月28日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタ イプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4 月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16 日 新規アウトブレイクの詳細 —Colorado州Alamosa郡, Delta郡の農 場(2件)
											ウシ膿ほう性口 内炎ウイルス感 染	OIE/World animal health situation/ Weekly information / by date	Disease Information 2005年10月7日号 Vol.18 No.40 米国における水疱性口内炎—Follow- up report No. 19: 今回報告終了日—2005年10月2日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタ イプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4 月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16 日 —Colorado州Delta郡, Mesa郡の農場 (2件)(アウトブレイクの開始日2005年9 月5日—2005年9月19日)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳しい情報)	水疱性口内炎, ウマ&ウシー米国(ネブラスカ州) 情報源: 米国農務省新聞発表。 2005年10月4日, ニューヨーク州Plum Islandの外来性動物疾患診断研究所は, ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある施設で飼育されていたウシ3頭で, 初の水疱性口内炎New Jersey 株 (VS-NJ) 感染症例を確認した。VS-NJウイルスは, 発病した成牛3頭からの検体から分離された
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE／World animal health situation／ Weekly information／ by date	Disease Information 2005年10月14日号Vol.18 No.41 米国における水疱性口内炎－Follow-up report No. 20: 今回報告終了日－2005年10月9日 病因の同定－水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日－2005年4月27日 アウトブレイクの開始日－2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 －Colorado州Mesa郡, Montezuma郡, Ouray郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9日)
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE／World animal health situation／ Weekly information／ by date	Disease Information 2005年10月21日号Vol.18 No.42 米国における水疱性口内炎－Follow-up report No. 21: 今回報告終了日－2005年10月16日 病因の同定－水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日－2005年4月27日 アウトブレイクの開始日－2005年4月16日 新規アウトブレイク －Wyoming州Bighorn郡Lovellの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月9日): ウマにおいて疑い例2例 等



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/24	50716	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information/by date	Disease Information 2005年7月1日号 Vol.18 No.26 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No.8: 今回報告終了日—2005年6月26日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの発生日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの概要 —Arizona州Navajo郡Taylorの農場(アウトブレイクの発生日:2005年6月13日):ウマにおいて疑い例1例、症例1例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information/by date	Disease Information 2005年7月15日号 Vol.18 No.28 米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 10: 今回報告終了日—2005年7月10日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 アウトブレイクの詳細 —Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年6月28日):ウマにおいて疑い例1例、症例1例、等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information/by date	Disease Information 2005年7月29日号 Vol.18 No.30 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 11: 今回報告終了日—2005年7月24日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 —Arizona州Yavapai郡の農場(2件):ウマにおいて疑い例25例、症例2例、ウシにおいて疑い例14例、等

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月5日号 Vol.18 No.31 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 12: 今回報告終了日—2005年7月31日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Mesa郡の農場(3件):ウマにおいて疑い例2例, 症例2例, ウシにおいて疑い例1例, 症例2例 等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月19日号 Vol.18 No.33 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 13: 今回報告終了日—2005年8月14日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado(以下C)州Archuleta郡の農場(1件):ウマ(疑い例4例, 症例2例) 等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月26日号 Vol.18 No.34 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 14: 今回報告終了日—2005年8月21日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Delta郡の農場(2件):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例2例, 症例1例 等

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月2日号 Vol.18 No.35 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 15: 今回報告終了日-2005年8月28日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡の農場(6件):ウマにおいて疑い例26例, 症例6例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例 等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月16日号 Vol.18 No.37 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 16: 今回報告終了日-2005年9月11日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡, Mesa郡, Moffatt郡, Montezuma郡, Montrose郡, Ouray郡 等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月23日号 Vol.18 No.38 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 17: 今回報告終了日-2005年9月20日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡, Montezuma郡, Routt郡の農場(4件)(アウトブレイクの開始日2005年8月17日)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月30日号 Vol.18 No.39 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 18: 今回報告終了日—2005年9月28日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 —Colorado州Alamosa郡, Delta郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日~2005年9月16日)
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年10月7日号 Vol.18 No.40 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 19: 今回報告終了日—2005年10月2日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 —Colorado州Delta郡, Mesa郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月5日, 2005年9月19日):ウマにおいて疑い例1例等
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, シカ科Cervidae, 家畜—米国(テキサス州) 情報源:テキサス州動物衛生委員会公式ニュース広報, 7月6日。 テキサス州Sutton郡の飼育場2カ所でウマ, シカ, ウシの炭疽感染患畜が検査室診断確定され, 家畜やシカの喪失が報告された同郡内その他の場所数カ所の検査室診断結果は検査中である。(2005年7月9日掲載)
											炭疽	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ウシ—米国(ノースダコタ州) 情報源:米国In-Forum, Fargo, 7月7日。 炭疽検知のため当局が2つのウシ集団を隔離。ノースダコタ州南東部Ransom郡Sheyenne峡谷のウシ集団で炭疽が発見され, 診断がノースダコタ州立大学で確定したことを報じる当局者のコメントなど。(2005年7月10日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(ノースダコタ州) 情報源: The Horse.com。 2005年7月14日時点で、ノースダコタ州 南東部にある11施設で、バイソン(野 牛)、ウシおよびウマでの炭疽症例が確 認されている。今回の流行では、家畜 約30～35頭が炭疽に感染した。全症例 がRansomおよびBarnes郡で発生した。 (2005年7月19日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(ノースダコタ州) ・投稿者: Susan J. Keller, DVM(ノース ダコタ州獣医官)。 ノースダコタ州当局は現在、8郡内の56 施設で炭疽症例を確認している。今年 の夏季中に炭疽により死亡した家畜の 頭数はまだ明らかになっていないが、現 時点で200頭を越えていると推測して いる。症例が発生している種は、ウシ、ウ マ、バイソン、飼育されているシカ類、ヒ ツジ、ラマである。 ・投稿者: Dr. Neil Dyer(ノースダコタ州 立大学獣医学診断研究所)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, バイソン, ウシー米国(サウスダ コタ州) ・情報源: サウスダコタ州獣医官Dr Sam Holland獣医学博士記者発表, 7月21 日。 州獣医官はサウスダコタ州 Northwestern Sully郡の牧草地で大型 バッファロー[Plains Bison]と家畜の間 で炭疽が発生したと報告した。2005年7 月20日州獣医官が臨床検体を採取し検 査室に持ち帰り、診断は7月21日に確定
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, バイソン, ウシー米国(South Dakota) 情報源: Principles and Practice of Infectious Diseases Online, 6th edition 州獣医官Sam Hollandから提供された データおよび情報。流行の始まりに気づ いたのは、660頭の牛とバイソンの群れ が7月18日に死亡しているのが最初で、 7月20日に流行が確認された。それ以 後155頭が死亡した。 (2005年7月30日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, バイソン, ウシ-米国(サウスダ コタ州) 投稿者: Sam Holland (DVM, サウスダ コタ州獣医官)。 2005年7月18日にバイソン(野牛)と肉牛 の群れで炭疽症例が診断されて、今年 の炭疽シーズンが始まった。これまで に、検査により37群で炭疽症例が診断 されている。炭疽による死亡頭数は野 牛、肉牛合わせて330頭に達した。サウ スダコタ州の炭疽症例発生マップが掲 載されたウェブサイトの紹介 ( <a href="http://www.state.sd.us/aib">http://www.state.sd.us/aib</a> )など。 (2005年8月18日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシ-米国(ミネソタ) 投稿者: Terry Boldingh, ミネソタ州動物 保健局 ミネソタ州北西部での状況の更新。いま までにミネソタ州北西部で2例の炭疽症 例が発生した。最初の例はRed Lake FallsとCrookstonの間のPolk 村で発生 した。食肉用牧場で、50頭の牛のうち10 頭が死亡した。2例目は、Roseau村南部 で、食肉用牧場の560頭中5頭が死亡し た。 (2005年7月30日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシ-米国(ミネソタ) ミネソタでの流行は終息したようであ る。5牧場での流行の詳細を記載。 (2005年9月9日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽-米国(モンタナ州) 情報源: Dr. Thomas Linfield。 今回の流行に関して、問題の牧場で は、8月28日～30日ごろに最初のウシ1 頭が死亡し、次いで9月4日～5日に8頭 が死亡した。9月10日までは新たな症例 は発生しなかったが、その後新たな死 亡例が発生した。総計でウシ37頭が死 亡したとされる。感染源は確認されてい ない。 (2005年9月18日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ウシー米国(モンタナ州) ・情報源: Washington Post, USA, 9月 16日。 モンタナ州北東部の牧場で、炭疽により ウシ37頭が死亡したが、問題の牧場は 現在隔離されている、と州獣医官が9月 15日に明らかにした。 ・情報源: CattleNetwork.com (AP), 9月 16日。 モンタナ州北東部の牧場で、炭疽により ウシ37頭が死亡し、今後新たな症例が 発生してもおかしくないと、と州獣医官 が9月15日に述べた。
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE, ウシー米国: 疑い ・情報源: MSNBC上のライター記事, 6 月11日。米国産のウシでBSE検査が陽 性となり、さらなる追加検査が結果を確 定するためにイギリスの検査室で実施 されるとUSDAが公表した。 < <a href="http://msnbc.msn.com/id/8182017">http://msnbc.msn.com/id/8182017</a> > ・情報源: MSNBC上のAP記事, 6月11 日。 BSEの感染経路やBSEの特徴、検査法 や政府対策などに関する一般視聴者向 けの良くある質問集。 < <a href="http://msnbc.msn.com/id/8183299">http://msnbc.msn.com/id/8183299</a> >
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE, ウシー米国 ・情報源: USDA記者室発表No. 0232.05, 6月24日。 農業書記官は2005年6月24日、米国農 務省(USDA)がイギリスWeybridge(国 際BSE委託検査室である)獣医学検査 室(VLA)より、2004年11月に食用供給 から外された動物検体が牛海綿状脳症 (BSE)検査陽性であるとの最終検査結 果を受領したことを公表した。
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	Alert Messages 米国におけるBSE: (米国における前回のBSE症例がOIEに 報告された日時: 2003年12月(輸入動 物)) 報告日: 2005年6月27日 2004年11月に迅速スクリーニング検査 で検討された際にはBSEと診断確定で きなかった歩行困難なウシが、2005年6 月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委 託研究所でウエスタンプロット法と免疫 化学法を用いて陽性と確認された。歩 行困難な個体として、問題のウシはヒト の食糧連鎖からは除外されている。死

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE、ウシ－米国 情報源：USDA記者発表，6月29日。 米国農務省(USDA)主任獣医官John Clifford氏による声明。「2005年6月第4 週，BSE検査陽性と同定された動物が 飼育されていた個体集団(群)がDNA検 査により同定された。飼いまから当局が 入手した情報に基づいて，このウシはテ キサス州内で飼育されている集団で生 育し，年齢が約12才前後であったことが 確認された。問題のウシは，テキサス州 のペットフード工場へ送られ，到着時に 抜き取り検査検体として選択された。」
											BSE	FDA News	米FDA，BSEに関する調査の結果を報 告 米農務省(USDA)の動植物衛生検査部 (APHIS)およびFDAは，2005年6月に牛 海綿状脳症(BSE)に検査陽性となった ウシに関する調査を完了した。本症例 はテキサスの牧場で生まれ育ち，死亡 当時は約12才で，1997年の飼料禁止令 の実施以前に生まれていた。2004年11 月に家畜販売業者を介して販売され， 食品加工工場に輸送されたが，到着時 に死亡しており，その後BSE検査が行わ れたペットフード工場に輸送され，使用 され，2004年11日に死骸が加えられ ・BSE最新状況，2005年，米国：3例目 発生の疑い，情報源：Reuters alertnet, 7月27日。 米国農務省は7月27日，BSEが疑われ ている12才令のウシが，米国で3例目の BSE症例であるか確認するため，再検 査される予定であると発表した。農務省 Clifford主任獣医官は，2005年4月出産 に伴う合併症で死んだ後処分された感 染疑いウシが，BSEスクリーニング検査 で陰性と確定できない検査結果が出て いたことを明らかにした。
											BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	BSE－米国：否定 情報源：APHISニュース Deputy administrator Animal & Plant Health Inspection Service発表 2005年8月3日，アイオワ州Amesにある U.S. Department of Agriculture's National Veterinary Services Laboratories(NVSL)は，2005年7月27 日の報告した中間検査の結果，BSE陰 性であると発表した。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月30日号 Vol.18 No.39 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 18: 今回報告終了日—2005年9月28日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Alamosa郡, Delta郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日~2005年9月16日)
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	水疱性口内炎, ウマ&ウシー米国(ネブラスカ州) 情報源: 米国農務省新聞発表。2005年10月4日, ニューヨーク州Plum Islandの外來性動物疾患診断研究所は, ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある施設で飼育されていたウシ3頭で, 初の水疱性口内炎New Jersey 株(VS-NJ)感染症例を確認した。VS-NJウイルスは, 発病した成牛3頭からの検体から分離された。これらの個体は, 2005年ネブラスカ州で最初の水疱性口内炎症例である。
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年10月14日号Vol.18 No.41 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 20: 今回報告終了日—2005年10月9日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Mesa郡, Montezuma郡, Ouray郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月18日)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年10月21日号Vol.18 No.42 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 21: 今回報告終了日—2005年10月16日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイク —Wyoming州Bighorn郡Lovellの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月9日): ウマにおいて疑い例2例 等
2005/11/24	50717	塩野義製薬株式会社	インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	リゾチーム	ニワトリ卵白	アメリカ	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	WHO inter-country Consultation Influenza A/H5N1 in Humans in Asia Manila May 6-7 2005	H5N1型鳥インフルエンザウイルスがヒトに対する感染性をより高めている可能性が示唆される報告。2005年1月～4月にベトナム北部でH5N1型感染が発生した。しかし、本ウイルスは2004年にアジアの他の地域、及びベトナム南部で発生したものといくつかの点で相違があった。北部では南部と比べて、群発数の増加、群発内の最初と最後の症例間隔の延長、無症候性感染の発現、感染年齢層の拡大、及び死亡例の減少などがあった。
											トリインフルエンザ	OIEホームページ (http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_64.HTM#Sec2.)	2005年6月27日に日本で低病原性鳥インフルエンザ(H5N2)が流行した報告。
											トリインフルエンザ	J of Infectious Disease 2005;192:1318-22	低病原性鳥インフルエンザ(H7N3)がトリからヒトへ感染する可能性があることを示唆する報告。1999～2003年にイタリア北部の延べ6地域で起きた家禽のインフルエンザ(H7N1)とLPAI H7N3の流行中又は後に飼育所の作業員983名の血液中の抗体を調査した結果、2001年までは抗体は見つからなかったが2002年-03年には185名中7名(約4%)に抗体が見られた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/24	50718	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly May 26, 2005/54(dispatch);1-2 Lymphocytic choriomeningitis virus infection in organ trans recipients Massachusetts, Rhode Island, 2005. http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwr.html/mm54d526a1.htm	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
											デング熱	CDC/MMWR Weekly 2005;54(22):556-8	米国居住者で熱帯、亜熱帯地方を旅行した後、2001年～04年で臨床症状及び発症時期からみてデング熱疑いの366名の報告。
											パルボウイルス	Transfusion complications.2005;45:1003-10	S/D処理をした高純度のAHF製剤においてもB19は存在することを示唆する報告。
											ウエストナイルウイルス	J of Heart and Lung Transplantation 2005;24(6):774-6	心臓移植を受けた直後にWNV脳炎を発症した患者の報告。著しい免疫抑制状態の患者が移植あるいは、輸血を受ける際にはWNVが伝播する可能性のあることを認識すべきである。
											ウイルス感染	PNAS 2005;102(36):12891-6	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスを Human bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。
2005/11/25	50719	三菱ウェルファーマ株式会社	肺サーファクタント製剤	サーファクタント	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050629-0020(News24)	2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討されたときにはBSEと診断確定できなかった牛が2005年6月に英国のOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。
2005/11/25	50720	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	ヤギIgG	ヤギ血液	米国、オーストラリア	製造工程	有	無	無	BSE	The Veterinary Record 2005;157:206	フランスのヤギのBSE確認報告。また、実験的なヒツジの群れの間でのBSE汚染飼料摂取によるBSE垂直感染が確認された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/25	50721	株式会社ベネシス	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	アプロチニン液	ウシ肺	米国、ウルグアイ	有効成分	有	無	無	BSE	USDA/050429	米国USDA及びAPHISチームはカナダにおいてBSE症例の疫学調査の徹底的な見直しを行い、共通の原因をしてBSE汚染飼料を消費したことによるかもしれないと報告。
											BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウエイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
											BSE	The Veterinary Record 2005;157:206	フランスのヤギのBSE確認報告。また、実験的なヒツジの群れの間でのBSE汚染飼料摂取によるBSE垂直感染が確認された。
2005/11/25	50722	株式会社ベネシス	乾燥人フィブリノゲン フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	①凍結乾燥注射剤②その他外用	人血液	日本	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	International J of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980~1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。
											インフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(H5NI)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NA Tスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である
											ウエストナイルウイルス	CDC/EID.11(8) 1294-1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
											B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrP <sup>no</sup> サイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
2005/11/25	50723	株式会社ベネシス	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体含有人免疫グロブリンG	人血液	米国	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	International J of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980~1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。
											インフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(A(H5N1)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NA Tスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である
											ウエストナイルウイルス	CDC/EID.11(8) 1294-1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
											B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrP <sup>no</sup> サイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
2005/11/25	50724	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	非献血:米国、献血:日本	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	International J of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980~1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイド案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイド案の改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。
											インフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(H5NI)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NA Tスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である
											ウエストナイルウイルス	CDC/EID.11(8) 1294-1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
											B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrP <sup>no</sup> サイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
2005/11/25	50725	株式会社ベネシス	トロンピン フィブリノゲン加第Ⅷ因子	トロンピン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	International J of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980~1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイド案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイド案の改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。
											トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(H5NI)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NA Tスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である
											ウエストナイルウイルス	CDC/EID.11(8) 1294-1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
											B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrP <sup>no</sup> サイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
2005/11/25	50726	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	有	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	International J of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980~1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイド案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイド案の改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。
											トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(H5NI)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NA Tスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である
											ウエストナイルウイルス	CDC/EID.11(8) 1294-1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											変異型クローンフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
											B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrP <sup>no</sup> サイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
2005/11/25	50727	ZLBベーリング株式会社	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	有	無	パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
2005/11/28	50728	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	ハムスター(ヒトミエロモノサイト細胞を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	無			
2005/11/28	50729	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	抗IFN-γモノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	無			
2005/11/28	50730	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
2005/11/28	50731	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/11/28	50732	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	インターフェロン ガンマ-n1	ヒトミエロモノサイト細胞株	アメリカ	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/28	50733	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	無	無	無			
2005/11/28	50734	日本赤十字社	解凍人赤血球濃厚液	解凍人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイドス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。
											エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡したことが疑われる症例。厚生労働省へは報告済み。
											トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルサンタ・カタリナ州保健局によると、2005年3月、ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生したと発表。ブラジル当局は供血規制を行った。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスパリテーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン <sup>1</sup> の垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド <sup>1</sup> 輸血サービス(IBTS)とアイルランド <sup>2</sup> 当局は、国内で献血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回献血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。献血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ献血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は献血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群 (Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medicine 2005;11(9):982-5	異常プリオンを正常プリオンで増幅するPMCA法というvCJDの新スクリーニング法をテキサス大が開発し、脳内接種によるスクレイピーハムスターを用いた実験で血液中の異常プリオン検出に成功した。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。症状検出前の動物から採取した血液での検出、血漿や分画成分での検出について今後の課題。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrPnoサイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスを Human bocavirus と命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重症呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒへの応用が期待される。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。
											B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。
											B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:807-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを検討する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	J of Clinical Microbiology 2005;43(9):4413-7	日本において、HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNA定量で唾液検体が陰性であってもGCFではHCV-RNAが認められたという報告。HCVの感染経路を考察する必要がある。
											C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけてペインクリニックで汚染されたバイアルの使い回しによるHCV感染拡大の報告。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV - IIの性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
											HTLV	Transfusion.2005;45:1151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチュ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	ドミニカ共和国アルタグラシアとドゥアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。
2005/11/28	50735	ノボノルディスクファーマ株式会社	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	マウスモノクローナル抗体	-	有効成分	無	無	無			
2005/11/28	50736	ノボノルディスクファーマ株式会社	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	スイス	製造工程	無	無	無			
2005/11/28	50737	ノボノルディスクファーマ株式会社	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/11/28	50738	ノボノルディスクファーマ株式会社	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/28	50739	ノボノルディスクファーマ株式会社	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓抽出物	アメリカ及びカナダ	製造工程	無	無	無			
2005/11/28	50740	東レ株式会社	インターフェロンベータ	インターフェロンベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
2005/11/28	50741	東レ株式会社	インターフェロンベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	無	無	無			
2005/11/28	50742	東レ株式会社	インターフェロンベータ	乳糖	ウシ乳	オランダ、ドイツ、ベルギー及びブルクセンブルク	添加物	無	無	無			
2005/11/28	50743	東レ株式会社	インターフェロンベータ	ウシ血清	ウシ血液	オーストラリア及びニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/11/28	50744	東レ株式会社	インターフェロンベータ	トリプシン	ブタ膵臓抽出物	アメリカ合衆国及びカナダ	製造工程	無	無	無			
2005/12/2	50745	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	リボヌクレアーゼA	ウシ膵臓	ニュージーランド、アメリカ	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/12/2	50746	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼI	ウシ膵臓	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/12/6	50747	エーザイ株式会社	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	米国、オーストラリア、ニュージーランド、コスタリカ、ニカラグア、エルサルバドル、パナマ	製造工程	有	無	無	感染	ProMed20051004-0010(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	平成16年度薬事・食品衛生審議会伝達性海綿状脳症対策調査会資料	エタネルセプト製剤中にクロイツフェルトヤコブ病を発生した海外症例が2例報告された。ワイス社はいづれもvCJDを疑わせる所見はなく、TSE感染リスクは低いと判断。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/12/6	50748	エーザイ株式会社	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗不純蛋白質抗体	ウサギ血清	日本	製造工程	有	無	無	感染	ProMed20051004-0010(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
											感染	ProMed20051003-2289(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
2005/12/6	50749	エーザイ株式会社	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗モンテブラーゼモノクローナル抗体	マウス腹水	日本	製造工程	有	無	無	感染	ProMed20051004-0010(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
											感染	ProMed20051003-2289(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
2005/12/6	50750	エーザイ株式会社	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	プラスミン	ウシ血清	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	感染	ProMed20051004-0010(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
											感染	ProMed20051003-2289(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	平成16年度薬事・食品衛生審議会伝達性海綿状脳症対策調査会資料	エタネルセプト製剤中にクロイツフェルトヤコブ病を発症した海外症例が2例報告された。ワイス社はいづれもvCJDを疑わせる所見はなく、TSE感染リスクは低いと判断。
2005/12/6	50751	エーザイ株式会社	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ臓臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	感染	ProMed20051004-0010(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
											感染	ProMed20051003-2289(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	ProMed20050515-0050(The Guardian 5月14日)	2005年5月、インドネシア研究者らはジャワ島のプタから鳥インフルエンザH5N1型ウイルスを検出したと発表。ヒトへの感染伝播の可能性があると懸念している。
2005/12/6	50752	エーザイ株式会社	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換え細胞	ベビーハムスターの腎臓	10数年前に樹立したマスターセルバンクに使用した細胞株のため原産国不明	製造工程	有	無	無	感染	ProMed20051004-0010(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
											感染	ProMed20051003-2289(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
2005/12/7	50753	株式会社ベネシス	ナサルブラーゼ(細胞培養)ウロキナーゼ注射剤	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物 添加物・製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザA(H5N1)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											バルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトバルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NA Tスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である
											ウエストナイルウイルス	CDC/EID.11(8) 1294-1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
											B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrP <sup>no</sup> サイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
											ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。
											人畜共通感染症	J of Infection 2005;51:91-7	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のテング熱のような患者からダニ媒介性キヤサル森林熱に非常に類似した新種のウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などをともなう。致死率は25%であった。感染経路はヒツンやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱となるかもしれない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Siience.2005;310:324-6	慢性的な炎症がプリオンの分布を拡大しうるかもしれない報告。慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した結果、尿はプリオンの水平感染ベクターとなり排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
2005/12/7	50754	株式会社ベネシス	ナサルプラーゼ(細胞培養)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	無	BSE	USDA/050429	米国USDA及びAPHISチームはカナダにおいてBSE症例の疫学調査の徹底的な見直しを行い、共通の原因をしてBSE汚染飼料を消費したことによるかもしれないと報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウエイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
											BSE	The Veterinary Record 2005;157:206	フランスのヤギのBSE確認報告。また、実験的なヒツジの群れの間でのBSE汚染飼料摂取によるBSE垂直感染が確認された。
2005/12/7	50755	株式会社ベネシス	ナサルプラーゼ(細胞培養)	ナサルプラーゼ(細胞培養)	人腎細胞	日本	有効成分	有	無	無	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(H5NI)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6) 1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NA Tスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である
											ウエストナイルウイルス	CDC/EID.11(8) 1294-1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
											B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrPnoサイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
											ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。
											人畜共通感染症	J of Infection 2005;51:91-7	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人の Dengue 熱のような患者からダニ媒介性キヤサスル森林熱に非常に類似した新種のウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などをともなう。致死率は25%であった。感染経路はヒツンやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱となるかもしれない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Siience.2005;310:324-6	慢性的な炎症がプリオンの分布を拡大しうるかもしれない報告。慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した結果、尿はプリオンの水平感染ベクターとなり排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/12/7	50756	株式会社ベネシス	ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン 乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザ(H5N1)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。
											トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100℃)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											ウエストナイルウイルス	CDC/EID,11(8) 1294-1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通の Rickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
											B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrPnoサイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
											ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											人畜共通感染症	J of Infection 2005;51:91-7	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人の Dengue 熱のような患者からダニ媒介性キヤサナル森林熱に非常に類似した新種のウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などともなう。致死率は25%であった。感染経路はヒツシやヤギの直接接か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱となるかもしれない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Siience.2005;310:324-6	慢性的な炎症がプリオンの分布を拡大しうるかもしれない報告。慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した結果、尿はプリオンの水平感染ベクターとなり排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
2005/12/8	50757	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第XIII因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			
2005/12/8	50758	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第XIII因子	血液凝固第XIII因子	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			
2005/12/8	50759	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第XIII因子	トロンピン	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			
2005/12/8	50760	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第XIII因子	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	添加物	無	無	無			
2005/12/8	50761	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第XIII因子	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
2005/12/8	50762	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第XIII因子	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	不明(未発売)	製造工程	無	無	無			
2005/12/13	50763	財団法人化学及血清療法研究所	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシビエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通の Rickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリー
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。
											ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-3	2005年9月、CDCによると、米国で共通のドナーから臓器移植を受けた4名中3名がWNVに感染したと報告。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体およびIgG抗体は陽性を示したがWNV-RNAは陰性であった。
2005/12/16	50764	中外製薬株式会社	インターフェロンアルファ-2a(遺伝子組換え)	ヒト血清アルブミン	ヒト血清	スイス	添加物	無	無	無			
2005/12/16	50765	中外製薬株式会社	インターフェロンアルファ-2a(遺伝子組換え)	マウスモノクローナル抗体	マウス腹水	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/12/16	50766	中外製薬株式会社	インターフェロンアルファ-2a(遺伝子組換え)	ペプトン	ウシ乳	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/12/19	50767	鳥居薬品株式会社	-	アレルゲンエキス	Aspergillus fumigatus	-	有効成分	無	無	無			
2005/12/19	50768	鳥居薬品株式会社	-	アレルゲンエキス	Alternaria kikuchiana	-	有効成分	無	無	無			
2005/12/19	50769	鳥居薬品株式会社	-	アレルゲンエキス	Candida albicans	-	有効成分	無	無	無			
2005/12/19	50770	鳥居薬品株式会社	-	アレルゲンエキス	Cladosporium cladosporioides	-	有効成分	無	無	無			
2005/12/19	50771	鳥居薬品株式会社	-	アレルゲンエキス	Penicillium luteum	-	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/12/20	50772	日本赤十字社	人全血液	人全血液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイダンス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチュ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	ドミニカ共和国アルタグライアとトゥアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。
											マラリア	ProMed20051015-0070(Eurosurveillance 10月13日)	フランス人旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴なし。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もなし。
											トリインフルエンザ	Nature 2005;437(7062):1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてタミフル(oseltamivir)耐性菌が発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与された。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											パルボウイルス	CID 2005;41	パルボウイルスが急速には排出されにくいことを示唆する報告。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン <sup>1</sup> の垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳 <sup>2</sup> のPrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド <sup>1</sup> 輸血サービス(IBTS)とアイルランド <sup>2</sup> 当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダ <sup>1</sup> Hema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群(Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medicine 2005;11(9):982-5	異常プリオンを正常プリオンで増幅するPMCA法というvCJDの新スクリーニング法をテキサス大が開発し、脳内接種によるスクレイピーハムスターを用いた実験で血液中の異常プリオン検出に成功した。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。症状検出前の動物から採取した血液での検出、血漿や分画成分での検出について今後の課題。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrPnoサイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なインシエーターであることが示唆された報告。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(21):13794-6	慢性消耗病感染ミュール鹿の脳組織を接種したリスザルにCWDが感染した報告。
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニブルテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒへの応用が期待される。
											ウエストナイルウイルス	朝日新聞2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。
											ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-3	2005年9月ウエストナイルウイルスIgM,IgG陽性でRNA陰性の臓器提供者から移植を受けた患者4人中3人にWNV感染がみられた。
											ウエストナイルウイルス	CDC Available form	2005年8月-9月のニューヨーク、ペンシルバニアでのWNV感染に関連するQA。
											デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンベロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirnsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。
											B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。
											B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:807-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	第53回日本輸血学会総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											C型肝炎	J of Clinical Microbiology 2005;43(9):4413-7	日本において、HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNA定量で唾液検体が陰性であってもGCFではHCV-RNAが認められたという報告。HCVの感染経路を考察する必要がある。
											C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけてペインクリニックで汚染されたバイアルの使い回しによるHCV感染拡大の報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	Transfusion.2005;45:1151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
2005/12/20	50773	日本赤十字社	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイダンス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrP <sup>c</sup> の分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrP <sup>c</sup> 発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrP <sup>c</sup> が認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP <sup>c</sup> 発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrP <sup>c</sup> は神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン <sup>1</sup> の垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド <sup>1</sup> 輸血サービス(IBTS)とアイルランド <sup>2</sup> 当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDリサーチセンターへ調査を依頼中。結果は8月末。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群 (Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medicine 2005;11(9):982-5	異常プリオンを正常プリオンで増幅するPMCA法というvCJDの新スクリーニング法をテキサス大が開発し、脳内接種によるスクレイピーハムスターを用いた実験で血液中の異常プリオン検出に成功した。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。症状検出前の動物から採取した血液での検出、血漿や分画成分での検出について今後の課題。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrPnoサイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の薄片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。トへの応用が期待される。
											ウエストナイルウイルス	朝日新聞2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。
											ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-3	2005年9月ウエストナイルウイルスIgM,IgG陽性でRNA陰性の臓器提供者から移植を受けた患者4人中3人にWNV感染がみられた。
											ウエストナイルウイルス	CDC Available form	2005年8月-9月のニューヨーク、ペンシルバニアでのWNV感染に関連するQA。
											デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンベロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスを Human bocavirus と命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地域だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NA Tスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。
											B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:807-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の上及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	J of Clinical Microbiology 2005;43(9):4413-7	日本において、HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNA定量で唾液検体が陰性であってもGCFではHCV-RNAが認められたという報告。HCVの感染経路を考察する必要がある。
											C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005 年10月6-9日	2003年3月~4月にかけてペインクリニックで汚染されたバイアルの使い回しによるHCV感染拡大の報告。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV - IIの性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
2005/12/20	50774	日本赤十字社	人赤血球濃厚液	人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイダンス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	ドミニカ共和国アルタグラシアとドウアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。
											マラリア	ProMed20051015-0070(Eurosurveillance 10月13日)	フランス人旅行者1名が2005年8月~9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴なし。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(7062) :1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてタミフル(oseltamivir)耐性菌が発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と見られる。
											パルボウイルス	CID 2005;41	パルボウイルスが急速には排出されにくいことを示唆する報告。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群 (Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medicine 2005;11(9):982-5	異常プリオンを正常プリオンで増幅するPMCA法というvCJDの新スクリーニング法をテキサス大が開発し、脳内接種によるスクレイビーハムスターを用いた実験で血液中の異常プリオン検出に成功した。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。症状検出前の動物から採取した血液での検出、血漿や分画成分での検出について今後の課題。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrPnoサイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(21):13794-6	慢性消耗病感染ミュール鹿の脳組織を接種したリスザルにCWDが感染した報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
											ウエストナイルウイルス	朝日新聞2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。
											ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-3	2005年9月ウエストナイルウイルスIgM,IgG陽性でRNA陰性の臓器提供者から移植を受けた患者4人中3人にWNV感染がみられた。
											ウエストナイルウイルス	CDC Available form	2005年8月-9月のニューヨーク、ペンシルバニアでのWNV感染に関連するQA。
											デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペローフを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirnsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重症呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地域だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。
											B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。
											B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:807-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											C型肝炎	J of Clinical Microbiology 2005;43(9):4413-7	日本において、HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNA定量で唾液検体が陰性であってもGCFではHCV-RNAが認められたという報告。HCVの感染経路を考察する必要がある。
											C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005 年10月6-9日	2003年3月~4月にかけてペインクリニックで汚染されたバイアルの使い回しによるHCV感染拡大の報告。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察した症例経験について。
											HTLV	Transfusion.2005;45:1 151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
2005/12/19	50775	大洋薬品工業株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	OIEホームページ ( <a href="http://www.oie/eng/info/hebdo/AIS_54.HTM#Sec3">http://www.oie/eng/info/hebdo/AIS_54.HTM#Sec3</a> )	2005年6月、中国四川省にて動物間におけるブタ連鎖球菌感染が拡大した。原因菌はブタレンサ球菌2型。感染症例ピークは7月下旬頃、8月6日以降新たな症例は報告されていない。
											トリインフルエンザ	OIEホームページ ( <a href="http://www.oie/eng/info/hebdo/AIS_59.HTM#Sec2">http://www.oie/eng/info/hebdo/AIS_59.HTM#Sec2</a> )	インドネシア等東アジア地域でトリインフルエンザH5N1型の感染が蔓延しており、ブタへの感染が認められ、さらにヒトへの感染も生じ、死者まで出ている。
											口蹄疫	OIEホームページ ( <a href="http://www.fao.oie/ems/upload/191450/fmd_china_empres.pdf">http://www.fao.oie/ems/upload/191450/fmd_china_empres.pdf</a> )	中国で発生したアジア1型口蹄疫感染が拡大し、近隣国への拡大が懸念されている。
2005/12/22	50776	三菱ウェルファーマ株式会社	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)注射剤	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	米国	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/12/2	50777	三菱ウェルファーマ株式会社	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)注射剤	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050629-0020(News24)	2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討されたときにはBSEと診断確定できなかった牛が2005年6月に英国のOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。
2005/12/2	50778	持田製薬株式会社	-	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministerio da saude Direccao-Geral da Saude Comunicado, lisboa (2005年6月9日付)	ポルトガル当局は、ポルトガルで初のvCJD患者を報告した。患者は12才男児。イギリスへの渡航歴はない。CJD共同研究グループのvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。
											レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月3日	2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大。中国当局は206例中38例が死亡と報道。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Reuters Foundation Alter Net newsdesk2005年7月29日	2005年7月、スペインで初のvCJD感染によると思われる死亡例。スペイン厚生省によると、確認のため検体は英国のジンバワの専門家へ送られている。患者は神経組織を多く含む動物製品を食べ、動物も汚染された餌を摂取していたと考えられている。この場合の潜伏期間は5年~10年と思われる。
											ウイルス感染	Reuters Foudation AlertNet Newsdesk 2005年8月22日	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウエストナイルウイルス	厚生労働省 報道発表資料(2005年10月3日)	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infectious Diseases 2005;11(8):1294-6	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日後の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sience.2005;310:324-6	慢性的な炎症がプリオンの分布を拡大しうるかもしれない報告。慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した結果、尿はプリオンの水平感染ベクターとなり排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
											トリインフルエンザ	CDC HomePage 2005年11月7日	WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年～05年のアジア、ヨーロッパでH5N1型鳥インフルエンザの動物、ヒトにおける進展状況。
2005/12/2	50779	持田製薬株式会社	-	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	ヒト(閉経期婦人)尿	中国	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministerio da saude Direccao-Geral da Saude Comunicado, Lisboa (2005年6月9日付)	ポルトガル当局は、ポルトガルで初のvCJD患者を報告した。患者は12才男児。イギリスへの渡航歴はない。CJD共同研究グループのvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。
											レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月3日	2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大。中国当局は206例中38例が死亡と報道。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Reuters Foundation Alter Net newsdesk2005年7月29日	2005年7月、スペインで初のvCJD感染によると思われる死亡例。スペイン厚生省によると、確認のため検体は英国のエジンバラの専門家へ送られている。患者は神経組織を多く含む動物製品を食べ、動物も汚染された餌を摂取していたと考えられている。この場合の潜伏期間は5年～10年と思われる。
											ウイルス感染	Reuters Foudation AlertNet Newsdesk 2005年8月22日	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスを Human bocavirsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウエストナイルウイルス	厚生労働省 報道発表資料(2005年10月3日)	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infectious Diseases 2005;11(8):1294-6	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日後の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science.2005;310:324-6	慢性的な炎症がプリオンの分布を拡大しうるかもしれない報告。慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した結果、尿はプリオンの水平感染ベクターとなり排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
											トリインフルエンザ	CDC HomePage 2005年11月7日	WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年～05年のアジア、ヨーロッパでH5N1型鳥インフルエンザの動物、ヒトにおける進展状況。
2005/12/26	50780	ジェンザイム・ジャパン株式会社	イミグルセラゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎孔血清	ウシ胎孔血清	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/12/26	50781	ジェンザイム・ジャパン株式会社	イミグルセラゼ(遺伝子組換え)	ドナー仔牛血清	ドナー仔牛血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/12/26	50782	ジェンザイム・ジャパン株式会社	イミグルセラゼ(遺伝子組換え)	ポリゼリン	ウシ骨抽出物	米国	製造工程	無	無	無			
2005/12/26	50783	ジェンザイム・ジャパン株式会社	イミグルセラゼ(遺伝子組換え)	イミグルセラゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞	原紙のとおり	有効成分	無	無	無			
2005/12/26	50784	富士製薬工業株式会社	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The New Farm 2005年6月24日	2005年6月24日、米国2例目のBSE確認の報告。2004年11月以降様々な試験を行い、英国ウェイブリッジのThe Veterinary Laboratories Agencyにて確定された。米国農務省(USDA)は今後迅速スクリーニング試験において曖昧な結果のであった場合、直ちにIHC法、ウエスタンブロット確認試験の両試験を行うと言っている。
2005/12/26	50785	富士製薬工業株式会社	トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ又はブタの肺	ウシ:ニュージーランド、ブタ:デンマーク	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The New Farm 2005年6月24日	2005年6月24日、米国2例目のBSE確認の報告。2004年11月以降様々な試験を行い、英国ウェイブリッジのThe Veterinary Laboratories Agencyにて確定された。米国農務省(USDA)は今後迅速スクリーニング試験において曖昧な結果のであった場合、直ちにIHC法、ウエスタンブロット確認試験の両試験を行うと言っている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/12/26	50786	協和醱酵工業株式会社	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	米国	製造工程	無	無	無			
2005/12/26	50787	協和醱酵工業株式会社	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシの血液	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	ProMed20050629-0020(OIEウェブサイト6月29日)	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェリツジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。
2005/12/27	50788	ワイス株式会社	エタネルセプト(遺伝子組換え)	①仔ウシ血清 ②ウシトランスフェリン ③チャイニーズハムスター卵巣細胞	①②ウシ血液 ③チャイニーズハムスター卵巣	①米国②ニュージーランド③不明	製造工程	有	有	無	サルモネラ	CDC/MMWR 2005;54(17):429-33	2004年ミネソタ州保健局公衆衛生研究所は、ミネソタ州のペット卸売り業者が保有する病気のハムスターからサルモネラ(Salmonella enterica 血清型 Typhimurium)が分離されたことを米国厚生省疾病管理・予防センター(CDC)に報告した。この報告は今回の流行に関連して初めて同定されたヒト2症例について記載し複数のペット販売店で購入したハムスターを含むげっ歯類との接触に関連した複数の州におけるネズミチフス菌感染ヒト患者調査を要約し、ペットげっ歯類から飼い主への感染伝播の低減に着手している。
											BSE	USDA Statement June 29,2005	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。
											BSE	USDA Statement June 29,2005	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。
											狂犬病	ProMed20050709-0070(News Agency Regunum 7月7日)	ロシアAstrakhan地域で、飼育ハムスターから狂犬病ウイルスが検出された。2005年1月から5月までに4名死亡している。
											炭疽	ProMed20050709-0120 ProMed20050710-0010 ProMed20050724-	米国における炭疽病のアウトブレイクに関する情報。(テキサス州、ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)
											結核	ProMed20050717-0010(Saukvallyy.com7月15日)	米国 ミネソタ州におけるウシ結核の報告。州当局は900頭のウシを処分する見込みと発表。1971年以降のウシ結核発生。
											炭疽	ProMed20050729-0070(BrandonSun online) ProMed20050812-0110((Manitoba Agriculture)	カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。
2005/12/27	50789	全薬工業株式会社	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ペプトン	原本参照	米国、オーストラリア、ニュージーラ	製造工程	無	無	有			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/12/27	50790	全薬工業株式会社	リツキシマブ(遺伝子組換え)	パンクレアチン	ブタの膵臓由来	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/12/27	50791	全薬工業株式会社	リツキシマブ(遺伝子組換え)	フェツイン	ウシの血清由来	カナダ、米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/12/27	50792	全薬工業株式会社	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ペプシン	ブタの胃液	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/12/27	50793	全薬工業株式会社	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ラードウォーター	ブタ	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/12/27	50794	全薬工業株式会社	リツキシマブ(遺伝子組換え)	D-ガラクトース	ウシの乳汁	米国	製造工程	無	無	無			
2005/12/27	50795	全薬工業株式会社	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血清	カナダ、米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/12/28	50796	日本オルガン株式会社	フォリトロピンベータ(遺伝子組換え)	フォリトロピンベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月3日 2005年8月16日	2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大。中国当局は206例中38例が死亡と報道。2週間後には215名中39名の死亡。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
2005/12/28	50797	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン処理人免疫グロブリンG分画	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合はリエントリー
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。
											ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-3	2005年9月、CDCによると、米国で共通のドナーから臓器移植を受けた4名中3名がWNVに感染したと報告。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体およびIgG抗体は陽性を示したがWNV-RNAは陰性であった。
2005/12/28	50798	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃粘膜	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/12/28	50799	バクスター株式会社	該当なし	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	中国	製造工程	無	有	無			
2005/12/28	50800	バクスター株式会社	該当なし	トロンビン	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
2005/12/28	50801	バクスター株式会社	該当なし	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	有	無			
2005/12/28	50802	バクスター株式会社	該当なし	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ又はニュージーランド	有効成分・添加物	無	有	無			
2005/12/28	50803	バクスター株式会社	乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	有	無			
2005/12/28	50804	バクスター株式会社	該当なし	ヒト凝固性たん白質(フィブリノゲン)加第ⅡⅢ	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
2005/12/28	50805	バクスター株式会社	乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
2005/12/28	50806	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・製造工程	有	無	無	ウイルス感染	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒトヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケツチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合には永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリー。
											ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。
											ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-3	2005年9月、CDCによると、米国で共通のドナーから臓器移植を受けた4名中3名がWNVに感染したと報告。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体およびIgG抗体は陽性を示したがWNV-RNAは陰性であった。